

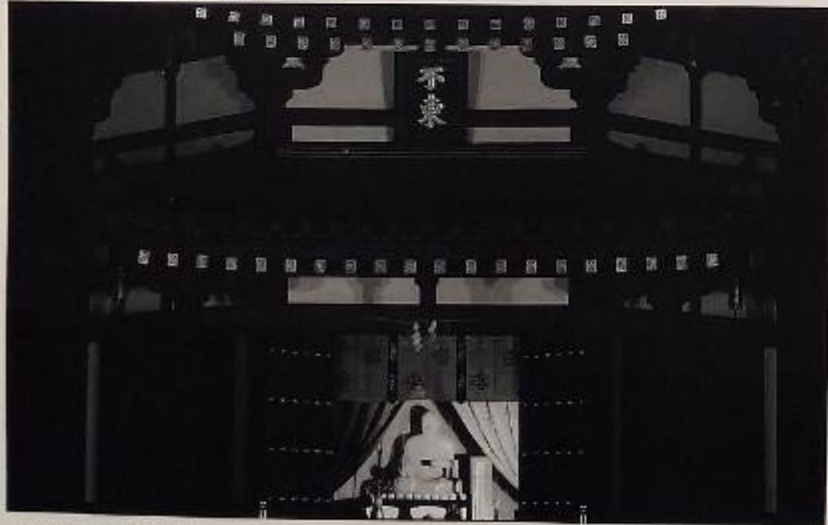






木星は青みをおびて光り  
 火星は赤みがかった光を放ち  
 土星は<sup>蠍座</sup>のそばに浮かび  
 金星は金色の光をまいて沈む  
 月光はしんと降る  
 明月を仰ぎ見て  
 故国や親しい人々を偲ぶ  
 万葉人は  
 織月に美しい人の眉を見  
 月面にみやび男を想像した  
 王朝人は  
 団々たる日月に  
 恋人の丸い<sup>面輪</sup>を重ねた  
 かぐや姫は結婚を拒否して  
 月世界へ帰ってゆく

猿沢池イラトアップ (奈良)



薬師寺・玄奘三蔵院 (奈良)

Photo essay

# 秋の夜

題字 中田 蘭石  
 撮影 由井 収  
 文 松永 恵一



興福寺・五重塔 (奈良)

# 季節の



紋黄蝶とソバ花



ハギ (奈良・かざるいの丘)

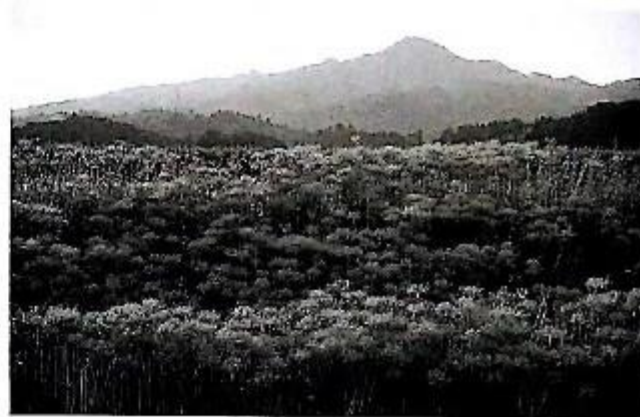


ソバ畑 (近江今津)

# 実景

初秋

撮影 武市通治



ヒガンバナ (湖南アルプス)



コスモス (箱館山)





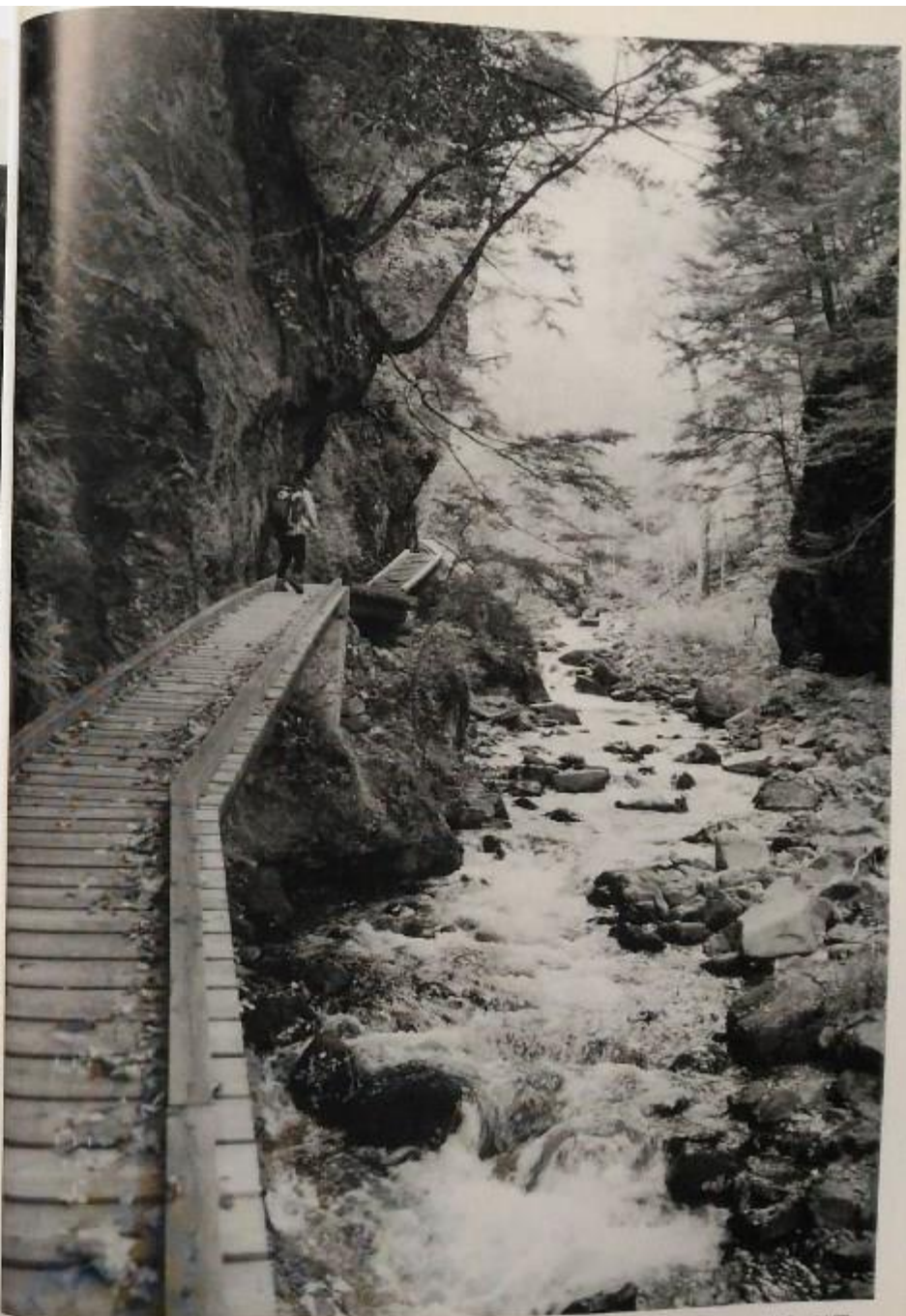
天狗岳より南八ッ達望 (八ッ岳)

吉沢 栄一



硫黄岳燗裂口 (八ッ岳)

吉沢 栄一



島々谷より徳本峠へ (北アルプス)

榎原 計国



●目次

表紙：松田敏男『デングルマの穴と荒川岳・恵沢岳』(南アルプス)

●作者プロフィール●1941年、京都府生まれ。京府市立芸術大学卒。1967年より山岳雑誌、山岳新聞の編集者などを経て、『探険』、『南アルプス』の編集長、東京キナバラレーシング、登山雑誌の編集者として、日本の山岳界に多大の貢献をした。

新作 別冊 奥西の山

1989年9・10月 秋 第42号

|                                |              |             |    |
|--------------------------------|--------------|-------------|----|
| ●1等三角点線(500級以下) 540級程度の記録(第9回) | 九州・東北の山へ進出   | 阪井 久光       | 49 |
| ●中山王子から榎木峠越 熊野街道探検             | 熊野街道探検       | 中村 敬文       | 52 |
| ●文学歴史探訪ハイク ⑧                   | 熊野池に采女姿を求めて  | 松本 恵一       | 56 |
| 二ノス                            | ① 山大倉部山      | 佐佐木 隆一      | 60 |
| ガイド                            | ② 渡路峠の山々     | 山形 謙之       | 62 |
| ③ 青貝山と天台山                      | 柴田 聡彦        | 66          |    |
| 沿線ハイキングガイド                     | 新ハイ関西山行計画と報告 | バス時刻表(松尾山系) | 91 |
| せせらぎ                           | 編集後記・読者書簡    |             | 96 |
| ナビスタクション                       |              |             |    |

●グラビア

秋の夜……… 澁影 中井 収 文 松本 恵一

季節の実業(初秋)「ヒガンバナ」記……… 武市 通治

(口絵) 登塔元師・新原計国・吉沢栄一・奥田英一郎

新橋(山のエッセイ)……… 松本 恵一

四方山誌別一比良追想……… 芝野 康明

元寇の日……… 西尾 寿一

「全農岳」山名考……… 栗田 四郎

大塚ハイク奥比良嶺志記……… 前中 毅

紀行

那岐山と泉山……… 福井 毅治

伊吹堂屋敷……… 鶴見 守康

鬼面山……… 神原 計国

連載 日本登山紀行(番外編)「天石日本地名辞書」……… 淺野 孝一

連載 日本地名辞書(第9回)……… 松田 敏男

連載 比良を歩く⑧……… 生駒 登峰

連載 比良を歩く⑧……… 藤 康夫

連載 カワコルム見聞録⑧……… 藤 康夫

連載 カワコルム見聞録⑧……… 藤 康夫

連載 カワコルム見聞録⑧……… 藤 康夫



大苦羅尾根にて



大苦羅尾根にて



大苦羅尾根にて

巻頭言

「静かな、静かな、里の秋。……お世戸に木の葉の落ちる夜は……」これに懐かしい唱歌の一篇です。秋の夜に、栗木戸にあるクリの葉の落ちる音が聞こえてくる。同じ感じはごに静かな山頂の秋が目に浮かびます。ラジオもテレビも無く、車もバイクもなかったに走らない時代。今からおよそ50年前の日本です。戦後は日本経済成長期を待たない、科学技術も目覚ましい進歩を遂げました。何もかもが便利に早くなりました。しかし、いつの間にか耳ざわりが良くて気分が休まる自然のなかの音が消え、やかましい物の音が囂をかかれています。このことは人間個々に自然の音を聞きとるだけの心の余裕がなくなっているのかも知れません。……と、つづもその自然が少なくなつたようにも思われます。
妙に両首の日本語と外国語がごちゃ混ぜになって歌詞が分からない歌が流行り、娯楽所を遠征しないせむしな携帯電話のベルや話し声。イヤホンから漏れるジャンジャン音。この歌は、遠い静かな山頂の山へ、自然の音に耳を澄ませながら、そっと聴きつづめてみたい気分になってきました。
新ハイキング関西(代巻) 村田 賢隆





克

### 四方山話 (5)

比良道想

芝野 康明

私の山行は、昭和10年頃のハイキング全盛期に始まった。初めて比良を訪れたのは、昭和17年の暮、中学校卒業直後だった。なぜ比良を選んだのか、たぶん友人所蔵の故角倉太郎著『比良連嶺』に魅せられたからだろう。

京津電車で三奈駅から浜大津駅へ出て、江若鉄道に乗り継ぐ。列車は西部側に登場するよう古典型的な木造の車両で、客車の前後の乗降口には展望車風のバルコニーがあり、ここから両引き戸を開けて中に入ると、長椅子が両側に並んでいる。機関車も弁慶号のような細長い煙突のついた小型のもので、それでも一人前に蒸気を吐いて汽笛

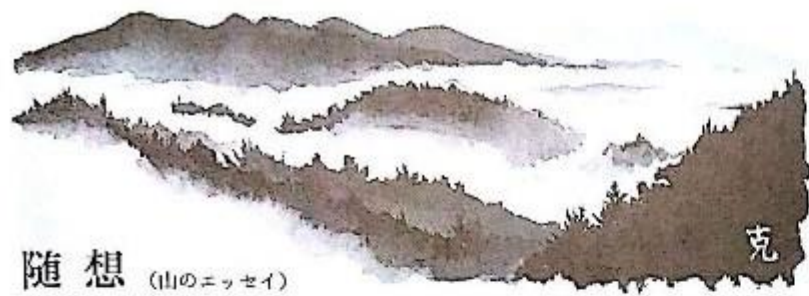
を響かせた。もちろん各駅停車の鈍行で、煤煙で顔を汚しながら約1時間で比良駅に着く。駅は田んぼのなかにあり、西方の天宮宮の森の梢越しにめざす比良の峰々が望見できた。畦道をたどり天宮宮の境内を抜ける。比良川の砂地の堤防に出て、「山の家」の前を通ぎるとメイン谷に到る。

大山口でダケ道と分かれ正面谷に入ると、道らしいものは消えた。大石の累積した川原を赤ペンキ印に導かれて飛び石伝いに進む。谷の北面は石南正屋根からの樹林帯、南面は堂満岳頂上から瀑布のように落ちるガレに呑み込まれそうだが、谷のどんづまりが金堂峠への登り口、荒涼としたガレ場の最奥に「金堂の窓」と呼ばれるキレットが覗く。峠上から木材運搬用の索道が一本通じていた。初体験のガレ場の悪路に四苦八苦し、土埃れになってやっと到達した馬

の背のような峠の上で昼食休憩をとる。

その時の服装は中学校の制服制帽に縮上制靴、毛織のゲートルを巻き、軍手をはめる。二合入りの水筒、背負袋という水筒の白生地を袋状に縫ったものの中に、日の丸弁当などを詰め、解けかけにするといった格好。奥の深谷に一步踏み込むと予想もしなかった銀世界で、約一肩の残雪があった。ろくな地面も持たず、目的地はあっちのほうだろうと迷二無二ラッセルして進むと、急に視界が開けて前方に大きな山が見えた。コヤマノ岳に来ていた。一回元氣を取り戻して武奈ヶ岳の頂上まで競走する。

頂上は雪原で、人の影も見えず、好天に恵まれた。その時の眺望は今でも忘れられないほどの感動を与えてくれた。帰路はイブルキのコバから八雲ヶ原へ出た。雪解けが始まり、



克

### 随想 (山のニッセイ)

何度も標まで陥没したが、それでも疲れは覚えず、北比良峠へ争って駆けおりた。順みるとその無謀さも若さゆえと呆れるばかりである。

戦争という悪夢の時代が終わわり、戦成の登山から趣味の登山ができるようになった昭和21年夏、「アルコウ会」の人たちと、神爾の滝から谷をつめて次郎坊様へお詣りしようとお出かけた。まだ登山の立立とは程遠いもので、稲ズボンの裾に紐を通して絞ってニッカー風に見せ、父の古い背広のチョッキなどを着てお洒落したつもりでいた。いざ山に取りつく、地下足袋・ゲートル・日本手拭の鉢巻に変身。神爾の谷の源頭は思化した砂岩の露出帯で、危うく滑落しかけた。この山行でも他の登山者に会うことはなかった。

仕事と家族のため山行に御無沙汰した約半世紀の間に、比良にはリフトやロープウェイが開

通し、宿泊施設も増えスキー場も整備された。最寄りのJR各駅から山麓まではバスの運行も始まった。比良に登る山行会も盛んに催されるようになった。休日は子供連れの家族で賑わっている。

正面谷には砂防ダムが数ヶ所設けられ、飛び石伝いの道は高捲きの登山道に変わった。ガレ場には崩落防止の鉄柵が設けられて植樹が施され、緑が生れた。

しかし、あくまでも比良はレジャーランドではない。油断と慢心は禁物である。このことを重々承知のうえ、長く温かいお行き合いをお願いしたい。

### 足裏の日

西尾 寿一

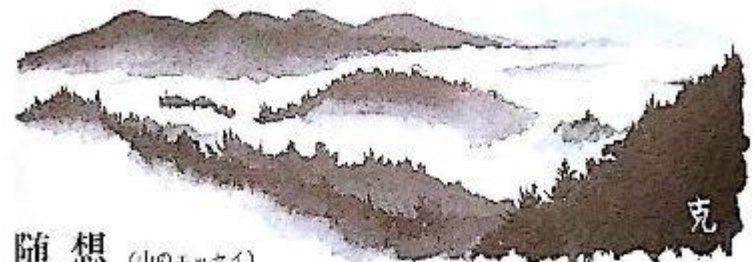
「大和の山」と言う場合、近頃では「奈良県の山」と解釈し、

大峯山脈や台高山脈などを含め、わが国有数の山岳地帯を視野におくのが一般的である。しかし、歴史的な経緯などを考慮すると「大和」とは、山背(山城)域からせいぜい吉野あたりまでの区域であり、「大和の山」と言われるのは「たまたぐく吉野」と歌われた春日山から三輪山と続く東の山と伊賀に続く高地である。

さらに、西は平群から「上山・葛城山」と続く山脈、明日香の南から宇陀・吉野あたりである。いずれの山々も登山(多分にスポーツとして)という見地からは、取るに足りない低山ばかりである。私は、近代登山とは無縁のこんな低山が好きで、ずいぶん昔からひとりで歩きを楽しんできた。その魅力とは何だろうか。

マナスル初登頂のすしきを知って登山を始めた人間が、およそ





随想 (山のエッセイ)

刻様に属するとも思える里山の  
散策をも、同時に好むとはどう  
したことになるのか。  
論理的な答えはすぐに出る。  
それは「日本登山史」を近代よ  
り以前に設定しているとか、近  
代登山と土着・伝統との融合を  
考えているとか、歩く文化の  
(旅の)到達点としての試みとか、  
いろいろの説明はできよう。  
しかし、そんな批判層では説  
明できない遺伝子や血液の同質  
性・風土性といったものの圧倒  
的な力に、意識しないまま屈し  
たのか、あるいは、感性の奥域  
に支配が及んでいるのか、いず  
れにしても自然に足が向くの  
である。  
何も予定のない突然の休日  
で天候も比較的安定している日  
など、いそいそと身仕度をして  
電車に乗っている自分を発見し  
ている。  
昔の記憶に残る道をたどる場  
合、クロスしたり平行する道を

大地の「氣」のようなものがこ  
ころよい癒しとなつて伝わって  
くるのを感じることがある。登  
山者の足跡は、ただの足跡で  
はなく重要な感覚器官なので  
ある。  
その感覚器官を疑って自然や  
山道を知る面白さがある。炭  
焼きの道や釜山の道も、何も見  
えないようなやがのなかから足  
で発見でき、古い峠道からも人  
間の足跡を受け入れた大地の歴  
史が伝わってくる。  
歴史的重層を経た道か、も足  
繁く通った山村民や特定の目的  
をもった人々の通ったことが伝  
わってくる。人々は知らないう  
ちに、そんな道のもつ自然エネ  
ルギーを好ましいものとして受  
け入れているのである。  
自然と人間がつくりだしたエ  
ネルギーは歴史の深さに関係し  
ているように思える。大和の古  
道には他の地方よりそれがより  
深く蓄積されており、例えば地

歩いているとき、記憶と違う何  
かを感じることもある。古い道  
ではあるが、そこから受信する  
る感覚や情報は毎日が新しいも  
のなのである。これは一度や二  
度の出合いでは収集できないほ  
ど大量の民族の遺産が、無造作  
に道端に落ちていてることを意味  
するのではないか。  
古道と言われるものが保存さ  
れる時代である。山の辺・上ツ  
中ツ・下ツ道など、大和に知ら  
れた古道は遺跡と同じ扱いにな  
っているほどである。  
大和に限らず各地に古道に類  
するものが、保存のみならず観  
光化して人々に利用されてもい  
る。  
平安時代の五街道制定、江戸  
期の参勤交代の道などもわが國  
の代表的な古道として知られて  
いる。猪の道・鉄の道・坂の道・  
牛の道といった商品品の通った道  
もまた知られている。

形図にも出ない山道をたどって  
いると、今や地元の特定の人が  
けが利用する道であったとして  
も、足裏から伝わる情報は膨大  
な量である。  
大和の道はあらゆる階層の人々  
が点と点を結ぶ網ではなく、そ  
れぞれの目的をもって通って行  
った網の目のように交錯する道で  
ある。どんな小さな坂道であっ  
ても、本物の「古道」の風格が  
にじみ出ているのである。  
「金葉岳」山名考  
柴田 明彦  
金葉岳は滋賀県と岐阜県の境  
に位置する秀峰で、特異な山名  
で有名である。コースガイドは  
多いが、その山名について考察  
した記事は意外と少ない。  
『地名(山岳)語源辞典』(東京  
出版)によれば、「金葉」は、金  
屎・鉄屎とも書き、鉄屎を意味

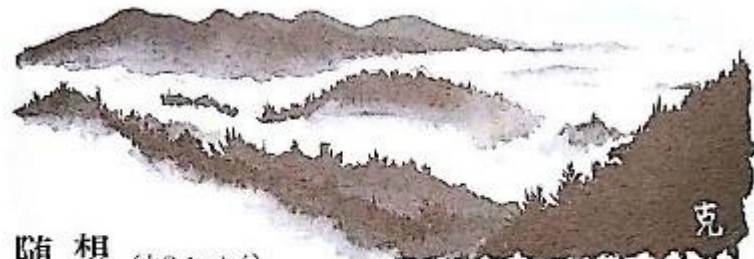
峠を代表とする山村の娘が出稼  
ぎに過つた道が、信州や東北だ  
けでなく近江にも残されてい  
る。  
滋礼の道というのもある。伊  
勢・熊野・秩父・西国・四国な  
ど敷えれば幾らでも出てくる。  
四国などの滋礼道は単純なも  
のではなく、本地師や能楽民の  
道などと複雑にからみあって一  
つにはくくれない多彩な表情を  
つくっている。  
ハイカーや登山者が歩いてい  
る道も山村民の伝統的な古道で  
ある。京都北山の登山コースな  
ども、そうした山村民の生活道  
であった。  
「足の裏に日がある」という  
言葉がある。道の性質を判断す  
る足裏の感性とでも表現すべき  
ものであるが、これがところよ  
い大地のエネルギーを伝えてく  
れる。  
森林浴というの知られるよ  
うになった。道を歩いていると

し、タタラ製鉄の行われた跡を  
示すという。「広辞苑」には、  
①鉄のさび ②鉄を焼いて鍛え  
るとき、はがれて落ちるくず  
③濁りの俗稱」とある。「滋賀  
県の地名」(平凡社)には、かつ  
てのタタラ場、冶金跡を示す  
「金葉、金久留、カナクツ」の  
地名の分布が指摘されている。  
比良の金葉峠には、昔、そのガ  
レ場に金屎があったようである  
(『山村民へ』比良の詩)。  
芝村文彦編『秘境・奥美濃の  
山脈』(アカニシヤ出版、昭和47  
年)によれば、近江側の高山で  
は、「この山は通つてもかすし  
かでないかす山じゃ」という、  
うがった見方をする人があり、  
実際、以前にこの山の西南の滝  
谷で採掘をしていたこともある  
らしい。  
馬場秋風『近江東浅井郡の  
昔話』(平成元年)の「金葉伝説」  
では、「湖北には金葉岳という  
黄金にゆかりのある山があり、





克



克

## 随想 (山のエッセイ)

大籠ハイイク42の5月例会は昨年からの約束通り、「奥比良完全縦走」に挑んだ。

そのスタート地点の武奈ヶ岳へは、イン谷口から最短距離を登っても約3時間を要することなどから、懸崖向きとした。

前中 毅

### 奥比良縦走記

木原ハイイク

『高島町史』(昭和五十八年)には、比良の「カナクノ」の地名は比良花崗岩に含まれる磁鉄鉱を原料として古代(六世紀頃)に和式製鉄法(タタラ)による製鉄が行われたことに由来するといふ説が紹介されていて、大いに興味をそそられる。金蔵岳の呼称も、かなり古くからのものなのかも知れないが、材料に乏しく、今後の説明が必要である。

江戸末期に彦根藩は、甲津原地先の同山麓で金を掘ったことがあり、その産坑は今も尚残っている」と述べている。著者が各地の古老から聞き集めた伝承によるものようだ。

山本武人『近江湖北の山』(テカニヤ出版、昭和60年)には「金蔵岳の山名はどこからきたのか、確信できる書物も話も聞かない」とあり、『近江湖北地志略』などの地誌に金蔵岳の記載がないため決め手を欠くが、以上のような材料から、『コンサイス日本山名辞典』(三省堂)や『日本山岳ルーツ大辞典』(竹書房)などは、金蔵(磁石を溶融する際に生じる滓)に由来するという説を採用している。

今まで知られていない金蔵岳の呼称・別称をまとめてみよう。

(A)「ミタニ」(米谷である深谷)

(B)「ノタ」(泥田、扇地の意味)

(C)「カナスツガ嶽」：寛保二年(1742)『近江湖大絵図』

『近江湖見聞』(山下重政作)「カナスツガ嶽」：文政十一年(1828)『国郡全図』近江湖の図

④「アサ又山」：大保五年(1834)『相見美濃国絵図』(後文川に由来する山名)

⑤「金蔵嶽」：安政三年(1856)『雑見新補近江湖大絵図全』

⑥「金蔵ヶ岳」：明治二十一年(1888)『金蔵山』：明治二十九年高頭式『日本山岳志』

これらの呼称のうち、金蔵嶽については読み方が不明だが、『秘史・奥美濃の山旅』では、杉野川最奥の集落である金蔵原(江戸時代には金井原とも書かれた)の上にある山という意味が転訛したのかも知れないという。柳田国男『地名の研究』では、金井は金砂に通じていて、タタラ製鉄、製錬と関連する地名を示唆している。

『名古屋からの山なみ』と『名古屋周辺 山旅徹底ガイド』(中日新聞社)には、「アサ又山」や「金蔵山」から「金蔵岳」と名前が替わったのは、明治以降のことであろうと推定している。

ところが、筆者が滋賀県立図書館に所蔵されている正保国絵図の写しをカラー印刷で調べてみたところ、「金蔵嶽」と記載されていることがわかった。この絵図は、正保二年(1645)に調進した正保国絵図を元禄国絵図作成のために元禄十年(1697)に書き写したものである。元禄十四年(1701)と天保八年(1837)の国絵図にも「金蔵嶽」とあり、江戸期の官撰国絵図には、この名称が一貫して用いられていたのである。

『大阪周辺の山』(アルペンガイド別冊)に紹介してある、「カナスツガ嶽」からの転訛説はどうやら成立しないようだ。

昨年6月例会「坊村(武奈ヶ岳)・ヨコタ崎(船)」の際、奥比良を縦走中に、指野の間にそびえていた蛇谷ヶ峰を眺めながら、だれからともなく「次回は全部歩こう」などの声があがっていった。そんな要請を受け、西上・水原両サプリーダーとも相談のうえ、実現に向けて昨秋以来検討してきた。

コース設定については武奈ヶ岳への登路だけが問題になる。そこで、前回と同じルートではおもしろくないとの考えから、西南稜を除くとイン谷口からということになるが、青ガレ(金蔵峠)経由も一昨年の10月例会で歩いたので、今回はダケ道から登ることに決めた。年内に二度下見をして、イン谷口出発日時、下山は桑野橋へ18時の予定で山行計画を完成した。

5月14日、すこぶるつき的好天に恵まれ、23名でイン谷口を定刻にスタート。まず最初のボ

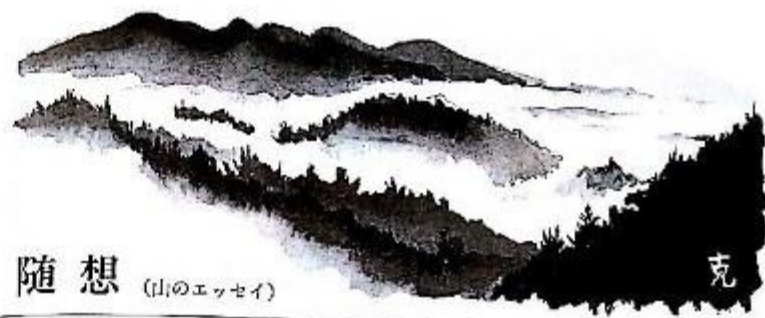
イントであるカモシカ台へは約1時間の予定。

大山口を過ぎてダケ道を20分ほど登ったあたりで、お粗末なことにコースを間違え、34分のロス。私が正規のルートに戻るとよりロスが多くなるので、最後尾だった西上サプリーダーにそのまま先頭をお願いした。

10時55分、八雲ヒュッテ着。10分の休憩をとった。参加者の大半は、下から一気に八雲ヶ原まで登った経験がなかったようだが、西上さんの絶妙のペース配分がそれを可能にしたとも言えるだろう。

武奈ヶ岳まであと1時間、スタート時の隊列に戻って歩き出したが、イブルキのコバ付近で女性一人からリタイアの中し出があり、残念ながら全員での踏破はあきらめなければならなかった。折り返り、私もこむらねがえりが起こりかけて緊張したが、大勢に至らずにはまった。





随想 (山のエッセイ)

克

12時03分、武奈ヶ岳へ登り着いた。五月晴れに恵まれた山頂には、360度見るものない大展望が待っていた。加えて、眼下のコヤマノ岳をおおう新緑がすばらしく、私たちの目をくぎづけにした。

昼食を済ませ、いよいよ奥比良完全縦走にチャレンジ。「蛇谷ヶ峰へ16時20分頃に、ゴール地の桑野橋へは18時頃に到着しよう」と、断言に近い予告を出発した。

細川越への急坂のくさりから一転して急登を約10分。さらにイクワタ峠・ナサ峠と好望の尾根道を北上し、こじんまりとした三角点峰の地蔵山まで登って、後半初めての休憩をとる。武奈ヶ岳から1時間35分を要したのだが、さすがに皆さんの顔には汗が噴き出していた。が、三角点からリトル比良の山姿や琵琶湖を眺めていると、いくら疲れたを感じてきた休に、再び

英気が湧いてきた。

オポフダ峠までは、ゆるやかなアップダウンを少し押さえきみに歩いたが、予定通りの50分間で到着。小休をとり、いよいよ縦走路の北端、蛇谷ヶ峰をめざす。

少しずつ高度を上げながら目的地に向かうトレイルは、山頂直下の15分ほどが急登になり厳しかったが、足の揃った22名は一条乱れず、かつ元氣よく、黄昏が迫まる蛇谷ヶ峰山頂へ飛び出した。時計は16時17分を指していた。

記念撮影の後は、大パノラマの展望を心ゆくまで楽しんで、おやつを食べたりと、各自それぞれに休憩時間を過ごした。

下山は、比良山系では最も濃密な自然林が残っているコースを桑野橋へ。最初はくただって、すぐに反射板のある西峰へ登り返すのだが、これがけっこうきつい。

天狗の森から猪の馬場まで、それこそ切れめなく緑濤の樹海が続く。その快進路のゆるいくだり坂や平地の部分、スビードアップして駆け抜けた。猪の馬場で最後の小休をとり、連えのバスの待つ桑野橋へおり立った。正確に18時ジャストだった。

正味歩行時間(コースタイム)は7時間20分を要した。山池園によるコースタイムは、昭文社版で10時間20分、ちよっと平めのヤマケイ登山地図でも9時間50分と記されていることから、参加者の脚力はワンデイ・ハイクに関してはA級揃いであったと自信を持って報告し、この小文を終わる。



雄大な展望と明るい稜線歩き美作の山二つ

那岐山と泉山

酒井賢治

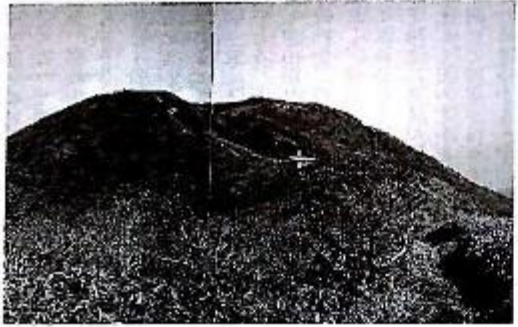
美作

道日、戦場の縦断旅行で岡山県の奥津温泉に行ったおり、二つの山容に魅了された。一つは津山盆地の北に大きく裾野を広げてそびえる那岐山とその連山。以前、後山の山頂から見た展望とは別の山かと思われるほど、それは大きく立派な姿であった。もう一つは、奥津温泉への山脈を走るバスの車窓から見た泉山。こちらは初めて見たが、小さな起伏の繋がりの奥に秀麗なピークをのぞかせていてとても印象的だった。旅行の二日間はずばらしい快晴で、つまらない視光めぐりよりも知らない山に登っているほうが私には楽しいが、年に一度の縦断旅行ともなればそんな自由は許されない。

そこで一ヵ月後の紅葉の始まる季節に、改めてこの二座に登ってみた。

10月11日(土)、大阪駅西口6時30分発中国自動車道路線バス・津山行きに乗り、9時20分津山インター下車、36分発中鉄バス・行方行きに乗り換え、10時ちょうど高川バス停で下車する。帰りのバス時刻を確認し少し進むと、「国定公園那岐山・菩提寺」の大きな案内板があり、左へ幅広い舗装道を北上する。前面に頂上部がガスにおおわれた那岐山と連峰が大きくそびえている。山腹東で歩いているのは私一人、自動車が数台追い越していく。どうやらこの山もマイカー

那岐山1240は三角点ピークより本峰を望む



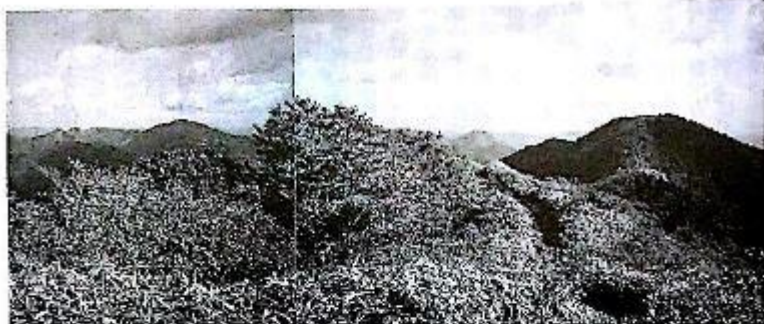
登山が主流らしい。高原秋の馬天領あたりまで来たとき、単独行の青年の自動車が止まってくれた。お陰で長い車道歩きが助かった。菩提寺への分岐点を少し上がった駐車場に10時35分着く。十台ばかりの自動車が停車していた。

青年よりひと足先に出発し、樹林帯の林道を登る。途中右の谷に蛇道の流が響かっているというので、見物に行ってみ









1198ピークより泉山を見る（泉山の左が角ヶ仙、中央左が花知ヶ仙）

鞍部には縦走路から少し離れて津山高校の山小屋が建っていた。小さなピークを越えてカラマツやアセビが林立する井水山北面を登り返し10時10分、1150級の山頂に着く。

ここからの展望もすばらしく、泉山や1198峰、そしていま歩いてきたばかりの縦走路をふり返った。標識に従って西側の樹林を少しくだつて現岩を探索する。山腹から垂直に落ち込む瀉岩の下にすり鉢状に緑の発泡が広がっていた。10時40分、井水山をくだる。途中にある露岩から覗き岩の断崖を見る。鞍部から樹間のなかをゆるやかに登り返し展望のない1035峰地点を通過する。樹林を抜けると左・楡の岩木、右・ササにツツジやカラマツが点在する道となり、西側の展望を楽しみながら、遠くうっすらと見えている大きな山は大山であるうか。

五、六人の登山グループが登って行った。11時20分、裾ヶ丸に着き、クマザサに囲まれた明るい峠で早めの昼食をとる。林から西に向きを変えくぐる。すぐ谷の源流域となり谷に沿ってくぐるとやがて樹林や杉の植林のなかの道となり、30分

程で井水山峠道にくだり着いた。一泉山登山道」の標識があった。さらに地道の林道をくだる。後方をふり返ると井水山西面に覗き岩が大きな古い崖壁を垂直に落としていた。

泉宮神社、登野の集落を通過し12時40分、中俣バス奥津中学校前に着き、50分発の津山行きバスに乗る。車窓から明るい青空に稜線をのぼる泉山連山を見えなくなるまで眺めた。

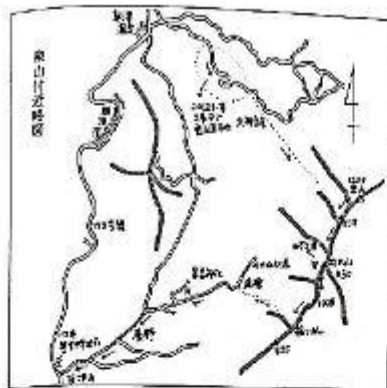
（平成9年10月11日、12日歩く）

△コースタイム▽

（一日目）  
高円バス停（40分）登山口（1時間40分）  
那岐山三角点（10分）本峰（10分）下降点（1時間30分）善興寺（1時間）高円バス停

（二日目）  
奥津温泉（車）大御宮原（1時間20分）  
1198ピーク（10分）泉山（40分）  
井水山（40分）裾ヶ丸（1時間40分）奥津中学校バス停

△地形図▽  
2万5千1日本原・大青（那岐山）  
奥津・善々美（泉山）



川下流にできるダム計画に伴う国道の新設工事や、大御宮原でのゴルフ場新設工事のため、いたる所で寸断されており、初めての人には登山口は見つけにくいとのことであった。実際、現場は工事用の道路が網目のように設けられ、登山の取り付き点にしても道路より一段高い切り通しの上にあつたので、私だけではおそろしく見つけられなかつたであろう。民宅のご主人の親切に感謝したい。さきうも快晴だ。

7時20分、泉山への登山道にのる。このあたりはもう標高6000程度の高原で、

前面に泉山とさきよう縦走する山並みが一望のもと。この一帯はガイド誌によれば牧場とのことだが、それらしい風景はなかった。左・灌木帯、右・草原の間の道をゆるやかに登り、西阿が建つ展望所に着く。しかし、灌木が繁り展望なし。ここから山道となり小さなゲートを潜って泉山北西屋根に取りつく。左・広葉樹林、右・植林の尾根道は登るにつれて急勾配となるがそれだけ一気に高度が稼げた。左の斜面を通過して主稜線と泉山の頂上部を垣間見る。稜線の向こう側に開ける展望を期待して最後の脱突八丁を急登し8時40分、稜線上のピーク1198峰に着く。

コササにおおわれた丘状のピークは、登ってきた奥津方面は灌木に遮られるものの他は全開で、すばらしい展望が広がっていた。近くに大きな尾根を谷にのぼす台形状の泉山、南に続く井水山へのササ尾根のなかの縦走路、遠く霞む津山の山地。明るくおおらかな展望だ。

ここから左右に開ける展望を楽しみながら10分程歩いて9時前、1209峰、一等三角点の標石埋まる泉山頂上に着いた。

一段高い北側山頂からは、北に角ヶ仙のピラミッドやのびやかに横臥する花知ヶ仙などの山々、眼下に先程歩いてきたばかりの大御宮原の広大な草原、東方遠くには昨日登った那岐連峰、そして南にはこれから縦走する山稜が飲々と続いていた。一刻して中年のご夫婦が登頂、今朝4時に姫路市を出発してのマイカー登山とのこと。9時30分、山頂を後にして1198ピークまで引き返し、足元がササにおおわれた縦走路を南へくだる。快晴のもと、展望を楽しみながらのすばらしいプロムナードだ。

登山に必要なものは、  
国産・舶来  
すべて揃っています。  
足にピッタリノ  
登山靴のことならお任せ下さい。  
(定休・火曜日)

〒604-0077 京都市中京区大太町通扇川東入  
☎ (075) 211-5768  
℡ (075) 231-0318

山とスキーの専門店

**京都 ムラカミ**



# 伊吹北尾根

鷺見守康

美濃

伊吹山頂麓部からドライブウエイを横切り、北に静馬ヶ原から御釜峰・大禿山、そして国見岳を経て国見峠に至る後線を伊吹北尾根と呼ぶ。最高標高は、静馬ヶ原のすぐ北のピーク1149mである。

昭和35年から四年半の歳月と延べ千人余りの入手をかけ、大垣山岳協会が道を開いたもので、「大垣新道」と称されて現しまれていく。静馬ヶ原という地名もそのときに名付けられたそうである。

伊吹山本体と同じく、石灰岩で形づくられた山塊全体は植物相がたいへん豊かで、美濃地方の山岳の中では、美山町の舟伏山と並び、おそらく花の山としてはトップクラスだと、私は考えている。

ヒヨドリバナはキク科フジバカマ属の花で、秋の七草のフジバカマの近縁種である。フジバカマは絶滅したのではないが、とも言われており、私も野生種を見たことがない。七草のなかでは、キキョウにしても希少種になってしまったのか、山中では南アルプス北岳の山麓で出会った程度である。

銀助平からすぐ国見岳である。ここからアップダウンを繰り返して、行く手には、次第に大きくなる伊吹山を見つめながら、大禿山・御釜峰とピークを越え、ドライブウエイ直下の静馬ヶ原で吹き渡る風に身を任せたのも、ツバクロ壁をトラバースし、笹又谷のさざれ石公園へくたるというコースである。

夏から初秋にかけての低山は、草木が生い茂って登山道におおいかぶさり、やぶ状となって歩きにくいものだが、登山道はきれいに下草刈りがしてあった。歩きやすい反面、花も多少刈り取られてしまったようだ。

尾根にはキク科・キキョウ科・リンドウ科・キンボウゲ科トリカブト属など、秋の花たちが色とりどりに咲いている。キク科では、日本海型の野草であるク

ただハイキングコースとしてのこのコースの難点は、交通の便が悪く、マイカーを使用したとしても登り口と下山口が遠く離れ、コースの完走が困難な点にある。そのためか伊吹山と比べて、訪れるハイカーは格段に少ない。

## 秋

平成9年9月、新ハイ例会山行で歩く。当日は天候が思わしくなく、空いっばいに雲が重く垂れ込めていた。参加者の協力を得て、下山口の「さざれ石公園」にあらはじめマイカーの一部を配車。残りのマイカーに分乗して登り口の国見峠に到着した頃には、雨模様となった。雨具

ルマババダマ・オオカニコウモリ、ほかにはアキノキリンソウ・ヤクシソウなど。キキョウ科はツリガネニンジン・ツルニンジン、リンドウ科はアケボノソウ・ツルリンドウ、トリカブト属では、イブキレイジンソウ・イブキトリカブトなど。

秋の低山でよく見かけるミヤママコナも、コース中に散在している。ミヤママコナのミヤマとは「深山」の意味なのだが、近縁種のマコナと比較しても、私には、より低山にたくさん生えているという印象が強く、誤って名前が付けられたのではないかと考えていた。けれどもこの年の夏、北アルプス英師岳の太郎平付近に見つけて、いぶん驚いたことがある。どうやら、低山と高山とに隔離的に分布するようで、名前を付けた人は、ひょっとすると高山で初めて目にしたのかも知れないなどと思っただけだった。

ミヤママコナは、低山でも高山でも花姿も名前も変わらないが、春爛漫の頃、この大垣新道を鮮黄色に染め上げるキンボウゲ科のウマノアシガタは、夏のアルプスをも彩る花となり、名前をミヤマキンボウゲと変える。厳密に言えば、種が異なるのかも知れないが、ほとんど区別

伊吹山へ続く春の北尾根



を避け、総勢22名で出発。植物相の豊かな山を季節を変えて歩くのは、初めての山を歩くような期待感に心が踊る。

早春にはイワウチワの花が咲き並ぶ樹林帯をしばらく歩き、国見岳北面の短い岩場斜面を登りきり、第二電線のバラバラアンテナが立つ銀助平に出ると、ヒヨドリバナが咲いていた。

ができない。ツリガネニンジンは高山では名前と共に花姿も変化させる。ハクサンシャジンという名で、丈が低く花を密に付ける。アキノキリンソウは登山口から高山にまで咲き続けていることもあり、高山ではミヤマアキノキリンソウと区別が、覚っていく途中では、どちらと違ってよいか迷うような中間型もしばしば出現するので。

天候は、一時雨脚が強くなったものの、やがて回復に向かい、吹き競う花にも励まされて快適なハイキングとなる。秋は木の実は季節でもあり、いくつかの樹木が実をつけていたが、ツツジ科スノキ属のアクシバの実は、とてもさわやかな酸味があっておいしい。高山にあるコケモモ・クコマメノキ・クロウスゴなどは、よく知られたブルーベリーと同じ仲間である。

伊吹山には、イブキレイジンソウとかイブキトリカブトなど、伊吹山の名をとった植物も多く、そのなかには特産種もある。伊吹山の北斜面にあたるツバクロ壁に群落をつくっていたイブキコゴメグサもその一つであり、コゴメグサの花には高山でしか出会ったことがない私は、







## 中央アルプスの展望台

# 鬼面山

鬼面山の名を聞いたことのある人は、そうはいないだろう。鬼面山(1389.3m)は伊那山地の最高峰で、中央アルプスと伊那谷の格好の展望台となっている。私も最近まで山名すら聞いたことがなく、たまたま中央アルプスの展望がきく山を探ため伊那山地の地図を眺めていて、その最高峰が鬼面山という名の付いたピークであることを知ったくらいだった。

登路を調べてみると、豊丘村から蛇川沿いの林道をつめた所からのコースと、反対側の地藏峠からのコースが主なもので、今回は豊丘村からのコースを登ることにした。

## 榊原計国

# 伊那

名古屋方面からだ、飯田市よりなお林道をかなりつめる必要があり、また登山所要時間もけっこうかかるので、前日は飯田市に泊まり朝一番に出かけることにした。

宿は、飯田の西側、飯田インターから15分ほど車で入った松川沿いの回越峠の「のんび荘」という料理民宿にとった。風越峠は飯田の人たちに、「飯田の奥聖敷」と呼ばれ、夏は避暑地、秋は紅葉の名所として親しまれている所である。また、この民宿は、私の中央アルプス方面や伊那谷の山々への出撃基地として、いつも利用しているなじみの宿である。

主人は、おいしい水で自分の打った蕎麦

鬼面山から中央アルプスの全景を見る



に通う人たちもいるようだ。たしかにその蕎麦は、主人が厳選したそば粉を使い、「これが本当の蕎麦か」と納得できるものである。炭はその手打ち蕎麦と、幾種類かの純米酒の中から自分の気に入ったお酒を少々いただいて、翌日に備えることにした。

翌朝、6時半に宿を出発。国道153号線から天廻川を明神橋で渡り、豊丘村の野田平キャンプ場をめざして、どんと山へ入っていく。坂島の集落を左に選り、小さなトンネルを抜ける。さらに橋を渡った所で左右に分かれるが、キャンプ場とは反対の右へ曲がる。最後に大きく左へ曲がる所で、大島へ行く道を右



に分けて行く。少々心細くなるような林道をつめる。

私たちは、手前の反転できそうな道幅の所で車を止め、林道終点まで20分ほど歩き、秋を存分に楽しんだ。狭くて少々危ういこの林道は、ゆっくりと車を進めるか、早目に車を駐め、秋な紅葉、春であれば新緑をじっくり楽しみながら歩くほうがよいだろう。

信州はカラマツの植林が相当に進んでおり、今ではそれが信州の風景の代表の一つでもあるのだが、やはり二次林のような新緑や紅葉の美しさは今ひとつと言わざるを得ない。それは、伊那地方においても例外ではなく、ほとんどの山々はカラマツ林になっている。その中において、この伊那山地の伊那谷側には、まだけっこう二次林のすばらしい森が広がっており、このときの紅葉はともすればらしいものだった。山頂からの展望とこの道中の二次林のすばらしさが、鬼面山登山の魅力を二分していると言っても過言ではないだろう。

林道終点は少し広くなっており、駐車でき、反転するスペースがある。いよいよここから道は細くなり登山道の始まり

である。すぐに小さな支流を一本越え、道は蛇川本流右岸の斜面に張りつくように登っている。二つ目の砂防ダムを乗り越すと広い河原に出るが、道筋は明瞭で、所どころケルンが積んである。その後、道は右岸沿いにあるが、河原を過ぎてから5分も歩くと、一本の大きなトチの木に出くわす。根元にある立札によれば、昭和35(40)年にこのあたりの原生林は皆伐されたそうだが、唯一このトチの木一本を残したそうだが、樹齢は三百年以上、他を圧倒するような偉大さで、何か神秘的なものさえ感じてしまう。「どうして一本だけを残して皆伐してしまったのだろうか。このトチの木ほどの大木はそれほどはなかったとしても、それなりのすばらしい森が広がっていたはずだ」と思うと、とても残念だ。

大トチの木のそばから少し分れて左から入ってくる支流を渡ると、道は蛇川本流の谷から離れ、左の斜面に取っつき本格的な急登が始まる。道は下草が刈ってあるなど、とてもよく整備されていてやぶこぎも送るような所もない。しかし、元々長年かかってできたあがった仙人の道でもけもの道でもない。言わば強引につけた



登山道であるため、残念ながら歩きやす  
い道とは言えない。急斜面の山腹をジグ  
ザグに登っていくのだが、ここがこのコー  
ス最大のがんばりどころだ、40分余りひ  
たすら登っていくと、やがて尾根上の道  
となり傾斜もゆるむ。時折、樹林から垣  
間見る中央アルプスの姿が、一服の清流割  
であり、山頂での眺望を期待させてくれ  
るものだった。

尾根道に出てからは所どころにある平  
相地であちこちと休息をとり、広がり  
ていく視界を楽しみながらのんびりと登っ  
て行く。鬼面山より北西にのびる尾根に  
のると、昔ながらの仙道となり、まわり  
になじんだ感じがしてくる。ノワカガミ  
の群落が現れると、山頂まであとひと息  
だ。最後の急登をひと踏ん張りすると、  
突然舞台の上にあがるようにして山頂に  
着く。

山頂からは天龍川と、それを挟んで広  
がる伊那谷の風景、そしてその向こうに  
中央アルプスの全景が、何の障害もなく  
眺められる。以前、やはり中央アルプス  
のパノラマ展望を求めて、ここから少し  
南の雪山(1600・3層)にも登ったこ  
とがある。道中から山頂においてもずっ

と視界は開けず、がっかりとしたことが  
あった。きょう、この鬼面山からの眺望  
は長年の私の夢を叶えてくれた。まさに  
ここは中央アルプスの展望台として完璧  
といえてよい。南方面は、幸木曾岳・恵  
那山、そしてはるか向こうの駿嶽には、  
愛知県境の茶臼山もチョコンと山頂を突  
き上げて、その存在をアピールしてい  
る。

山頂には、豊丘村が設置した登頂記念  
帳と記念スタンプの入ったポストがあり、  
自分の手帳にスタンプを押し、ノートに  
記載してきた。ここまで来なければ得ら  
れぬスタンプかと思うと、たいしたもの  
ではないがうれしくなる。

山頂にはもう一人来られていて、その  
人は反対側の地蔵峠から登られたとのこ  
と。地蔵峠まで車で入ることができると  
で、豊丘村からよりは短時間で登頂でき  
そうだった。しかし、飯田から地蔵峠まで  
時間がかりそうだった。

船りは、パートナー(私の妻)がとて  
も恐がりやだったこともあり、特に急坂  
の所はゆっくりとおりてきて、登りと同  
じくくらの時間をかけた。このくらのほ  
う山はあせらずあわてず、ゆっくりのほう

が味わい深いようである。  
けっきょくこの日、豊丘村から鬼面山  
をめざしたのは、私たちだけだったよう  
だ。こんなすばらしい紅葉まっ盛りの世  
界も、特にこれといったものがなければ  
ほとんど頼みられないのかと思うと残念  
な気がする。  
現在の登山ブームのなかで、ある特定  
の山域、特に百名山などへの集客が自然  
荒廃などの問題を引き起こしているよう  
だが、もっと素朴に自然な気持ちで自然  
と向き合うことも必要ではないだろうか。  
そうした姿勢を持って自然と向き合うと  
き、より多様な山歩きの形が出てくるの  
ではないだろうか。  
(平成9年11月3日歩く)

- ▲コースタイム▼  
中央道飯田インター(車・1時間30分)  
史川沿いの林道終点(30分) トチの木  
(1時間) 鬼面山北西尾根(1時間30分)  
鬼面山(2時間30分) 林道終点  
▲地形図▼  
2万5千1上久堅・下市田  
▲連絡先▼  
0265(22) 0755  
のんび荘

# 連載 日本霊山紀行 番外編(補遺)

## 『大日本地名辞書』 吉田東伍著

浅野孝 一

江戸期以後、作成された最大の地誌は  
『大日本地名辞書』全八巻ではないかと  
考えられる。

著者の吉田東伍は、歴史家・地理学者  
であった。元治元年(1864)、新潟県  
北新原郡に生れ、大正七年(1917)、  
千葉英子の嫁館で死去した。享年53歳。

吉田の著書は『日韓古史断』その他  
の著書があるが、四十年間にわたっての大  
著は『大日本地名辞書』である。これは  
陸軍陸地測量部発行の地形図・古地図・  
古文書等々あらゆる資料を駆使して完成  
させた。それ故山岳に関する記述につい  
ては、高塚式編纂の『日本山岳志』に  
劣るとして、山岳以外の地理・歴史・

寺社仏閣に関しては後者をたよるほかに  
手取はないほどで、日本各地において発  
刊された古い資料等を含んでいる。

辞書第一巻は「汎論・索引」であって、  
『日本風景図』の著者志賀重昂は、『大日  
本地名辞書ヲ評ス』において「空々タル  
大版、一頁、三千三百字、全部一千二百方  
字、其ノ重量ニ於テ本邦空前ノ出版物タ  
リ、彼ノ『群書類従』ノ如キ空前ノ大出  
版ト称スト雖モ、重量ニ於テハ此書ニ下  
ルガ上ニ、而カモ題字ハ懸従ノミ、他人  
ノ著述セシモノニ類ス、是ヲ以テ儼々  
ル一大著述『大日本地名辞書』ニ比較セ  
ントスルハ到底其倫ヲ失フモノトス、要  
スルニ『大日本地名辞書』ハ建國三千年

以来ノ大出版物タリ。」と評し、あた  
かも吉田の代弁者のごとく使用した参考  
書等について述べる。即ち「単純ナル参  
考書ノ種類ニ就キ云ハシカ、一個學大ナ  
ル(宅坂廣)ノ部ニ於テ四十四種ニ上レ  
リ、即チ古事記 扶桑略記 異書 国牛  
通鑑 和名抄 日本水略志 三才圖會」  
と記している。

吉田は使用した参考文献、資料等につ  
いては、その内容についての信憑をも判  
断し、その信憑の原因についての類説を  
試み、辞書の内容の正確を期している。  
各巻は

- 第一巻 汎論・索引
  - 第二巻 上方
  - 第三巻 中国・四国
  - 第四巻 西国
  - 第五巻 北国・東国
  - 第六巻 坂東
  - 第七巻 奥羽
  - 第八巻 北海道・樺太・琉球・台湾
- に分かれている。日本各地方の区分につ  
いては吉田流の区分法がとられており  
「関東」と言わず「東東」という名称をあ  
たえている。そのことについては「坂東  
利根川水系の大平野にあたり、其八國は



東海東山道に属す。……坂東とは足柄、稚日の東の義に出で、山東と云ふ者と実を一にす。中世以來関東と云ふ語と相渉り、稍混淆あり。……」とあり、今日私たちが使用している「関東」「関西」の説明は、江戸期の伊藤梅子の著した『見聞談叢』(岩波文庫)に「三七」関東・坂東。連坂の關より東を「関東」と稱す。石坂より東を「坂東」と稱す。これも太平記のすこし前よりの事ならん。」とあり、吉田が坂東と稱する意味がわかる。

また私は前著「関東金盃山紀行」執筆中でも少しは「上野国誌」「下野名勝記」の二つの辞書を多用した。特に金盃山紀行が日本全国に広がってくると、手持ちの文献等では手に負えなくなり、「日本山嶽誌」やこの辞書のごやっかいになった。吉田東伍の生没については前述したが、その業績について記してみる。吉田の學歷は明治十七年(1884)4月新潟学校師範部の中學校が最終學歷である。爾後独学にて小学校教員の免許状を取得、小学校の訓導となったが、のち上京し早稲田専門学校図書館に勤務した。同二十六年(1893)、図書館を退職し、自宅において各種論文を執筆し、「東京人類

学雑誌」「早稲田文学」「歴史地理」「新潟新聞」「太陽」「国民之友」等々の新聞・雑誌に発表した。

明治三十四年(1901)5月、早稲田専門学校講師となり、史学科に於て本邦地誌の講義をした。以後早稲田大学との関係が続き、東京高等師範学校、慶應義塾史学会、東京帝大史学会に於て各種の講演をした。同四十二年(1909)、文学博士となり、ついで大正六年(1915)、早稲田大学の理事となった。

『大日本地名辞書』は、吉田の32歳から46歳まで、人生の最も充実した時期を辞書の著述に捧げたわけである。

第八巻は統語であつて「北海道・樺太・琉球・台湾」が収められている。「北海道・樺太」は藤本慶祐、「琉球」は東恩納寛博、「台湾」は伊能嘉矩等が担当した。辞書は彼等三名のよき協力者を得て完成された。

吉田は「大日本地名辞書統語序言」の中で協力者への謝辞を述べている。即ち「一、統語の広巾印行にあたり、一に予の名を以てす。是れ、分担の責を忘れ、協力の功を奪ふに似たりと雖、此間に事情の在るありて……、予を以て通篇を代

表するのみ。」また「……歳月を閲すること十有春秋、悪戦慄に生還するの想あり、回顧して尙に短才微力に愧ず。」と。

吉田に協力した三名の地理学者の略歴を述べてみたい。辞書の「北海道・樺太」を担当した藤本慶祐のことは、東恩納、伊能に比べてその生前の記録はほとんどない。私が調査した段階においては、早稲田大学校友会(会日名徳昭和六十年年度版)に、明治三十八年(1905)史学及英文科卒と記載されているのが唯一のものであると考えられる。吉田は「統語序言」の中で「……藤本氏は、早稲田大学に歴史地理等を修め、優秀を以て副こゆ、而も勤勉従事して斯の業を終へたり」と記している。藤本は北海道では千島国、樺太では露西亞領の地名・山名にも言及しており、「蝦夷の如き、成文の記録材料を有たざる社会には、地名に附託させられし口碑、及び地物の説明は、彼等唯一の好史伝と爲す。」と書いている。共著には吉田静致との「国民道徳要領」村川堅固との「西洋歴史講話」上・下巻。著書として「平教日本仏教」がある。辞書の「琉球」を執筆した東恩納寛博

は、明治十五年(1882)、沖縄與那那市に生れ、沖縄県立中学、第五高等学校を経て、東京帝国大学文科大學史学科を同四十二年(1908)に卒業した。東恩納は大學卒業後大正八年(1919)、東京府立第一中學校教諭、ついで昭和四年(1929)、東京府立高等学校(現都立大学)教授となった。退官後昭和二十三年(1948)、折原大学教授となり、昭和二十八年(1953)1月24日、死去した。八十歳であった。

東恩納の書いた「琉球」の部は改訂・増補され「南島風土記」となった。その内容の一例として山のことが記されている。「八重山郡」の項には「於茂登岳」「石垣島の中央北岸に倚る。海拔一六八〇呎、其支脈南下して、「パンナア」岳となり、北走して野底岳となり、更に西出するものは「ヤブラ」川平の二半島に至る。本島有数の高峰にして当に本島の分水嶺となるべし。これ等によって、琉球の地名などをおしえられる。東恩納は明の泡盛の著した「六諭衍義」を生産に準って研究した。その他の著作は十巻の全集にまとめられている。

「台湾」を担当した伊能嘉矩は、慶応

三年(1867)、岩手奥閉伊郡遠野町に生れた。野余陸新あつたが、岩手県立師範学校を放校され東京毎日新聞社に入社した。明治二十六年(1893)、大日本教育新聞の編集長となった。その頃より坪井正五郎博士に師事して人類学の研究に従つた。同二十八年(1895)、鳥居龍藏博士と人類学講習会を創立した。「人類学雑誌」第九十七号に「オシラ神に就きて」等で遠野郷を紹介した。その間、清國官話・朝鮮漢文・アイヌ語等を研究した。

日清戦役後、台湾領有が決まった明治二十八年(1895)23歳の時、台湾に渡り約十年間、総督府民政部に就職し、廈門話・タイヤル語・マレイ語等と自習し、あるいは島内をくまなく歩いて民俗等の調査をした。学界に知られた研究の一つとして台湾番人の種族的分類があつた。その間の研究の一部が「大日本地名辞書」の「台湾」の記述となった。伊能には「台湾文化志」の大部がある。上・中・下巻三九三頁にわたる大冊である。辞書の「台湾・台東」の項に私たちがなじみのあつた玉山(新高山)の記述がある。伊能の著書は他に十七冊もある。

大正十四年(1925)、郷里遠野町にて死去した。59歳であった。昭和六十三年(1988)の秋、私は北上山塊の山旅の帰途に新装なった遠野市立博物館に於て、伊能嘉矩の資料に接して感銘を新らたにして帰宅した。展示されている伊能の特徵のある軍靴を見て、その意志の強さ堅固さを知るに至つた。柳田国男は『台湾文化志』の小序において「最後に伊能氏と會談したのは、七年以前の深秋のある夕であつた。遠野の旅館の打照いた二階から、暮れ行く崗原の山野を指點しつつ、昔今の物語は盡きなかつたが、特に自分の恐むて見ようとしたのは此地方の學問の由来であつた。」と回想を寄せている。

『大日本地名辞書』の大部を出版完成にみちびいたのは、富山房主人坂本嘉治馬であつた。吉田の友人市島謙吉は「大日本地名辞書著作の顛末」で「終りに臨み、富山房主人坂本嘉治馬氏が全十三年の長日月、幾多の困難に堪へつ、此書の完成の爲に多大の力を尽されたる篤実堅毅の精神に対して、誌體の敬意を表せんと欲す。」と著書にかわつて謝辞を述べている。



清秋と厳冬を体験した

# 劔 沢

10月の三連休をいかに有効に使うか。数年に一度巡ってくる三連休の山行計画というものは、たまたまなく楽しい。群やかな紅葉の山を思い描いて、いろいろな候補地が乱立する。

四年前の湘南山・妙高山・火打山のすばらしい快晴の山行がまず思い浮かび、またあの感動に出会えますようにという思いにふけてしまふ。鹿島槍ヶ岳にしようか、熊鷹岳にしようかと高橋さんと決めかねている時に、山の会の集会で、黒部の水平道と仙人泡という候補地が星のごとく割り込んできて、一気に決まってしまう。

紅葉の仙人泡からのハッ峰。これは秋

松田敏男

## 北アルプス

の山岳写真の決定版である。宇奈月から入山するのは時間がかかり過ぎて厳しいから、室堂から入ることに決める。宇奈月へ抜ける横走道も可能なように、JRで行くことにする。ああだこうだと言い合ったのち、仙人泡が最終目的地で、真砂沢出合で漣泊ということに落ち着いた。メンバーは西村さんを加えた三人、往きの列車の座席指定もとれてひと安心、楽しみの日を待つのみとなった。しかし、近づくにつれ、天気予報がいまひとつはつきりせず、不安定な先行きを思わせられた。

JR京都駅の一番ホームに集合する。夜行列車を待つ人たちであふれていた。

遊歩道歩きだした。木道の数はもう減っていた。荷物の多い人はバランスをくずしかけてもまだ余裕があるが、テント山行の私たちは少しの傾斜でも木道の上は非常に危うかった。

観光客の姿が見えなくなる所まで来て、やっと山のなかを歩いている気分になれた。歩き始めから森林限界の上。何だか自然の接吻を感じることもないまま、神々の遊ぶ所に土足で上がっているようだ。四圍の高山景観はまさに日本第一級。逆光に白く光る雪面の立山が雄大だ。

別山薬師へのシクサグの道を登りきると、目の前に鯉岳が姿を現した。十分知っているはずの景色だが、やはりドキッとしてしまふ。あまりにも美しい。格調の高さ、麗しい気品、いくつ言葉も尽くしても意味をなさない。乗越からひとくだりして、鯉沢小屋の前で昼食にする。深い秋空に鯉沢雪渓の白色。明るイグレイの岩肌が美しく輝いているのを眺めながら、コーヒーを飲んだ。

鯉沢雪渓のくだりは楽しかった。前方に鹿島槍ヶ岳を見ながら広い雪原をくだる心地よさ。鯉岳の形が徐々に変化していく。本峰が奥の方に隠れていき、前線

初天から鯉岳を見る



ふだん、正面から京都駅に入って家路へと急ぐ時、富山行きだの長野行きだのという列車表示を見上げるたび、ああ、この列車に飛び乗りアルプスのそばに連れ去られたい、という強い衝動にくらぐらすることがよくあるのだが、今その主人公になっていくのだと思うと、たまらなくうれい。

富山駅で立山行きに乗り換える。もう

も前の峰の奥になり、ハッ峰の下部の岩壁が近くに迫る。平蔵谷分岐から見上げる谷の上の白い岩の美しさ。長次郎谷出合の広々とした雪原。こんな日本離れした景色がほかにあるだろうか。

長次郎谷出合で雪登歩きが終わりになると岩の間の道に変わる。右下の雪原が大きく削れて、暗いその下からゴロゴロと水の流れる音が響き、水煙が上がっている。ふり返れば、夕方の色に染まり始めた雪原上部の岩壁群が見えた。そのスパッと切れ落ちていた姿は、やはり日本離れした儼然だった。赤く染まった雲が激しくちぎれ、湧いては広がっていく早さに、天候が悪くなる前兆を感じた。

黒砂沢小屋で受付を済ませて、テントを張る。テントの数は少なかった。雨が降りだした。目的地の仙人泡への往復はあきらめることにした。安全策は室堂に戻る。再び鯉沢雪原を登り返し、森林限界より上に出ることのほうが安全だなんて、何んと不自然な行程だろう。人間の力でここに来ていないことを痛感する。

翌日は強い雨でなくてはとした。ゆっくり歩いて鯉沢小屋付近でテントを張る



一度指定席券を買わないといけないのが何となく強制的に感じられたが、半分眠りながらたたくさんの人といっしょにベルトコンペアーに乗っている感じで、前へ進んだ。人出の多いのは覚悟のうえだったので、感情の揺をきっちり締めて、ひたすら目的地に運ばれることに専念した。

さすが観光地だけあって、バスは全員座れるようになっていた。荷物は札を付けて別便で運んでくれた。立山杉の大木の横を通り、広大な牧場、原のなかを進む。

上々の天気だ。室堂に着き、建物の中を一般観光客をさげながら進む、木道の



## アミューズトラベルの山歩き

- 白根三山縦走 北岳・間ノ岳・農鳥岳を縦走 9/12(土)~15(火祝) ¥73,000  
 屋久島 宮之浦岳と縄文杉 ①9/12(土)~15(火祝) ¥129,000  
 九州最高峰と樹齢7000年の縄文杉 ②10/9(金)~12(月) ¥124,000  
 空木岳縦走と妻籠宿 玄人好みの静かな山 9/13(日)~15(火祝) ¥65,000  
 大雪山縦走と愛山溪 日本一早い紅葉! 9/17(木)~20(日) ¥137,000  
 羅臼岳・斜里岳・燧阿寒岳 紅葉の道東三名山 9/18(金)~21(月) ¥147,000  
 平ヶ岳と越後駒ヶ岳 上越国境の名峰二座 9/23(水祝)~26(土) ¥87,000  
 谷川岳と上州武尊山 紅葉の百名山二座へ 10/2(金)~4(日) ¥69,000  
 吾妻山・磐梯山・安達太良山 百名山三座へ 10/8(木)~11(日) ¥115,000  
 南ヶ岳縦走 硫黄岳~赤岳へ縦走 10/9(金)~12(日) ¥75,000  
 尾瀬 至仏山と燧ヶ岳 東北最高峰へ 10/9(金)~10/12(月) ¥98,000  
 甲武信岳・金峰山・瑞穂山 奥秩父の名峰へ 10/15(木)~18(日) ¥72,000  
 日光白根山・男体山・皇海山 百名山三座へ 10/15(木)~18(日) ¥85,000  
 夢科山と霧ヶ峰 紅葉の美しい百名山二座 10/17(土)~18(日) ¥39,000  
 大峰・和佐又山と大菩薩岳 紅葉の大峰へ 10/17(土)~18(日) ¥28,000  
 黒部峡谷「下の廊下」 迫力ある渓谷へ 10/17(土)~10/19(月) ¥68,000

**新企画! 世界自然遺産 中国「武陵源」を歩く5日間**  
 原始の自然が織りなす山水を訪ねて「張家界・天子山・索溪峪」を満喫  
 出発日 9/6・9/20・10/4・10/18・11/1・11/15 ¥128,000

**新企画! 世界遺産登録地2カ所を巡る 中国五大名山**  
 泰山ハイキングと孔子の故郷 曲阜を訪ねる5日間  
 出発日 ①11/9 ②12/7 ③12/28 料金①¥89,000 ②¥87,000 ③¥108,000

**臨阪順一氏(医師・登山家)と歩くシリーズ**  
 マナスル山群展望ハイキング 11/14(土)~22(日) ¥325,000

**「日本航空で行く」カナディアンロッキーハイキング**  
 紅葉のベストシーズン 出発日 9/26(土)~10/1(木) 料金 ¥258,000

**マウントクック フラワーハイキング 6日間**  
 出発日 ①12/9 ②'99/1/14 ③'99/2/4 料金①¥20,800 ②¥218,000

**ミルフオードトラックとマウントクックハイキング12日間**  
 世界一美しい散歩道へ 出発日 12/6・'99/3/7 料金¥478,000

国内は総合パンフレット、海外は詳しい資料あります。お問い合わせ下さい。

**アミューズトラベル株式会社** 〒06-265-3303

運輸大臣登録旅行業第1386号(社)日本旅行業協会正会員  
 〒541-0053 大阪市中央区本町4-5-3本町三井ビル2号館3F FAX 06-265-3306

うということになった。室堂まで行くこともできるが、せっかく山に米たのだから人の多い所でテントを張らなくてもよいという考えでまとも。少し急な雪渓ではきのうと同様、念のためアイゼンを着ける。きのうとは打って変わって、鮮色の空の下に不気味に眠る白い岩壁があった。雨がそれぞれに変わり視界が狭くなった。そしてついに雪。登っているのだから当然と言えば当然なのだが、徐々にその雪が激しくなる。銀沢小屋に着いた頃には猛吹雪になってしまい、もう先には進めなかった。

風をさげる窪地を探してみるが、どこもほとんど同じ。テントを三人でしっかりとつかんでいないと、とても張れない。ポールをテントの穴に差し入れる時は、テントに体を乗せないと風がテントの中に入って瞬時に飛んでいきそう。新しい雪が積もってきているから地面は押さえがきかず、雪のへこみにもぐってしまいい、するりとテントが抜け出てパタパタはねる。やっこのことでフライもセッティングして、両具のまま雪のかたまりのようなザックとともに入った。三人川テントに三人だから窮屈だったと思うが、そん

な記憶は残っていない。正常に設置できず、テントの中に入れてはもっとできたことにはよく覚えている。夜中じゅう雪は降り続き、雪の重みでテントが狭くなっていった。時折、中からたいて雪を散らす、それでも内部はだんだん狭められていった。

あまり眠れないままに朝となる。一夜で40~50センチの積雪になった。テントのまわりはもつとたまっていて、幸いにして風も当も弱まっていた。テントのポールをたたむことに手間どった。息を吹きかけてもなかなか凍ったポールがはずれない。長くポールを持ち続けていると、厚手の手袋でも冷気が伝わり、また凍りついてきて、あせる。きのうに比べると風は弱まっているとはいえず、受け続けていると気がなえそうになるものだ。次回はテルメスのお茶をポールにかけるかといっている。思いついたらのは寂しかった。

きのうとは全く様相の違う雪の斜面を別山東越へと登り返す。道がなくなっているからだいたいの予想で登って行くのだが、雪がやんで先が見渡せるから安心だった。しかし、初めての道だったら危険な場面だろう。ラッセルのため、少し

の行程のわずなのに銀沢前小屋が見えた時は、ほっとした。小屋の中には、室堂からの人たちのなか、たくさんの登山者がいた。

ここが今回の山行の最高地点なのに、安全圏に入ってきた思いで緊張がほぐれた。南斜面へ踏み出すと雪の質も変わり、またトレースがはつきりして、雪の斜面を楽しむ気分が下山できた。

日本最高所の温泉に入って爽快になる。森林限界の上なのに普通の人という感じの従業員がいるのは、阿だか少し奇妙な気分だった。ビールを飲んで、また重い荷物を担いでの室堂への登りで、雨当たりの気持が少しよぎったけれども、清秋と厳冬の対照的な二つの季節を味わった満足感でいっぱいだった。

(平成9年10月10日~12日歩く)

▲コースタイム▼

室堂(6時間40分) 真砂沢小屋(3時間50分) 銀沢小屋前キャンプ場(4時間30分) 室堂

△地形図▽昭文社「銀・立山」



## 白武洞コースから

# 智異山

韓国第二の高峰、智異山に登る。韓国で一番高い山は済州島の漢拿山だが、半島のなかでは一番の高さである。朝鮮半島には白頭山を始め、20000峰を越す高い山々が数多くあるのだが、すべて北朝鮮側で、韓国側には20000峰を越す山はない。日本によく知られているのは、このほかに第三番目の高さの雪岳山がある。

智異山は韓国平島南西部の慶尚南道にあって、周辺一帯は国立公園になっている。金剛山・漢拿山と共に三神山の一つで、周辺には古寺が多い。

漢拿山と雪岳山へは日本からの登山ツアーがよくあるのだが、智異山のツアー

## 生駒 聳 峰

# 韓国

は数が少ない。私は漢拿山と雪岳山はすでに登っていて、かねがね智異山に登ってみたいと思っていた。今春、ある旅行社の智異山ツアーを見つけて申し込んだのだが、参加者が少なく中止になってしまった。そんなおりもおり、台湾の岳友が智異山に登ると言うので参加させてもらった。彼の計画ではソウルで友人と合ってから光州に行き、光州の岳人に智異山を案内してもらうことになっていた。

日本からは釜山のほうが距離的に近いのだが、一人では行動できないので、彼に付き合っソウル空港で落ち合うことにした。

午後友人の案内で市内観光をする。お

りしも光州では死者の追悼行事が行われていた。私にも事件の記憶はあるが、犠牲者249名の中に日本女性が一人含まれていたことは初耳である。ハングルの刻まれた質素な石柱の前で、テマテョゴリ姿でお参りする身内の人たちの姿は印象的であった。そのほか、古い朝鮮時代の庭園や豊臣秀吉が侵入した時に壊った將軍の墓等を見て、最後に無等山の展望台から光州市街を一望してホテルに帰った。夜は市内の料亭で、韓国名物の焼き肉料



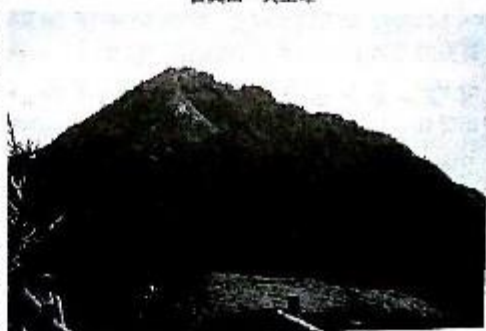
理を御馳走になった。

翌日はバスで南原へ、ここでソウルから列車で来たアガシ(娘さん)二人と合流して、さらにバスを乗り継いで登山口の白武洞に到着した。ここは溪谷沿いの山あい、智異山の北の主要な登山口である。民宿や食堂があり、登山用品やおみやげを売る店のほかに、キャンプ場があって登山客以外にも観光や宴会の客が来ている。バス停に立つ案内板には登山路が記されているが、ハングルばかりでは現在地も分からず、現地の人に説明してもらった。

今回の私たちのグループは、台湾からの林さん夫婦、私、光州の岳人で案内してくれる金さん、そして金さんの友人でソウルから来た二人のアガシと計六人である。

韓国の旅館や民宿は通常食事が付かないので、夕食は金さんが準備をし、焼き肉と焼酎で明日の登山を祝した。韓国では焼酎がよく飲まれている。金さんからもった地図を見ると、智異山脈は東西に長く、韓国の若者たちは、西の老姑壇から東の天王峰まで2泊3日で縦走するそう、各所に山小屋のマー

智異山・天王峰



地図を調べてみると、韓国全土の地図では智異山の位置くらいしか確認できず、地形図も登山地図も持っていないので、どこから登るのが全く不明だった。全て先方任せの登山である。20000峰の高さで、日帰りの山ということで準備をした。

初日はソウルの友人宅泊まり。翌日ハイウェイをバスで4時間走って光州着。

クもある。通常の登山はこの最高峰の天王峰に登る。両の釜山側は中山里から、北のソウル・光州側は白武洞から、今回私たちは白武洞コースを登ることになる。一番短いのは中山里コースで、標準のタイムで登り4時間10分・下り3時間10分、計7時間20分である。二番目は今回私たちが登る白武洞コースで、登り5時間・下り4時間、計9時間となる。

夜はそれほど寒くなかったのに、石油ボイラーでオンドル(暖房方法の一種)が入れられ、暑くて寝苦しかった。

翌朝5時過ぎ、朝食をとらずに出発する。すでに空は明るく、溪流沿いの林のなかを登る。道標が各所に設置されていて、登山口から山頂までの距離が明記されている。しかしハングル文字ばかりで全く所在の確認ができない。案内の金さんは日本語が全く話さないし、もちろん私は韓国語が一言も駄目。わずかに台湾人の林さんが片言の韓国語を話すが、会話ができる程でもなく、詳しい状況は全く不明である。しかし、登山道ははっきりしている。不白ゆい。

屋根に取りつくまではガラ石の積る重なる急坂の連続で、たいへん歩きづら



い。旧州は樹林帯で、日本と同じく今の新緑の異々盛り、特に楓が目につく。秋の紅葉はさぞかしすばらしいことだろう。尾根上に登り着くと傾斜もゆるくなり、主稜線上に天王峰が初めて顔を出す。やがて右手の峰に山小屋が見えた。この山頂は新しくて立派で、たくさんの人で遊んでいた。ほとんどが中山里からの登山者で、ここから山頂に向かう縦走路にも、すでにくだつてくる人や登る人たちが列をなしていた。

山小屋のコーヒードヒと息入れて、山頂に向かう。石段の急坂をひと登りすると、樹林が開けてツツジの原が現れる。花が真々盛り。登山道は両側に樹がめぐらされ、人が入れないようになっている。前年の音積峠一帯は山火事後で、立ち枯れの木がまばらに立っている。やがて前方が開け、人々が群がっている天王峰が望まれた。少しくだつて登り返す。岩場になっていて幾つも鉄梯子が架けられ、行き交う人が多く道を譲り合っている。

天王峰の山頂は一つの岩峰で、その中央に天王峰と刻まれた自然石の碑が建っている。その碑の前で記念写真を撮るのには、順番待ちである。人が多く腰を下ろ

すこともできない。山頂からの展望は360度見るものがなく、異国の山並みが広がっていた。土地感のない私には、何一つ知る山がない。何とか記念写真を撮り、三角点を探す。岩だから金属標でも入ってないかと探したが、人も多く発見できなかった。

山頂の10分程度下の所が広場になっていて、ひと休みしようとして行く。何とこの広場に三角点が入っていた。14号×14号で高さ10cm。コンクリートの台座で囲まれていた。ハンゲル文字を読んでもうとうと、一面に三角点。一面には一等とあるそう、裏面の19991は設置された年号らしい。

この発見で、三角点マニアの私目的が達成された。パンと缶ビールで乾杯。下山は同じ道を通る。それにしても大変な登山客である。日本は中高年ばかりだが、ここでは若い人たちがばかり。ひと昔前の日本の山がしのばれる。私のような中高年は少ない。

山頂でまた温かいコーヒードヒを飲むと、一気に下山にかかる。中山里にくだる人が多く白武洞へは十八に一人くらい。いっぺんに登山道が静かになる。午後になっ

てもばらばらと登ってくる人がいる。テント泊もできるようだし、山荘でも宿泊が可能である。行き交うとき、人々は日本と同じで互いに挨拶を交わす。「アーン ニョンハセヨ」「こんにちは」。私が日本人と気づく人は稀だが、なかには日本語で話しかけてきた人もあり、日本語を勉強しているというアガシの姿もあった。この日は日本人の登山者は一人も見なかった。

沢沿いのガラ場は急坂で、泥濘では滑りやすく慎重にくだる。お陰で韓国の若者にどんどん追い越された。しかし、もう高年の私は無理をせず慎重にくだった。

民宿で日本語を話す老婆が、「疲れがとれますよ」と、出してくれたお茶を飲みながら話々としてくる人たちが眺



天王峰山頂の碑

最後の交會をする。そのおり、ハチ岳の赤岳温泉から韓国語の留学に來ている娘さんを紹介される。何でも山小屋を閉める冬期に、韓国語を習っているとのことである。今や日本の山々でもハンゲル文字の案内板が立つ時代だから、山小屋でも必要になってきたのだろう。

今回の韓国の夏山で困ったことは、どこに行ってもハンゲル文字ばかり、漢字も英語もほとんど見かけない。しかし碑

低山登山～本格トレッキングまで、登山用品のことならおまかせ下さい。



とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70  
TEL06(772)7231



JR天王寺駅  
北出口右へ  
歩道橋渡ってスグ

国の人たちの名前は漢字で書かれている。調べてみると、漢字は自分の名前くらいしか判らないそうである。台湾なら漢字で何とか意味は理解できるのだが、ハンゲルでは動くこともままならない。しかし韓国の人たちはどこに行っても穏やかで、政治的な反日感情など全く感じられなかった。(豆成10年6月歩)

▲行程▼

- 第1日目 関西空港(1時間50分)ソウル空港
- 第2日目 ソウル(バス4時間)光州
- 第3日目 光州(バス1時間10分)南原(バス1時間)白武洞
- 第4日目 白武洞(5時間)智異山(4時間)白真洞(バス2時間10分)光州
- 第5日目 光州(バス4時間)ソウル
- 第6日目 ソウル空港(1時間30分)関西空港





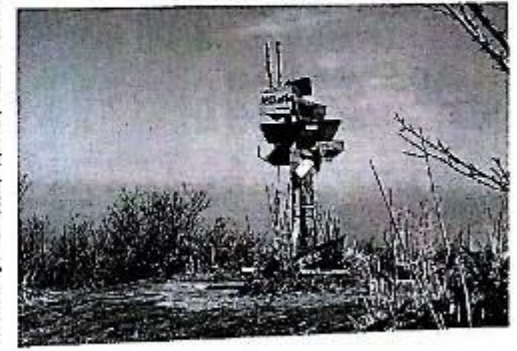
連載

比良を歩く ⑥

# ヨコタニ峠から蛇谷ヶ峰

秦 康 夫

蛇谷ヶ峰山頂



比良山系最南端の雲山からスタートした「比良を歩く」シリーズも、第4回でようやく「奥比良」のヨコタニ峠まで来た。続くは最北端の蛇谷ヶ峰までのコースで、縦走路への登りには、安曇川側の村井からヨコタニ峠に通じる横谷沿いの道を予定していた。ところが、この登山道はかなり前から廃道になっているらしく、とても歩けるような状態ではない。そのため計画を変更し、村井から地蔵山の北西尾根をたどって地蔵峠に達するルートをとることになった。

出町駅発の朽木村行き京都バスは村井から約10分ほど増発が出たが、平・宮川学校前・坊村と、バス停ごとに客が降り、嵩川梅ノ木からは、ほぼわれわれのグループだけとなり、9時過ぎに村井に着いた。

天気はまあまあの曇り空、コース説明と人員点呼を済ませ、男女半々の総勢十四名で9時15分スタートした。

バス停から南へ少し戻り、左の村道に入る。丹精を込めたツツジ・チューリップ・鉢植えのシヤクナゲなど、色鮮やかな花々に目を奪われ、女性たちの列は早くも停滞気味、淡い紫色の小花の密集は、十二単という優雅な名前だそうだ。

のどかな集落を抜けると横谷川に沿った林道に出た。「広域基幹林道鶴川・村井線」という、すぐ右の国道367号と

出合う所に起点の立看板があり、ヨコタニ峠近くのトンネルを通過して黒谷に通じ、さらに頼川越から、琵琶湖畔の161号線に至る立派な林道である。必要性はあったのだろうが、そのために奥比良とリトル比良の山腹が切り刻まれて、無残な姿をさらすことになった。われわれ山を楽しむものにとっては残念なことではある。

しばらくこの林道を進む。車は全然通らない。道端にはシヤガの花が咲き乱れている。橋を二つ渡り、二つ目の横ノ木尾橋という橋を過ぎると、林道は大きくUターンして横谷を離れ、西に向かって登って行く。さきにもう一度折り返して東に向きを変えた所で広域林道から離れ、分岐している別の細い林道に入る。ここまでで、スタートしてから約20分かった。



このあたりが、地蔵山からのびる後線の西端で、林道ができる前はここから尾根道が山頂近くまで続いてきたはずである。

探せば旧道が見つかるかも知れないが、とりあえず、この道を行ける所まで行ってみることにした。

なかなか登り勾配のきつい林道だ。10分ほど歩いた所に、松ヤニの垂れている大きな赤松があり、ここで一服。

女性たちは休憩時間を利用してワラビ摘みに忙しいが、われわれ男性はイタドリに至るまで歩いたり、イワナシの小さな果実を食べてみたり、「リンゴの葉をしかんだような味がした」と、のんびりと休憩した。

林道は尾根筋を少し離れて南方向に向かい、次に北に方向を変えて尾根を横切る。また南に折り返して再び尾根を越える所に「公社営林地」の大きな立看板がある。

道はすぐ左に山がり、尾根南面のシンシ谷側におもひのびているが、地蔵峠へ行くには、ここで林道を離れて左の尾根にのらなければならぬ。このまま林道を行くと、徐々に尾根筋を離れて突如行き止まりとなり、主尾根に這上るのには苦勞することになる。

標識がないので分かりにくいのが、注意して見れば、林道に崩られて土肌の出た

左斜面に踏み跡があり、その上方に登山道がのびている。ここでやっと林道から解放された。ここからは緑に囲まれた尾根道が地蔵峠まで続く。

落葉広葉樹の自然林と、杉・檜の植林が交互に現れる。同じ緑でも、植林の濃緑に比べ、自然林の若葉の緑は明るくてみずみずしい。しばらく急な登りが続き、一汗かくが、地図上のピーク559mあたりまで来るとやや平坦になり、格好の休憩場所が確保できた。

檜の植林に入る。前日の雨でやわらかくなった土に西の足跡が鮮やかに残り、道案内をしてくれる。ウグイスののどかな「ホーホケキョ」の音が、「キョキョキョ」という警戒の音に変わり、いつまでもわれわれを追ってくるように聞こえる。このあたりには赤松が多い。それとかなりの巨木である。台杉のように、根元近くから何木にも分かれている見事なものもある。

所どころ急な登りがあり、道は南東からほぼ東に向かう。ピーク464mあたりからは、両側に繁る杉・檜のトンネルのなかをなだらかな道が地蔵峠近くまで続き、11時過ぎ縦走路に出た。南に10分



ほどくれば地蔵峠である。さらに南に3、4分登り、地蔵山(788.7m)でゆっくり休憩することにした。

朝の曇り空がだんだん晴れてきて、東方面の展望がよい。次回の予定コースのリトル比良が目の前に広がる。ヤケオ山とヤケ山の間には琵琶湖をへだてて、三上山(近江富士)も見える。葛嶺ヶ岳の山腹を刻んで鶴川越にのびているのは、先ほど通った広域林道の延長である。

まだ先は長い。地蔵峠に戻りクマザサのなかの縦走路を北に向かう。ここからヨコタニ峠までは、前回歩いた道だ。ヨコタニ峠からの登り口は、ササが生い茂ってやや分りにくい。しばらく急坂を登ると周囲が開けてくる。カラッとした空気に適当に微風もあり、快適に歩を運んで12時過ぎボボフダ峠に到着。

「ボボフダ」とは変わった名前だと、ひとしきり話題になった。朽木では「須川越」と呼んでいるらしい(須川はボボフダ峠から通へくたっている谷。だれも由来を聞いたことはないが、蚕のことを「ぼぼさま」というようなので、これにこじつけて考えたと、隣の入札(ぼぼふだぼぼ)に間違える名かも知れない。

### に渡更する。

関西電力のマイクローニープ用反射板のある西峰を通過、間もなく天狗の森にかかるあたり、まわりの雰囲気がなんとなく種やいできたように感じたが、それがめざすシヤケナゲの群落であった。見事なまでの大ぶりの花。薄紅色の、大きなシュークリームが開いたような、やわらかくもぼつりとした濃艶さ。見れば見るほどなまめかしい花である。欲張って北の斜面ものぞきに行ったが、花を付けている木は少なかった。

平前中の地蔵峠までの稜線は植林と巨杉林が半々だったが、この道は植林がほとんどない。ミスナラ・クリ・カエデ類、若々しい薄緑の疎林が続く。何度か休憩して、樹木から発散されるフィトンチンを服一杯吸い込むことにする。都会生活で疲れた心身のリフレッシュには、これが最適だ。

植林が折れて間もなく、道は折り返して山腹を北方向に向かう。戻坂を一つ乗り換えたような感じである。登山道の脇に別名ユウレイタケともいわれる銀葉草が、数10本かたままって生えている。半透明の白光り。数本なら可愛だが、こ

れない、というところで話を切り上げて出発する。

ここ10数年、冬期に、輝からボボフダ峠を経て蛇谷ヶ峰登山コースを、毎年のグルーブで歩いている。雪のないシーズンに来たのは久しぶりなので「この道標はいつも雪の下に隠れてた」「去年はこの辺は交代でラッセルした」「ササがこんなに生えているとは知らなんだ」などと、わいわいがやがや、にぎやかな会話が続く。

滝谷ノ頭を通過し、ボボフダ峠からちょうど30分ほど歩いた所で、縦走路から少し西に入った疎林のなかに平らな場所があり、ここでゆっくり昼食をとることにした。きょうのスタート地点、村井から続く桃谷の源流のひとつ、三ノ谷の源頭付近にあたる。

午後、北に向かっていた縦走路が西に折れ、このコース一番の急登が始まる。雪の多い時には少し登ってはズルズルと後退を繰り返す。雪がなくて苦勞する難所である。雪がなくてよかったしんどい。一行もふた汗もかいてやうと武奈ヶ岳の見えあたりまで登った。ここまで来れば、あとはたいした登り

れだけ集まるとなんと不気味な感じがする。

猪の馬場という名の通り、動物でも跳び出してきそうな雰囲気の小広場で最後の休憩をとり、防災用無線の高い塔を通ぎると間もなく秋道に出た。

あと50分、フキやヤマウドを摘みながらこの林道をくだり、16時20分、桑野橋バス停前。安曇川の河原におりてゆっくりし、17時30分、出町博行き京都バスで帰途についた。みずみずしい新緑のなか、森林浴を満喫した一日だった。

平成10年4月26日歩く

### △コースタイム

- 村井バス停(30分) 広域林道から分岐する林道の入口(25分) 造林公社の立看板・地蔵山尾根道入口(50分) 地蔵峠(30分) ヨコタニ峠(30分) ボボフダ峠(1時間) 蛇谷ヶ峰(1時間) 猪ノ馬場(50分) 桑野橋バス停
- △地形図
- 2万5千北小松
- 昭文社「北良山系」
- 山と溪谷社「比良・北山東部」

もなく、まわりの景色を見る余裕が出てくる。ムシカリ(オオカメノキ)の花は、遠くから見ると枝葉の上に、白い大きな皿をそっと乗せたような感じで、今が盛りである。ドウダンツツジはまだ蕾だ。

13時、蛇谷ヶ峰(901.7m)に到着。恐ろしい名前前に製合わず、丸いならかな山頂である。小根山という響きのよい別称もあるようだ。

360度の大展望が広がる。ふり返ると、いま歩いてきた稜線の奥に武奈ヶ岳、そのすぐ右には花背峠の跌宕から連なる京都北山の峰々。西方向には朽木のシラクラ岳、西北には百里ヶ岳、北は箱館山の奥に三回岳から湖北の乗鞍岳、はるか北東にあるはずの白山は、残念ながら雲に隠れて見えない。奥美濃の連山の右には、おなじみの伊吹山。その右は、最北端の盤山山から続く鈴鹿連峰。時間の余裕があるので、望むほど展望を楽しむことができた。

### 【この花・この草】

コケモモ (Vaccinium vitis-idaea)

ツツジ科

コケモモは常緑の小低木で、塊茎の頂白い花を咲かせます。日本では北海道九州の亜高山から高山の林・草地・岩場に生えますが、自生地は場所柄、植物採取の規制される地域であることが多い。

コケモモは、別名カマヅベリーともい、同属のヒルベリーと共にヨーロッパでは民間薬法薬として使用。エリザベス時代の薬師は、これらの果実とハチミツからロブというシロップを作り、下痢の治療に用いました。

コケモモの葉には、アルブチン・タンニン・フラボノイド等が含まれます。アルブチンは美白化粧品に用いられる。殺菌作用が強いためウツロジの作用として菓子の添加剤や殺菌剤の目的で使用しますが、インスリン生産を増進するらしく血糖値を下げることも知られています。また、うがい剤として用いると口内炎や喉の炎症にも効果があります。



連載

カラコルム見聞録 ②

チラスからフンザ・グルミットへ

芝野 泰明

パキスタン

第四日目(晴れ)  
チラスからフンザへ

午前8時30分出発。目的のフンザまで約230kmのバス旅行だ。付近はインダス川岸の砂漠地帯で、真夏の暑さでは有名な所、日中40℃はざらで、時には50℃近くにもなる。

サーティアールの村落を過ぎて間もなく左手に大きな黒い岩があり、その上に仏教時代の仏像や仏塔の褐色の線画が多く残っている。触れてみると刻んだものではなく絵である。どんな絵具で描いたのだろうか、とても不思議だ。聖なる動物アイベックスの絵もある。アイベックスはカモシカの類で、その豪華な角を住居

の入口の上に掲げ、魔除けとする習慣がある。

インダス川はところによりその川幅をさまざまに変え、あるいは激んで重く流れる。日本の川の小忙しさや子どもどもおもしろいお供りはしない。

KKH(カラコルムハイウェイ)はナンガバルパットの西から北麓を捲くように進む。この山は孤立峰的な存在のために気象の変化が激しく、この旅の間、わずかの間だけ一度だけ、そのピークを垣間見ることができたのは幸運だとさえ言われた。

道路脇の斜面から盛んに蒸気を吹き上げ、温泉を湧出している。火山帯に属し

ラコルム・ヒンズークシュが出会う点に当たり、その旨を記した石碑が建っている。白濁の流れのインダス川は右方へ曲がり、左方の緑色を帯びたギルギット川沿いに進む。メルヘン高原へはここから右へギルギット川を渡って行く。

ズリで木道と分かれ、ギルギットへ向かう。13時、ジョティアールの丘のホテル・セレナロッジに入る。出発以来初めて日本人に会う。昼食後、ギルギット川とフンザ川を渡り、フンザ川の左岸のKKHを北上する。

KKHの開発は燻工の連続であったという。劇場しやすい地帯が多く、発破作業中、不測の事故で殉職した人も数知れず。中国・パキスタン両国の人海軍戦により完成したが、今も崩壊と復旧とを繰り返している。ダニョールの村に入るとその庭神や慰霊塔が建ち、雑草を物語っている。

過去を忘れたような杏の花の美しさに歌声が響く。白い花は杏、紅い花はアブリコット、黄色は菜の花。アリアパードを過ぎ、ガニッシュでバスカッシュアップに移乗。中阪の旧王宮内の宿所に着き、別棟の部屋に入る。天井の高い薄暗い殺

風景な部屋で、天井に大きな羽根の扇風機、壁にバルベット一頭。隣の化粧室も便器・洗面器・シャワーだけの必要最小限の設備に「秘境だね」と合点する。しかし屋外の眺望は絶景で、ラカボシ(アタラシ、ティラン(アタラシ))を視界に収め、麓の村は白い杏の花が満開だ。キャッチフレーズ通りの景観に大満足した。

夕食は元ミールの召使たちがサービスしてくれる。体内のアルコール分はすっかり抜けただろう。旧式の臭気の強い石油ストーブのみでは寒い。持参のホカホカカイロに救われて就寝。戸外は明るい月夜だった。

食事は東南アジアから近東まで、ほとんど同じ形式で、やはりコメを主食とする傾向がある。コメは普通に炊いたもの、またはさらに炒めたもので、白くて細長いいわゆる外米(フンディカ米)である。副食としては宗教上の理由から鶏肉料理が多い。淡水魚もある。鶏肉は脂肪分が少なく、揚げ物、煮物、焼き物と用途が広い。カレーは三食共食卓に出るが、スパイスが効き、辛さも少なく淡泊で食べ飽きない。小麦粉を加工した「ナン」も

世界三大山脈会合点の碑



てはいいが、たしかに地殻の裂け目からの噴出である。このあたりは特に地滑りの常時発生箇所で、インド大陸プレートの終着点である。年間に垂直方向に4cm、水平方向に20cmの移動があるという。

否に先がけて咲くというアブリコットの紅色の花に出会う。ジャグゴッドの先で、アブリコットから即かず離れずのインダス川と分かれる地点に来た。ここは世界の大山脈のうちの三つ、ヒマラヤ・カ

流いて食べる。煎餅のようなものとお好み焼風のやわらかいものがあるが、いずれも温かいものがおいしい。食後はコーヒーもしくは紅茶。デザートにはヨーグルト系のもの、ゼリー・プリン類、シュークリーム、カステラ類と多種で、甘味は少し強いものの、私も喜んで食べた。

第五日目(晴れ)

フンザとナガール

近くの丘の上でカラコルムの夜明けを体験するオプションの企画に参加した。4時30分出発、五合のジープに分乗し、標高3400mの丘まで標高差1000mを一気に駆け登る。車幅いっぱいのはたき急勾配の山道を約40分。しかしこんな高所でも人家は少なくない。下車後、明けやらぬなかをヘッドランプを頼りに10分ほど進むと、急に展望が開けてカリマーバードあたりの灯が足下に輝いている。ここはワルタル山峰から派生する尾根の端である。気温マイナス10度くらい。足元からじんわり上がってくる寒気を足踏みで耐えているうちに空は次第に白み始め、8時頃雲の間からカボシの頂上あたりが姿を見せ始める。白銀の斜面が淡い橙黄色に輝きだすと、続い





ワルタル1時とクイーンズピーク

て左のテイラン、その奥のゴールデンピーク(7027呎)にも朝の光が及んでくる。カラコルムの神々のお目覚めの刻を聖なる心でお迎えしよう。

やがて背後のウルタル1峰やクイーンズピークも太陽のスポットライトの下で浮かび上がってきた。寒さを忘れ、無言で緊張と感動に浸えながら懸命にカメラのシャッターを切った。そして麓の村から聞こえる鶏の声で一大イベントは終わった。

本日予定していたグルミットへの道が崩壊して通行止になったため、6日目の旅程に変更し、当地で連泊となる。8時出発。ジープで旧王宮よりくんだり、ガニシユの外れでフンザ川を渡り、すぐ右折し、落石の絶え間ないガシユを監視員の指示に従って逃げるように迂回し、ナガール川に沿う石コロ道を秘道を上げて藪行する。

だが、草叢の動きを獲物と誤って一人の男を射殺してしまった。死者の妻は嘆きながらその由を上へ訴え出た。王は直ちに受理し、自ら弓矢を携え死者の妻のもとを訪れ、自分を射るよう命じた。しかしその妻は王の誠意に打たれて王妃の罪を許したという。目には目を、歯には歯をの世界にも誠意は無いと語る。

### 第六日目(晴れのち曇り)

フンザからグルミット

7時30分、元ミールの石使いの遠慮がちなノックがモーニングコール。いつも同じ朝食。目玉焼きは小さい。昨日通行止の道所が一時復旧なったというので出発する。いったんKKHへ出て再び本道をはずれ、狭い村のなかの道を歩いてア

ナガールは標高3300呎。さらに奥のホーバルは標高2384呎の高原で牧草地が広がり羊や牛が放牧されている。テイランへの登山基地なのでホテルやロッジもある。ホーバル水河の末端が見下せる所にロッジがあり、ここが車道の終点である。水河へはモレイン状の崖を1000呎ばかりくだる。村の子どもたちが湧くように集ってきて、チップをせしめるため荷物を持とうとか手を引こうとかやかましい。水河の末端は背い水溜まりで、水河そのものは砂利類にまみれて岩のように固まり美しさはないが、そのかなた上方に輝くテイラン・ミール・ゴールデンピーク等7000呎級の白い峰々は崇高なまでに美しい。ロッジの庭にテールをセットし、太陽の恩恵を全身に浴びてのランチタイムを過ごす。復路は同じく内蔵が位置を変えるのかと思うほどの揺れだったが、それにもかかわらず疲れてぐっすり眠った。

旧王宮の庭の香もこの暖かさで急に咲き始めた。楊梅は芽吹きだしたが、ポプラはまだ気配すら見えない。夕方まで昼寝する。

夕食は元ミール主催のダイナーに招待

ルチットフォートを訪ねる。昔北の方から侵襲して来た王が築いた特で、現在修理中のバルチットフォートと共にフンザの守りの要衝として宿敵ナガールに對していた。特の南面はフンザ川の深い断崖で、望楼は遠望がきく。フォートの上からは村落の生活の様子が一望できる。住居は伝統のままのもの、近代的な屋根のあるもの等。屋根の上は洗濯物の干し場や、農作物の乾燥場にも使用する。屋内は晴いので雨の日以外は家内作業は屋上・屋外で行われる。この国の特に辺境地方では女性や主婦はもっぱら家内仕事に従事し、屋外へ出ることも少なく、日常の買物は男性の仕事の範疇に属している。村の中心部あたりは男性ばかりが溢れ、男性一人が手を翳いで歩く姿をしは

される。敷地内の白い二階建てが旧王宮である。旧ミールとその妃の出迎えを受ける。回教国では飲酒禁止なのに、ウオッカが振舞われたのは、たいした歓迎ぶりと言えよう。夫妻の若かりし頃の写真が掲げてあったが、さすがエリートの実男・美女である。隣のダイニングルームでのダイナーは、スーパから始まったが、メインが何か判らぬままデザートもなく終了し、お粗末の一言。リビングルームへ移り、男性は元ミールから、女性に妃から記念のフンザ帽が贈呈された。帽子はフェルト製のハンチング風のものだが、とてもかぶる気にはなれない。

固い親愛の握手を交わして退席後、庭の一角で村民たちのフンザの踊りが特に披露された。はじけ飛ぶ篝火に映えて演じられる剣と槍を持つての勇壮な踊り。大人と子どもが老人に扮して綱引きをするコミックな踊りなど、観客方も素朴でも興味深く拝見した。手荷物を整理して就寝。今夜もフンザは肌馴染み入るような白い月の光のなかに沈んでいた。伝承のお話を一つ。この国は信義が厚く、約束事は上下の別なく厳守する習慣が根強い。ある時、王妃が狩猟に出かけ

しば見かけられるが彼等はホモセクシュアルではない。子どもたちはみんな可愛い。粗食のゆえか成長が遅く身長も低い。しかし、女性は一般に14~15歳で結婚すると聞く。従って乳幼児の生存率も低い。昔からKKHに戻り、グルミットをめざす。アルチットフォートからフンザ川を隔てた対岸にも仏教時代の遺構が残っている。どここの遺跡にもつきものの記念の落書きのヒタ文字は遺物と混同しそうだ。

アーメッドバードで再びフンザ川を越え、しばらく行くと、モレインが道路まで押し出して大崩壊を起こした箇所。大型ブルドーザが復旧に活躍中だが片側交互通行可能であった。モレインの厚みは3層近く幅は100呎程あり、車は転

| 山と自然の本                  |              |
|-------------------------|--------------|
| ヒドンピーク初登頂               | ナラン著 著者・写真   |
| ミニヤコンカ初登頂               | トニー・ヒンチン著 写真 |
| 落日の山                    | 山崎 孝雄        |
| 山の響き                    | 田嶋 吉雄        |
| 関西山域の古道(中津川)            | 中津谷 直        |
| 東部丹波の山(山田)              | 内田 新弘        |
| 兵庫丹波の山(山田)              | 奥村次雄         |
| 近畿の山(日帯り)武蔵野            | 20000・19422円 |
| 京都滋賀湖沼の山                | 中津谷直・吉岡章     |
| 近江 湖北の山                 | 内田 新弘        |
|                         | 山本 武人        |
|                         | 20000円       |
|                         | 和仏山岳用語研究     |
|                         | 村西 博次        |
|                         | 30000円       |
|                         | 村西 博次        |
|                         | 22000円       |
|                         | 西尾 芳一        |
|                         | 3107・3900円   |
|                         | 大屋山岳協会       |
|                         | 各22000円      |
|                         | 高木 泰夫        |
|                         | 19422円       |
|                         | 酒井 道男        |
|                         | 2427・2718円   |
|                         | 酒井 道男        |
|                         | 各19422円      |
|                         | 日本山岳会本部      |
|                         | 1845円        |
|                         | 2718円        |
|                         | 向藤清明編        |
|                         | 2816円        |
|                         | 平井 一正        |
|                         | 2816円        |
| ★表示の価格は税別です             |              |
| ナカニシヤ出版                 |              |
| 京都市左京区吉田二本松町2           |              |
| ☎075-751-1211 平606-8316 |              |



測するのかと心配するほど揺れたが、無事通過できた。熱波ドライブに拍手を助る。

昼食には少し早過ぎるということで、バスまで足をのばし、遊路船のレストランの前庭で休息する。春の巨差しはやわらかく、風は肌にあざしくい。クッキーとアラックティのひとときは心相ませる。パーティーの一同が初めて歓談できた席でもあった。戻ってグルミットの本店の宿泊所マルコポーロインに入る。暑いスイープと焼きだてのナンは昼食に満足する。

午後には予定のグルミン水河橋断散策は、水河の状態がかんばしくないとのことです。中止。フツサニの手前までバスを停め、石湿りの斜面をボリド湖まで登り一周する。以前はもつと水量も豊かだったそうだが、水河後退の影響で縮小していた。日がかげつてくると風も冷たく感じる。グルミン水河の奥に鎮座するシスパーン（7610m）は厚い雲のなかだったが、フンザ川向こうの川岸からまっすぐそびえて天を切り裂くようなカールンホー山群には神々の座を感じた。中国との国境のフンジュラーフ峠まではわずかに1200mで相互の往来も頻繁で、装飾その他に中国

色が濃い。

グルミットの村を放棄する。民家は日乾瓦葺や粗石の粗積造の平原造で開口部は入口と煙出しの穴があるだけ。屋内はモルタルか漆喰で仕上げる。煙道は小屋組の四隅に火打材状に組み、だんだんと小さくせめるようにして作る。村民の好意により、居住中の家屋の内部を見学させていただく。煙物一杯の大きさは6材角（約9坪）程で天井高は2材ばかり。中央にはルンペンストープがある。壁面の一方の木製の棚にその家の貴重品を並べて飾りとする。家族は5〜6人で、この穀倉の周囲で昼夜を共にする。

照明は石油ランプか10ワツ程度の豆球一個。その家の主婦が病臥中なのが判ったので、迷惑を詫びて早々に退出した。外へ出ると大勢の子どもが集まっているがやはり女の子は少ない。年頃の娘は母親が家へ帰るよう大声で呼んでいる。女の子はカメラを向けると恥ずかしいのか習慣からか顔を隠すか逃げ回る。学校のグラウンドでは大人も子どももクリケットに興じていた。村長の目は青くて金髪が多く、一見ヨーロッパ人と変わらない。回教のなかでも比較的規律のゆるい宗派だとい

う。歴史博物館といたいような名称の建物は、物質小屋間際の階層で、中央に土の竈があり、グルミットの飯、器具や武器、ヒョウの剥製などが次をかねて雑然と陳列されていた。

宿泊所へ戻ると、またまた水が出ない、電灯が点かないとひと騒ぎ。そのうえ夕刻思わぬ夕立があり、寒気が押し寄せる。19時30分、夕食の順には電灯も点り、水道も支障なくなったが、何かとても寒々とした寂しい夜を意欲したのにはなげだろ。満天の星の近さが地球の屋根を感じ、郷愁を誘立てる。

昔々、フンザが隣国に攻められ、ついに王城の陥落も間近となった。王は養する王妃を敵の手から守るため、険しい峠の上へ隠し、必ず迎えに来るから待つようにと袋入りの太鼓を身に着け帰郷へ戻ったが、利なく、妃の迎えを待つ希望は空しくなった。この岩壁をタインズピータと名付けた。ウルタル工場の故に位置するのがそれである。今もこの峰に登る者は必ず一握りの太鼓を持参し、王の迎えを待っている妃のために頂上に置くのが習慣となっているという。

（次ページに続く）

## 連載

# 九州・東北の山へ進攻

坂井久光

一等三角点碑（500m以上）548座完登の記録（第9回）

昭和58年の夏も過ぎ、東京の秋を迎え東北の名峰・栗駒山（1688m）へ登った。10月7日の夜行の急行に乗り、一ノ関駅で下車。バスで栗駒温泉に入った。名残々原の湿原や火口湖の昭和湖を通過して山頂へ着いた。風景広大で、北に磐石、東に望来山、西に山伏・虎手山が、南に花洞山が展望できた。往路を下山して温泉に入って帰京した。

11月は船形山（1500m）へ。山形県の花沢市から郷子峠で登頂し、古川市へ下山した。次の日に一関市近くの東船山（596m）へ登って、翌日福島県の猪苗代湖畔の高取山（968m）へ郡山中からピストンして帰京した。

11月25日、夜行の関西汽船で松山港へ到着し、松山駅から大洲市篠市のバスで松川上流の大久保へ入り、四圍で登り残していた大野ヶ原の頼氏ヶ駄場（頼氏ヶ原）へ向かった。26日の夕方となり、大野ヶ原の高原荘旅館で一泊した。この主人武田喜氏は、カルスト地形の石灰岩台地の熊毛の地で、戦前陸軍の演習場だったこの荒野を開拓した。戦後の昭和21年、15名の開拓団員と入植し、水不足に悩みながらもテントや社を住み家とした。1000坪の高原の冬の寒さや、台風にも襲われたりして米・麦は否たず、落後者が出たが、新人植民者もあり、ダイコンの栽培で一息ついた。のち牧草の育

千地峰山にて



坂から船形経営に転じて現在の近代農業村に生まれ変わった。

翌27日、四国八十八ヶ所の阿波岐の立つ登山路を登った。途中山頂には小屋があった。風景広大で高取山・大川崎・雨山が望みできた。下山は東へ降り、船形（1310m）を経由北へ降り、落出に出て、松山温泉でバスを降り関西汽船で帰京した。







## 中山王子から榎木峠越

### 熊野街道探索 (印南駅から南部駅)

コースタイム 紀勢本線印南駅(40分)→中山王子(45分)→切目神社(20分)  
 切目駅(15分)→中山王子神社(30分)→榎木峠(40分)→榎木上入峠(20分)  
 熊野街道(15分)→熊野街道(15分)→熊野街道(15分)→熊野街道(15分)  
 熊野街道(15分)→熊野街道(15分)→熊野街道(15分)→熊野街道(15分)

## 中村敏文

JR西御坊駅から海岸線に沿って切目王子に至る10数kmの熊野街道は、山々が海に迫ってそそり立ち、平安時代の古道はおそらく波打ち際か現在の海中だろう。その先の街道も海岸台地に通じる国道42号線に併合され、海景の美しかった道は吉のことで、古道探索どころか車騒音の嫌な道と変わる。今回はこの車道を省略し、印南駅から切目駅を経て南部駅までの20kmコースに挑む。

① 王子(船)王子社(日高郡印南町印南) 紀勢本線印南駅で降りると印南川を渡り南へ20分、印南港を半周する国道42号線に吸収された熊野街道に出る。御坊市東端から切目王子までの熊野街道は車が

にふさわしい昔からの景勝地である。

③ 中山王子神社(日高郡印南町島田) 切目川を渡ると島田で、10分も行くと同様に雑貨屋が一軒ある切目駅に着く。駅の東側の光明寺の傍らから、榎木峠へ上がる熊野街道に入る。切目駅から1、も行くくと左手に市杵島姫命等をまつる中山王子神社がある。



速度を上げる四二号線で、国道に入って光川の集落を15分で抜けきると富王子峠へ着く。  
 光川王子・船王子とも言われた富王子は旧光川村にあったが、明治に入り印南の八幡神社へ合祀され、その後に地元の希望で現在地の小祠へ分祀された。  
 印南町はやや東西に長く、大部分がゆるい山地と丘陵地である。そのなかを印南川と切目川が太平洋へ流れ、谷筋に集落が集中する。南西部は太平洋に面し、両川の河口付近を除くと山地の迫った景色のよい海岸で、海岸に沿って熊野街道が通じていたが、現在は国道42号線に拡張されている。富王子から東へ1、も行くくと国道から旧街道が左に分かれ、左手

中山王子は現在地より東へ八町の中山地区内の王子ヶ谷に鎮座していたが、鎌倉時代には現在地に移転したらしい。明治末に高田地区の小祠を合祀して中山王子神社となり、足の病が治るといふことで信仰を集める山伏社(足神さん)と金屋姫・八坂の境内社がある。

島田は印南町の広い大字で、切目川下流の左岸は平地、南部・東部はほとんど山地である。景勝地・切目峠のある南部の海岸は国道と並行して紀勢本線が通じるが、熊野街道は榎木峠を越えるときは、いざなり坂が海岸近くまで続く。雲霧あふれたかな足神さんに祈りを捧げたが、中山王子からの3、の峠越えは疲れる。向かい合う人家もない山かげ道をくだりきると目前に展望が開け、海岸段丘を利用して都市向けの花を栽培する島田の東端、橋ヶ谷の小子に出る。

④ 有間王子の結び松(南町町西ノ池) 橋ヶ谷の集落を抜けると南町町に入り、熊野街道は再び国道に吸収される。町境から10分も行くくと新井代バス停があった徳島藤原の跡がある。「勢代の浜松が枝を引き結び、まきさくあらばまた通り

北側に切目神社が鎮座する。

② 切目神社(印南町西ノ池) うっそうと茂る老樹に囲まれて、文禄元年(1592)再建の本殿と拝殿がある。九十九王子のなかでも藤白・藤紫根・滝尻・院心門王子と同様の五体王子の一つである。

熊野産現も一時期は当地に鎮座したという格式高い聖地で、崇神天皇の頃に祭祀が始められたという古い歴史を秘めている。祭神は天照大神ほか四柱で、五柱をまつる故に五所王子と言われ信仰されていた。

棟札によると、本殿は貞享三年(1688)の建立で、拜殿は明治末の再建である。天正十三年(1585)の兵火で焼失するまでは立派な社があったらしく、境内の樹齡三百年のケルトノキなど、神社森は盛時の王子社を凌ぎさせてくれる。

神社の北東にある御所屋敷の地名は後鳥羽院の仮御所の跡と言われる。切目神社から切目川を渡り切目駅までの1、は旧道が残され、太平洋の潮の流れが内海と外海との切れ目にあるという地名

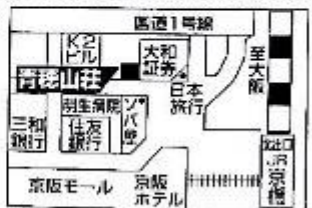
### 山歩きが一番重要なポイントは…「靴」です。

「靴」の選び方、合わせ次第で、山行きが楽しいものになるか、終始苦痛なものになるか、それはもうエライ違いです。初心者から上級者迄あなたの足に合う「靴」をアドバイスいたします。又、自分の山行に合うグループの紹介もしております。

- 山用品は全て安く揃います
- 登山・山スキー・専門店



青徳山荘

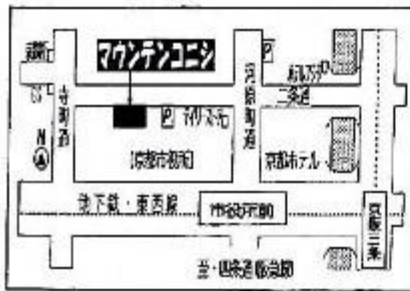


京橋店 大阪市都島区東野田町2-9-24  
 TEL 06 (351) 8691



おかげさまで 50 周年！  
登山・トレッキング用品の専門店  
マウンテンコニシ

山深・BEST GOODSより  
登山を中心としたアウト  
ドア専門店です。準備万  
全で楽しむ山歩きだから  
用具選びにはベストをつ  
くします。特に初心者・  
中高年の方で、「何を揃  
えたらいいの？」とお  
悩みの方は遠慮なくご相  
談下さい。人力移動には  
「足元大事！」。シューズ  
フィッティングには時間



をかけて足に合った靴をお  
選びします。また、春・夏・  
秋・冬と定期的に初心者セ  
ミナーからトレッキングツ  
アーを開催して、「安心と  
信頼の店」をめざします。  
ベストグッズはアウトドア  
できっと貴方の良きパート  
ナーになるでしょう。

京都市中京区河原町二条西入 営業時間：平日11:00～20:00  
日祝10:30～19:30  
☎(075)231-1202代 FAX:256-4688 乗バーキングサービスあります(1時間無料)  
※地下鉄東西線・市役所前駅下車 徒歩約3分

見むと、わが身の潔白を信じ飛鳥の部  
へ還れると岩代の神に望みを託したが、  
許されることもなく藤白坂で無念にも29  
歳で刑死した有馬皇子を祀る記念碑である。

⑤ 岩代王子跡 (南部町西岩代)  
有馬皇子記念碑から国道の歩道を前を  
眺めながら15分ほど歩き、岩代駅手前で  
右折しガードをくぐる。海岸側に岩代王  
子がある。

岩代王子は明治末には岩代八幡宮へ  
諸社とともに合祀された。しかし漁業不  
振が続き、移転に関係した人々が不思議  
な病に苦しむので、村人たちは神のたた  
りとおそれ御神体を元の王子跡へ戻した  
という。

『紀伊統風土記』には東岩代川南寄り  
の涯辺にある天神社を岩代王子に当てる  
が、真偽のほどは確かめがたく、王子跡  
から国道と離れた熊野道へ戻り、左折・  
右折を繰り返して東へ進むと、片  
倉の集落で国道に突き当たる。国道から  
離れるように右折して南に1.5kmも行き、  
紀勢本線をくぐり少し東へ行くと、千里  
王子社と少し上に王子社の本地伝如意輪  
観音をまつる千恵観音堂がある。

⑥ 千里王子社千重観音 (南部町山内)  
熊野街道の古道が通じていた千里氏は、  
日津神から東岩代川河口まで1・2kmの  
海浜である。古代から景勝地として知ら  
れ、『枕草子』『伊勢物語』『大鏡』な  
どの古典にも見える。

千里浜に鎮座する千里王子神社は拝殿  
と覆屋のなかに表社の本殿がある。建仁  
二年(1201)の『後鳥羽院御幸記』  
には「先陣千里浜を過ぎ千里王子に参る」  
と記され、初代紀州藩主徳川頼宣が寶子  
一対・三ツ具足と繪馬二枚を寄進し、そ  
の後も歴代藩主の信仰を得て何人かの藩  
主が参拝している。明治末に南部川村の  
須賀神社へ合祀されたが、山内の人々は  
燈火火出身尊と本地伝如意輪観音の祭  
祀を継承している。

千里王子社から2.5km先の南部峠への登  
りを10分ほど歩くと、東北へ方向を  
変えて紀勢本線を越え、ゆるい坂道を上  
がる。

南部峠から南部駅までは4.5kmの道の  
りだがぐらぐら歩きやすい。峠から1  
kmほど下り紀勢本線を越え、中内の  
中程で国道に入る。国道を1.5kmばかり伝  
い南部橋を渡ると気佐集落で、熊野街

道は北道集落の北部を曲折して三郷王子  
へ通じる。

⑦ 三郷王子社 (南部町北道)  
三郷王子社と鹿島神社・須賀神社は南  
部三社と云われたが、明治末に鹿島神社  
を須賀神社へ移し鹿島神社を改称したた  
め須賀神社名はなくなる。小祠となつて  
いた王子社は最近の道路改修で整備され、  
県指定史跡となり、多くの飯俵・歌碑な  
どが残る。

古代の南部氏は伏見宮家の荘園で後鳥  
羽上皇から三郷王子へ多大な布施があつ  
た。近世は南部郷三社の一つとして十五  
ヶ村の経費負担で立派な社も建てられた。  
明治に須賀神社へ合祀され移築された社  
は現在の須賀神社本殿である。『統風土  
記』に「熊野往還なり故に道村の名あり」  
と記され、街道の北側が北道で、街道を  
挟んで南側が南道村である。

三郷王子から東へ北道の町中を15分  
も行くとJR南部駅に着く。

有名な南部梅林は南部町と田辺市に割  
り込んだ南部川村の南部地域にあり、南  
部町にあるのではない。



# 猿沢池に采女祭を訪ねて

松永恵 一

**采女祭**  
帝の寵愛が衰えたのを嘆いて、猿沢池に身を投じた采女の霊を慰める采女祭は、中秋の名月の夜、猿沢池と采女神社で行われる。

午後5時、秋の七草で飾った花扇をひいた稚児や采女が市内を練り歩く。天平衣装の一行が南都実所の雅楽の音とともに、JR奈良駅前から三条通りを練り歩き、猿沢池に向かう。花扇は、彩り華やかで2枚あまりある。その後を御所車に乗った花扇使があてやかな十二単姿で続く。

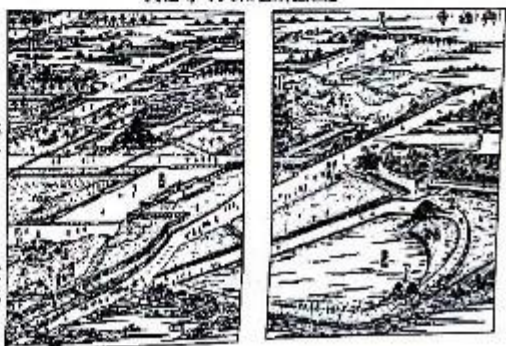
午後6時、行列は猿沢池に到着。池の北西の隅にある小さな祠の采女神社で神事が営まれる。

午後7時、月が春日山にのぼる頃。あてやかな十二単姿の花扇使らが乗った古式ゆかしい竜頭船と鶴首船の二隻の船が雅楽を奏でながら、三十余の流し灯籠の間をぬって采女の霊を慰めてゆっくりと池をめぐる。花扇が水面に浮かべられる。満月に照らされ、雅やかな古代王朝絵巻が繰り広げられる。

池のまわりを理め尽くした見物客から歓声と拍手が湧き起こり、祭りは最高潮に達する。

古くから営まれていた中秋の名月の夜に采女の霊を慰める小さな例祭が、今のような情緒あふれる月の夜の祭りになったのは昭和二十七年のこと。当時の水谷川忠勝・春日大社宮司の始めた祭り。

興福寺「大和名所図絵」



水谷川宮司は近衛家の出身で文暦の末弟。近衛家では七夕の日に花扇をつくり御所に献じ、宮中では鑑賞した後、臨の池に浮かべたという。竜頭鶴首の船は『源氏物語』「胡蝶の巻」の初めに出てくる。紫上の仕んでいる六条院の御殿の庭の池に秋朝中宮が浮かべて遊んだ船。猿沢池。宮廷をめぐる悲恋の伝説。中秋の名月。興福寺の塔。池畔の柳。人々の思いを天平ロマンへと誘う。

## 采女の伝説

采女の伝説は平安時代初期に書かれた『大和物語』に残る。

昔、奈良の帝にお仕え申し上げる采女がいた。容貌がたいそう綺麗で、人々が言い寄り、殿上人なども求婚したのだが、結婚しなかった。その結婚しないわけは、帝をひそかにお慕い申し上げていたからであった。あるとき、帝がお召しになった。ところがその後、二度とお召しになったので、このうえなくつらいことに思えた。采女は一日中帝を思い続け、また恋しく、つらく思われなされた。帝は采女をお召しになったが、取り立てて心をおとめになることもない。それでもやはり、采女は職務がら帝とは毎日顔を会わさねばならない。恋しさと切なさは算るばかりである。これ以上生きてゆくことができそうにない気持ちでいた采女は、夜ひそかに抜け出して猿沢の池に身を投げてしまった。このように身を投げてしまっても、帝はお知りになることができなかったが、ある人が申し上げたので、お知りになった。帝はたいそうひどく気の毒にお思いになって、池のほとりに行幸なさって、人々に歌を詠ませなされた。

## 植本人麻呂が、

わさもこの ねくたれ髪を 猿沢の池の玉藻と みるぞ悲しき

あのいとしい乙女の寝乱れた髪を、猿沢の池の藻として見なければならぬのは、まことに悲しいことです。

と詠んだときに、帝が、  
猿沢の池もつらな 吾妹子が たまもかづかば 水ぞひなまし

猿沢の池までも恨めしいことだなあ。あのいとしい乙女が池に身を投げて水中の藻を被いた時に、水が乾いてしまえばよかったのに。

とお詠みになった。そして、この池のほとりに采女の墓をつくらせてお帰りになったというのである。

(大和物語 百五十一)

この人麻呂の歌は『拾遺和歌集』巻二十、哀傷にとられている。

清少納言は『枕草子』三六の「池は」で次のように評した。

猿沢池は、昔、采女が身投げしたのを帝がお聞きあそばされて、行幸などがあつたそうだが、たいそうすばらしいことだ。「ねくたれ髪」を人々が詠んだという時のことなどを思うにつけても、なかなか

## 言葉につくせないほどだ。

世阿弥は謡曲「采女」を書いた。采女の亡霊が座僧に昔の物語をしたのち、回向を乞うて猿沢池に入るという内容である。采女衣という装束がある。上には波衣(青波の模様)と絵衣(雲形の中に彩色の椿の花の絵)を重ね、下には紅梅の袴をつける。

『御伽草子』もこの物語を取りあげ、「つらみわびたる猿沢の池」という句から、この物語を説きおこしている。

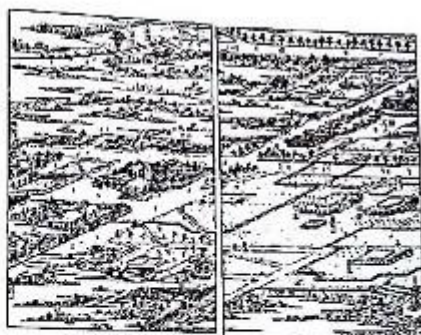
福島県郡山市にも悲しい采女の伝説が残る。

葛城王が陸奥国に遣わされた時、安積の甲(現在の郡山市)で甲長の娘・楳姫を見初めた。王は貴き物を三年間免除するのと引き換えに、楳姫を采女として献上させることにした。

楳姫には太郎という許嫁がいた。楳姫は帝の寵愛を受けていたが、太郎恋しさから中秋の名月の夜、猿沢池の柳に衣を掛け、入水したように見せかけて安積の里に戻った。

ところが、太郎は悲嘆のあまりすでに清水に身を投じて亡くなっており、楳姫もあとを追ったという。





興福寺【大和名所図説】

コース概観

今回は、吉野奈良の猿沢池に采女祭を訪ねてみた。猿沢池の池畔にまつる采女神社の祭神の悲恋を慰めるために生まれた祭りは、名月の夜をいっそもうロマンチックにする。古代王朝絵巻が夢幻の世界へと誘ってくれる。

近鉄奈良駅を降りると、そこはずでに興福寺である。猿沢池は興福寺の放生池であり、興福寺の五重塔が影を落とすようにある。



に隠れて見えにくい。  
池の東端の柳の木の間には「きぬかけ柳」という柳がたまたま。采女が入水するとき衣をかけた柳という。采女地蔵といふ小さなお地蔵さんがまつられていて、池の東から石段を上ると興福寺境内。反対に南へ家並みの中を行けば元興寺極楽塔。石段を上ろう。この石段を五十二段と呼ぶ。菩薩修行の階位五十二位にちなんだものという。数えてみると確かに五十二段ある。

JR奈良駅の北を東西に通じる道が奈良時代の三條大路である。今は三條通りと呼んでいる。今の奈良のメインストリートは、近鉄奈良駅から東へ奥河内の方へ向かう広い道・登大路であるが、昔は三條大路から二町北に位置した小路であり、興福寺境内の主要伽藍と塔頭を辿る道であった。

興福寺の南大門前を通る三條通りを歩いてみる。東向、餅敷殿の商店街を過ぎる。「東向」はかつて東側に興福寺の築地があり、商家が西側東向きに並んでいたころの名残。「餅敷殿」は興福寺七井天祠に餅敷を供した故事に由来する。現在の奈良の町は興福寺の門前町として栄え生きた経てきた。道は上り坂にさしかかる。左手には製光客相手の土産物屋が軒を並べる。坂の名を「すべり坂」という。

左手に三重塔が見える。右手に猿沢池が広がる。池に面して小さな祠がある。天皇の寵愛を受けなくなったことを悲しんで池に身を投げた采女をまつる采女神社である。采女の霊が、我が身を投げた池を見るのはいやだと、一夜のうちに背を向けてしまったという言い伝えがあり、

上りつめると五重塔がすぐ右手近くへ迫っている。ふり返ると葛城・金剛・古野の山々が見える。

三條通りを渡ると土葬が見える。中央の空いた部分が南大門跡である。平安時代後期に大江親通が記した「七代寺巡礼私記」によると、正西五間、奥行二間、中央の三間に扉が付き、外側の各一間は、門の外に向かって金剛力士が、内に向かって鎌子が置かれていたことがわかる。

『手治拾遺物語』に面白い話が残る。昔、奈良に職人徳業忠厚という僧がいた。鼻が大きすぎてしかも赤かったので、「鼻大人」とか「鼻くら、鼻くら」とか言われて、笑い者になっていた。

その患いが若かったときに、猿沢池のほとりに、「某月某日、この池から能が天にのぼるであろう」という札を立てたところ、老いも若きも、身分も別れもありそうなるも、「見たいものだなあ」と、がやがや話し合っていた。それを見てこの鼻大人は、「おもしろいことだ、俺がしたことを見て世間の人が騒ぎ合っている。愚かしいことだ」と、心のなかで笑い出したかのように思っただけども、そ知らぬふりをしていた。

朱塗りの鳥居の奥に後ろ向きにまつられている。

「さるさわ池」と諺が立っている。「澄まず濁らず、出ず入らず、蛙はわかず、藻ははえず、魚が七分に水三分」と、古くから言われる猿沢池は、「山階寺流記」などには「サヌナフ」と記されている。

『西城記』に「印度毘舍利國に彌板池があり、その西南に彌板が住んでおり、木にのぼり葉をとって水尊に献じた。池の西北に彌板の形像がある。「云々」とあることから名付けられたといわれる。東西およそ五十間、南北四十間、周囲百八十六間、岸の垂れ柳、五重塔や三重塔が水に影を映している。昔から「猿沢池の月」と称して南都八景の一つにかぞえられている。中秋の名月の日、池の水に星をひたせば霜やけにならないという言い伝えがある。

池の畔を南から東へ巡ってみよう。柳の枝越しに池をはさんで見ると五重塔の姿は、いつ見ても美しい。五重塔から左の方へ目を移していくと大きな円い屋根が見える。南門堂の八角形の屋根である。思々とした姿が男性的で雄大に見え、五重塔との対比が妙である。三重塔は物陰

およそ、大和・河内・和泉・摂津の者までこの話を聞き伝えて、集まり合ってきた。患印はすこし不審に思い始めた。その予言の時刻になって、この患印が思うことには、これはただごとでもあるまい。この龍の一件は俺がしたことであるけれども、これだけの人が見に来るといのは何かわけがあるのだろうかと思つたので、頭を包み隠して出かけた。

池の近くに寄りつけそうにもないので、興福寺の南大門の壇の上のぼり立って、いま能がのぼるか、のぼるかど待っていたけれども、どうしてのぼるはずがあらう。日も落ちてしまった。薄暗くなって、それにしても、このままに居るわけにもいかないので、「おが家」に帰っていった。

- △コース
- JR奈良駅→三條通り→采女神社→猿沢池→興福寺→近鉄奈良駅
- △費用
- JR大塚駅→JR奈良駅 780円
- 近鉄難波駅→近鉄奈良駅 540円
- △地形図④2万5千ニ奈良
- △問い合わせ先
- 春日大社 07442(22)7788



特選コースガイド

但馬

竹田城址を望む

# 大倉部山

中級コース (★★★)  
慶佐次 盛一

但馬は山国、どっしりとした山がゴマンとある。だが、地形図に山名が記載されていても、頂上まで道が描かれた山はほとんど無い。それどころか、取付き口さえ容易に分らない山が実に多い。そんな山を、自分自身の判断と読みで、ひとつひとつ登って行くのも楽しい。

ここに紹介する大倉部山もそんな山の一つで、取付き口を探すことから始めなければならなかった。標高のわりには展望があり、天候に恵まれるとすばらしい景色が得られることであろう。

山仲間のひとり、地元役場から大倉部山の登路情報を得たと誘いがあり、さっそく仲間たちと車で出かけることに

なった。

中国自動車道福崎インターから播磨道に降り、市川沿いに北上し、生野町の分水嶺を越え、今度は円山川沿いに走る。松茸の季節とあって、松茸の売店の看板が目立つ車道だった。目的の山も松茸山ではないかと心配したが、仲間の話では大丈夫のことだった。

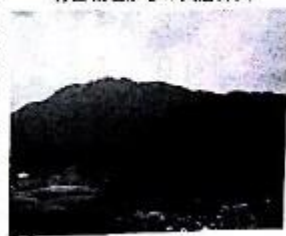
和山町に入り、円山川を渡って枚田へ向かう。枚田から赤松神社本殿の道標から岡へ向かう舗装林道に入る。仲間の話では、大倉部山北東山麓のこの林道から、少し破線が付いているところが登山口らしいが、これは何の目印も無く、つうっかりすると見過ごしてしまう。

車をゆっくり走らせ、土丘への分岐を確かめ、右に廃車置き場が見えたら、その先のヘアピンカーブの所が破線の入り口である。ヤナギ科の細い木が一本立っているから、一応の目印になるだろう。名残の夏草がびっしりとおおむね、茂みをかき分けるとはっきりした踏み跡が現れた。植林のなかに入ると山崎菅林野の大きな看板が建っている。看板には、大倉部山はオクラベ山と書いてあった。

入り口は夏草でおおわれていたが、植

林のなかに入ると普通の袖道だった。テープが所どころ残されているが、その取捨選択は難しいところだろう。

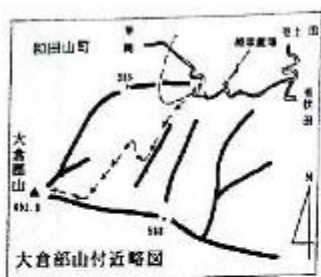
竹田城址からの大倉部山



私たちは、ほぼ南西方向の小屋根を選んだ。踏み跡程度の道だが、昔は小学校の遠足の山だったらしいから、深く掘り込まれた道跡らしきものも残っていた。

しばらく登ると捲き道が現れ、ほぼ西へ植林の奥つた中を進む。苔むす石が積み重なる所を登りつめると支屋根に出る。赤い残置テープがあった。この山は多くの支屋根を派生している。その支屋根をはっきりと見極め、いかに効率的にルートを選べるかが一つの鍵になる。

ここからは礎石で方向を定め、山頂の方向へ向けてひたすら高度を上げて行く。大きく広がる屋根帯だからどこでも歩ける。見事に成長した植林帯だが、この時期は花もなく展望にも恵まれない、ただ忍の



大倉部山村近略図

字で急登を頑張るだけである。

主稜線が近づくとササの生え込みがきつくなるが、やぶというほどでもなく、間もなく主稜線に出る。セメント製の標柱があり、標柱に「五〇」の番号が書かれていた。ここから右折して、いよいよ大倉部山へ向かう。一度に傾斜はゆるみ、少々ササが茂ってはいるものの、コナラ、リウブなどの雑木が映く明るい稜線だった。すぐに山頂だ。山頂は磐倉で、大倉部山の山名の由来が分かるような気がした。三等三角点は磐倉の横にあり、養父町の光明山の平坦な頂上などが見える。桜の老木が数本認められるのは、昔の遠足の山の名残かも知れない。西側には松の古木が残り、磐倉の後ろには大きな窪みがある。この山は雨乞いの山とも伝えられ、この窪みを竜穴に

なぞらえていたのかも知れない。忘れられた信仰の山……、そんな雰囲気を感じた山頂だった。

磐倉からは東と南側の展望がいい。雨上がりの後ですっきりとした視界は得られなかったが、足下に竹田城址が見え、円山川を越えて朝来山、その奥に霞むのは粟鹿山であろう。さらに南には青倉山の大きな反射板まで望める。天気さえよければ展望はもっと広がることだろう。

下山は東の屋根をたどる案もあったが、やぶがひどいとのこと、元の道を選んだ。時間に余裕があったので、竹田城址を訪ねることにした。竹田城址は映画「天と地と」のロケに使われた所で、大田原氏の築城。展望は360度、登った大倉部山を眺めながら思うにはいいだろう。なお、大倉部山の登山口までは、JR和山山駅からタクシーを利用できる。登山にあたっては、目印のテープや赤布などの持参をおすすめしたい。

△コースタイム  
福崎インター(車40分)登山口(1時間)  
登山口(1時間)登山口  
△地形図V2万5千 但馬竹田

## KOBEの登山専門店

「スナッグザック」  
夏山向き……汗対策のザックです。



- ウォーキングスナッグタイプ  
ベンチレーションサポートパッドにより背中は常に快適、バックパネル部がワンタッチで取りはずし可能。新案マグネットを装備、アルミフレーム内蔵。日帰りから一泊山行きに最適、かつび良きで定番のアタックタイプです。
- カラー：グエード×レッド・グエード×ブルー・グエード×ワイン
- 容量：28L ●重量：1,400g
- 素材：エスファリブストップ使用
- 価格：¥13,000

霧草、グリセード、岩のほり、お花畑から岩陰へ、みんなで登ろう、初秋の山。応援します。あなたの山登り。



## 神戸ザック

TEL:078-3621-5851  
TEL:078-3621-5851  
FAX: 821-3528



2等三角点のある山

淡路島の山々

山形 歳之

この春、世界一の明石海峡大橋が開通した。大阪方面からも、車で気軽に淡路島に行けるようになった。この橋の観光を兼ねて淡路の山々を訪ねてみた。山といっても、私としては当然三角点のある山になる。

淡路島には三点の1等三角点と、十二点の2等三角点がある。そのリストは以下の通りである。

- ① 1等三角点の山点名(内は山名)  
① 釜口山(釜口山) 475・8m  
② 竜宝寺山(竜宝寺山) 254・8m  
③ 輪鶴羽山(輪鶴羽山) 608・3m

路島嶺も橋脚際が立派な公園と道の駅になり、売店や食堂がにぎわっていた。島の北端、江崎灯台の下に車を止める。海峡を行き交う大小の船、大橋、明石の町々、天文台の姿も見える。巨大なタンカーが橋の下を滑って行くのは壯観であった。

江崎山(304・8m)  
海岸沿いを西に廻り込む。野島江崎村の入口に、「汐鳴山登山口」の標示がある。林道を登って行くと、碑の上に白い大きな海上交通管理所の建物が見えてくる。林道をそちらには行かず右手に直進すると、アンテナの所で舗装が切れる。この先は道が悪いので、ここに車を止め、5分程登った一番高そうな所から、右手に約20分入った所に標石がある。



- 5万m由良 2万5千m輪鶴羽山
- 2等三角点の山点名(内は山名)
- ① 江崎山(汐鳴山) 304・8m  
5万m明石 2万5千m明石  
常盤(城ノ瀬山) 293・5m  
② 5万m明石 2万5千m飯原  
\*城ノ瀬山は「点の記」が2等になって  
いるが、標石は3等で、地勢図の20万円  
にも記載がないので「点の記」が間違っ  
ていると思われる。
- ③ 雀ヶ原(一) 288・9m  
5万m明石 2万5千m飯原  
東山寺西(一) 343・9m  
④ 5万m洲本 2万5千m志筑  
高山(一) 201・4m  
⑤ 5万m洲本 2万5千m洲本  
宇山(一) 234・3m  
⑥ 5万m洲本 2万5千m洲本  
松根村(一) 86・5m  
⑦ 5万m洲本 2万5千m都志  
柏原山(柏原山) 569・3m  
⑧ 5万m由良 2万5千m由良  
神輿松(一) 230・9m  
⑨ 5万m由良 2万5千m広田  
沼島(雀ヶ峰) 117・3m

- ⑩ 5万m由良 2万5千m輪鶴羽山
- \*淡路島の離島になる
- ⑪ 南遍寺山(南遍寺山) 274・8m  
5万m鳴門海峡 2万5千m御良  
瀬崎(一) 157・1m  
⑫ 5万m鳴門海峡  
2万5千m鳴門海峡

平成10年4月5日に明石海峡大橋は開通する。開通するとフェリーを利用することもなくなるので、最後のフェリーにも乗ってみよう。前日の4日に自宅を出発した。阪神高速を須磨で降り、国道を明石に向かう。完成した大橋に近づいて見ると、改めてその巨大さに圧倒される。

やがて明石フェリーの乗船場に到着する。土曜でもあり、私と同じ思いらしい家族連れのマイカーがたくさん並んでいて、1時間待ちであった。舞子フェリーは橋の開通と共に廃止になるが、明石フェリーは料金を下げて運行されるようだ。乗船するとわずか10分で岩屋港に到着するが、その間明石大橋を真横に見て、最後は橋を滑って岩屋港に到着するので、まるで明石大橋の観光船の感がある。淡

常盤(293・5m)

西海岸を南下する。サンセットラインの標示が各所に立っている。この海岸線は夕日が美しいのだろう。先の地震でできた野島断崖記念館の看板がやたらに目につく。盛浦から山に登る道に入る。山上1帯が大造成工事中で、淡路島は震災復興と大橋の開通で、今や大開発の最中である。造成地の裏側の一番高い所に車で登ると、ここが城ノ瀬山公園で、展望台になっている。片隅の標石は何と3等と刻まれていた。

後日、近畿測量部で確認すると、「点の記」は確かに2等になっている。「標石は3等でしたよ」と伝えたら、「再調査します」とのことだった。

雀ヶ原(288・9m)

道なりに高原を南に走り、新しく造られた「あわじ花さじき」の公園に至る。背後の真白に大きな水タンクが聳っている。この一番高い所に三角点があるように感じるが、三角点は手前の車道際の西側にある。水源池のフェンス界の中に入れない。外からのぞき見るほかはない。この「あわじ花さじき」公園はすばらし

い所で、眼下に明石大橋を見下ろし、大阪湾や阪神の都市が展望できる。

車道には「野島断崖記念館」の案内がやたらと目につく。新聞でも報じられた地震の記念物なので、ついでに立ち寄ってみる。立派な建物に広い駐車場。観光バスが並び、大勢の人が群がっている。金500円を支払って会場に入っていると、田んぼの畦道が30×40mの段になっている。このあたりの傾斜地の田んぼならみなこのように、学術的に価値があるとしても、観光的には何の価値もないと思う。

東山寺西(343・9m)

西海岸をさらに南下する。室津を過ぎ、尾崎で「淡路国際ゴルフ場」の案内に従って山に登る。三角点はゴルフ場入口の右側の小山の上にある。麓の土建会社の材料置き場らしい所に車を止め、はっきりしない踏み跡を登る。ゴルフ場から西に戻る途中「香りの湯」の看板に引かれて車を走らせる。ここも新しく開発された観光設備で、温泉や食堂、ハーブ等の香料の売店が建ち並んでいた。







北摂の静かな山

青貝山と天台山

初級コース(★)

柴田 昭彦

能勢妙見宮で有名な妙見山の南方で、豊能町と箕面市の境界に位置する青貝山は、地味で一般に紹介されていない低山であるが、山頂には3等三角点があり、南側の展望が開けていて、静かなハイクが楽しめる穴場である。

一方、天台山はハイキングコースが設けられ、川尻や妙見口から天台山・光明山を経て妙見山に至るコースがよく利用されている。元禄十四年(1701)の『撰津名所図会』や、寛政十年(1798)の『撰津名所図会』には、すでに天台山という山名が見える。ところが、明治四十二年測図・大正元年製版の二万分一地形図「妙見山」では、なぜか「川尻山」と

なっている。これが「天臺山」の山名となったのは、大正十二年測図の二万五千分一地形図「妙見山」からである。今回、青貝山を巡るコースと、天台山に至る三つのコースを紹介しよう。

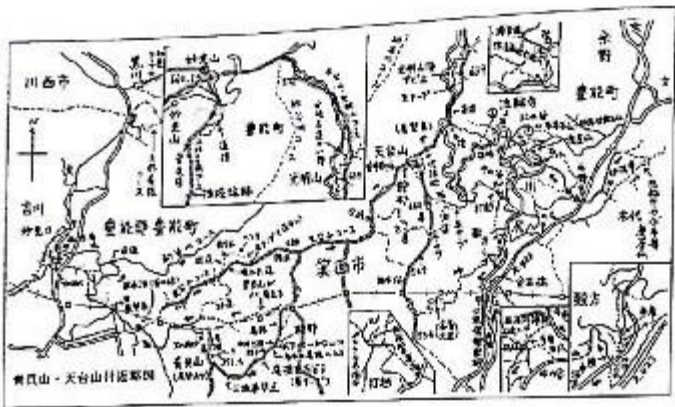
能勢電鉄、妙見口駅で降りる。駅前の道標で右へ折れて天台山コースをたどる。火舞よけの宇を彫った破風のある西方寺を過ぎてすぐ右へ折れ、増見橋を渡ってすぐ火の用心の目印で、左の道を上がる。車道を横断してまっすぐ進み、民家の手前で、道路上の豊能町空気の丸い蓋のある分岐で右手に上がる。細いコンクリート道となり、やがて、天台山コースの車道と出合う。あとは車道を上がり、展望抜群の鉄塔のそばを過ぎて、左手に東と西をわきわき配水池がある分岐点に出る。分岐点で、左の地道の林道をたどるのが、ハイキングコースであるが、青貝山へは右の車道をくぐる。ほどなく分岐で、左をとると、少し先で頭上に送電線が現れ、その直下の右手にくる細い道に入る。少しやぶだが、渓流を渡り右側を進む。道は左へ曲がり、岩が目立ってくる。谷づめの途中で火の用心の看板があり、

青貝山の山頂



左手へ遠視路をたどる。右へ尾根筋を上がると鉄塔に出る。ここから道はやや不明瞭となるが、背後の尾根道をたどれば、「さらく会」の目印のある山頂北側のピークに達し、ほどなく3等三角点のある頂上にたどり着く。

意外に広い山頂で、南方の展望が開けている。左の明ヶ田尾山から鉄塔の立つ鉢伏山へ続く山並みがよく見える。「日



本山岳ルート大辞典」(竹書房、平成九年)によれば、青貝山の山名のルーツは、「この山から螺鈿の材料に用いられる珍しい青貝が採れるという山名」だとい

う。この名が最初に見えるのは、明治四十二年測図の地形図のようであるが、青貝が採取できるかどうかは、不明である。このあとたどる境界尾根コースには道はないので、ルートファイディングのできない場合は、往路を戻るほうがよい。

山頂から東方へ、増見石橋や赤白黄テープをたよりに境界尾根をたどる。224番の標示杭を過ぎたら、そのまま直進していると尾根が切れて、テープに誘われてどんどんくぐってしまし、道を大いやすい。その時は、くだる手前に引き返し、北側にのびる尾根に軌道修正すればよい。北への登りの途中で明瞭な遠視路に出合う。左へとくぐってゆけば、見晴らしのよい鉄塔に出る。青貝山の全貌が目に入り、気分爽快である。あとはくだるのみで、元の道へ合流して妙見口駅へ戻る。

最も一般的な天台山へのコースは、妙見口駅から道なりに車道をたどり、分岐で右をとって、配水池に出て、天台山・光明山・妙見山を縦走するものである。竹林を過ぎ、林道を横切ったあとの尾根筋の古道は、溝状に掘られているが明瞭

で、次の分岐で左をとってジグザグに登れば、山頂西側の鞍部に出る。山頂には中継局の建物があって景観を壊し、その先の3等三角点は植木のなかにあり、南への尾根筋の道は消えていて通り抜けできないのは残念だ。

『撰津名所図会』には、天台山の山頂(山頂)に、弘法大師加持の名石(帝王御石)があり、縦三尺五寸(約一貫)ほどで、その窪みには早天でも常に水があると、江戸期の状況を伝えるが、この観石の所在は現在では明らかではない。『撰津名所図会』では、室王石と呼ばれている。鞍部に戻って先に進むと、左手が伐採によって開けていて絶好の展望地である。そのままくぐれば車道に出て、道標に従って光明山から妙見山を縦走して、能勢電鉄で帰る。

次は豊能町川尻からの登路を二つ示そう。一つはよく紹介されているもので、池田駅前の西隣のビルから余野・牧行きになり、北摂信愛園前バス停、または平野バス停から、石造文化財を見学しながら法輪寺を経て天台山に登るものである。



平野バス停から橋を渡って、道なりに細い舗装道をたどる。古道は右側の谷にあつたが今では通ることではない。車道に出合つたら、右手の道標の直上のやぶに少し踏み込むと、茶臼な石仏が見つかる。やぶの先の道は古道だが荒廃して通れないので車道を上る。右への分岐に入つてすぐに古道の狭い出口を右手前に見つけることができる。左に板碑と供養塔を見て、車道を横断し、狭いコンクリート道をたどれば、法輪寺に到着する。

光明山遍照院法輪寺は、「豊能のくらし」神社と寺院（豊能町郷土史研究会、平成五年）によると、弘法大師が天長五年（828）に創立したと伝わり、江戸期の宝暦年間の火災で旧記を失つたため、縁起寺歴は不詳だが、法輪寺と勝尾寺の地形の類似性が指摘され、勝尾寺の開成皇子の開基とも推測されている。寺のパンフレットの縁起では、天平宝字四年（768）の開成皇子の御草創と伝えられる。

山門を入つて右の観音堂の建物ももと打越の阿弥陀三尊石仏をまつてある場所にあつたものを移築したもので、正観と天台山中腹（岩清水）にあつたが、この山から見渡せる尼崎の漁師が田地蔵様が光つて鱈がとれないというので、この地に移したという。それ以来地元では「イワシ見ずの観音さん」と呼ぶ。南北朝期の正平七年（1352）の造立で、川尻で最も古いものである（「豊能町の石の文化財」豊能町教育委員会、平成八年改訂）。

法輪寺の名僧住職の話によると、昭和二十八年当時、既にもとの岩清水から水は出なくなつていたらしく、その場所も訪れたことはなく分らないという。「豊能町誌」で、弘法大師が観音堂に汲んだと伝えた岩清水も今では名のみを残すばかりである。

石仏をあとにして、左に大きな石積みを見ながら打越という地名が示唆する山越えの古道に入る。薄暗い道だが、丸い石が目についておもしろい。岩清水はこの道のどこにあつたのであろうか。右手に流れが近づくと、すぐ離れてジグザクの石ころ道となる。右手に猪之谷橋が大きく見えたあと、古道らしくなる。やがて、分岐点に着く。直進する道は中腹をへつりながら吉川へ向かう古道で、橋木

音をまつる。境内は昭和二十八年12月から平成十年2月まで住職であつた当年76歳の名僧住職、宮崎龍昇氏がきれいに手入れをされ、いつでもすっきりとしている。観音堂の前には樹齢は不明だが菩提樹の古木があり、庫裏の前にはよく整えられた伽藍木がある。前庭築山と観音堂前には、南北朝の後期の宝篋印塔がある。

左手の本堂には、ご本尊の阿弥陀如来（三尺二寸）のほか、薬師如来・不動明王などをまつる。正面の庫裏には、この寺の信仰の対象仏である出世大黒天（弘法大師作と伝わる）がまつられていて、秘仏のため、甲子の年に六十一年に一度の御開帳という（最近昭和五十九年）。また、江戸期の牛頭天王社と八大竜王社を継承した明治期の川尻水田神社（村正）にまつられていた、牛頭天王像と竜王の御神体である自然石（長き前尊）とが大黒天の隣に安置されていて、名僧住職にお願いして、両方を拝観することができた。明治四十年に東熊村（現在の豊能町）の全村社を木代の走落神社に合祀した時に、この神石を走落神社へ運ぼうとしたら重くて動かなかったといひ、法輪寺に

がしてある。赤テープに従つて右へ上るのが天台山への登路である。尾根から右手の中腹をたどり、再び尾根、そして分岐で右にへつると、伐採跡の展望地で、山頂は左手のほうにある。

帰りは元の道を戻り、625石ピークの手前の分岐で右をとり、尾根伝いに進む。途中で古道を横切つてそのまま行く。左手に急なくだり道があるがバスして尾根を歩く。雑木林のなかを行くと鉄塔が右手にあり、そのあと、尾根の右側をへつり、鞍部を越えてくだり道になる。左手の急斜面に岩場が現れ、右側の谷にも石が目立つ。鉄塔への登り口を過ぎ、へつり道になれば地は近い。やがて、川尻の段方の集落に出て、右にくだる細い舗装道をたどれば、庚中塔婆のある車道の隅に出て、金石橋を渡つて北摂信愛園前バス停に着く。バスは1時間に一本なので、往路の平野バス停でメをしておくとよい。

時間待ちの間にバス停の南側の分岐道を上がり、北摂信愛園の右手から地道をたどつて、旧池田街道の道標や力士の墓、地蔵石仏、宝篋印塔などを探すのもよい。また平野バス停に戻つて、妙法寺前を過

行くというとき軽く動いたという話も聞くことができた。

寺を辞し、法輪堂の塔（中央は文和四年、1355年）の前から細い道を上る。墓地に至るための橋梁橋にさしかかるが、その手前で左側の山道に入るのが古道である。道標がないので分かりにくい。あとは道なりに登れば、分岐点に安政二年の石標があり、右をれば車道に出る。左へ進み、切り通しで右の山道に入れば天台山の西の鞍部に達する。

川尻からの登路の二つ目は、やはり平野バス停からたどる。広い車道に入り、法輪寺への右の分岐道に入るすぐ手前にある左手のコンクリート道をくぐる。出た所に中の谷多摩石仏と板碑がある。この右上が公園になっているが、公園の左手奥に「村社 水川神社跡地」と刻まれた石碑がある。この場所にかつて竜王の御神体と牛頭天王像がまつられていたのである。

先の石仏の所を過ぎてくだり、すぐ右手の道に入る。道は細いがこれが古道で、ほとんど車道に出合う。右に上がると打越阿弥陀三尊石仏がある。この石仏はも

ぎ、少し上で左に進んで木代たぬきやぶ多摩石仏を見て来るのも楽しい。  
石仏巡りには、清水俊明「関西石仏めぐり」(創元社)や「豊能町の石の文化財」の冊子、「豊能町観光イラストマップ」(豊能町観光協会)などがあると大変便利である。

(平成10年3月22・26日、4月11日歩く)

#### △コースタイム▽

能勢電鉄妙見口駅(30分)鉄塔(45分)  
青貝山(50分)鉄塔(1時間)妙見口駅  
平野バス停(20分)打越(1時間)天台  
山(40分)鉄塔(40分)北摂信愛園前  
バス停

△地形図▽2万5千1:10000  
・阪急バス(池田案内所)

0727-51-2552

0727-39-0001

0727-39-11232

0727-39-11232







六嶽八幡宮(神幸祭) 一箕各駅(約8時・家族同) 参加自由・無料 神鉄観光事業部078(521)03221

▽神鉄ハイキング「公管稲刈秋まつり」 10月10日(祝) 天中止(集合) 五社駅10時40分(コース) 五社駅→すみれ台→丸山ダム→丸山→公管稲刈(秋まつり) 同帰駅(約11時・家族同) 参加自由・無料 神鉄観光事業部078(521)03221

▽神戸新聞社・テイリスポーツ 創刊記念三社集中ハイイク「菊水山」 10月18日(雨) 雨天は10月25日(日)に順延(神鉄・阪急・山陽ハイイクが各社のコースで菊水山をめざします。山頂からは明石海峡大橋が一望できる。参加自由・無料)

▽神鉄ハイキングコース  
 (集合) 西舞鶴駅乗降時5分(コース) 西舞鶴駅→若影町→イヤガ谷東尾根→輪道→菊水山→輪道台駅(約9時・一般同) 神鉄観光事業部078(521)03221

(山陽ハイキングコース)  
 (集合) 西代駅前(本社前) 10時(コース) 西代駅→高取山→丸山

一鶴越→菊水山→神鉄輪道台駅(約10時・建地同) 須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520

(阪急コース) は阪急電鉄・山の係066(3713)53226へ問い合わせるかば報をください。

▽山陽ハイキング「三岐緑地公園ハイイク」 9月6日(雨) 雨天中止(集合) 須磨浦公園駅10時(コース) 須磨浦公園→鉢伏山→旗塚山→山陽車水駅(約7時・家族同) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520

▽山陽ハイキング「日岡山公園ハイイク」 9月20日(雨) 雨天中止(集合) 加古川河川敷公園(高砂駅下) 東北東0.5km(コース) 河川敷サイクルロード→水筒橋→日岡神社→日岡御殿→日岡山公園→新井城跡→教員寺→西の方→流の宮(約15時・一般同) 参加自由・無料 須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520

▽山陽ハイキング「御津町イモ掘りハイイク」 10月4日(雨) 雨天中止(集合) 10月10日(日)に延期(集合)

合 山陽輪道台駅下(西)約0.3kmの指原川河川敷(約10時) (コース) 指原川河川敷→片原→山所山(イモ掘り)→高取山→龍岡寺→大見寺→網干駅(約10時・家族同) 参加自由・無料 (イモ掘り) 関係同) 須磨浦遊園ハイキング係078(731)2520

▽三岐鉄道  
 △鈴鹿の山を歩こう「宇賀渡砂山」 9月5日(雨) 雨天中止(集合) 近鉄富田駅三岐線ホーム9時(コース) 富田駅(電) 大安駅(バス) 宇賀渡キャンプ村→山腹道→五階滝→長尾滝→砂山道→砂山→宇賀渡キャンプ村(バス) 大安駅(電車) 富田駅(約8時・初心者同) 参加自由・参加費200円(バス代別送、三岐鉄道運輸課観光係0593(61)2141)

▽鈴鹿の山を歩こう「初秋の藤原岳」 9月26日(雨) 雨天中止(集合) 近鉄富田駅三岐線ホーム8時(コース) 富田駅(電車) 西條原駅→大自戸道→藤原岳→忠孝寺道→西條原駅(電車) 富田駅(約9時・一般同) 参加自由・参加費200円(三岐鉄道運輸課観光係0593(61)2141)

▽鈴鹿の山を歩こう「秋涼の電ヶ岳」 10月4日(雨) 雨天中止(集合) 近鉄富田駅三岐線ホーム8時(コース) 富田駅(電車) 大安駅(バス) 宇賀渡キャンプ村→五階滝→ヨコ谷台合→中道→電ヶ岳→石神峠→小峠→旧道→網干駅→宇賀渡キャンプ村(バス) 大安駅(電車) 富田駅(約12時・健脚同) 参加自由・参加費200円(バス代別送、三岐鉄道運輸課観光係0593(61)2141)

▽鈴鹿の山を歩こう「秋涼の御地岳」 10月18日(雨) 雨天中止(集合) 近鉄富田駅三岐線ホーム8時(コース) 富田駅(電車) 西條原駅(バス) 御地岳登山口→コケルミ谷→御地岳→鈴北峠→鞍掛峠(バス) 西條原駅(電車) 富田駅(約11時・一般同) 参加予約申込制200名・参加費200円(バス代100円別送) 三岐鉄道運輸課観光係0593(61)2141

▽これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報も読んで下さい。

# せせらぎ

## 題字・小林澄子

鈴鹿山脈の完全縦走  
 鈴鹿の山を歩き始めてから約40年、長い間の命題を完結することができました。

「昨年の暮れで、残りのコースが15程になっていましたが、昨年の秋からまた縦走を目的とする山行を再開し、昨年の暮れには残りあと10コースまでになっていました。

1月3日、今年の歩き初めに最も困難であると思われる「長尾」(五嶽と谷山の間)を柏原まで歩き、1・2月に続きを歩いて消化し、4・5月に残りのコースを全て歩きました。

鈴鹿山脈の「北は柏原から、南は鈴鹿峠を越えて油日岳」までの直線距離は60km余りですが、

歩いた総延長では1000km位はあったでしょう。歩いたコースは全部で32のコースに分けましたが、連続縦走は小生では体力的に無理なので、これも仕方がありませんでした。

完歩後の感想は、縦走路を歩く人が少ないというのが実感です。良い道の所も少しはありますが、相当地道が荒れていて、さらに道など元々無い所もありました。

ピーク(三角点)ハンター・沢歩き・尾根歩き・縦走など、何れも山歩きの一つの方法です。で、どれがよいか、悪いという事はありません。

小生が鈴鹿岳で始めた「池探し」も今年で10年目になり、2

年前からは霊仙山でも始めました。

このような目的をもって登山道以外を自由に歩く、山行もよいものだと思います。

(山田 明男)

今年の早春、兵庫県山岳連盟の発足50周年を記念して「兵庫の50名山」が指定、発表された。すでに完登している人、あと三座とか五座の人、これから頑張る人など多くの人を知ること。指定された山峰の山麓の集落ではこれを機会に山頂までのコースを整備し、登山者を迎えたいと情を出している所がある。

兵庫県で1000m峰の南端に位置する黒尾山山麓の一宮町「西安殿」である。江戸時代から続く行場があり、年に一度、山頂までのコースに手を入れたが、いつしかそれも立ち消えになっていった。今回の指定を機に、この池・不動の滝を経て虚空蔵院根までの道を新設し、登山口には手作りの道標、道路には登山口までの案内矢印などが、地区全体の奉仕作業で完成した。

○新ハイキングサービステーション

子・親への登山、小白倉→大向山→甲子・新井への縦走登山、1名でも登山の誘導可能(要予約) 週末限定と同等料金

福島・二岐温泉  
 日観蓮 大和館  
 〒965-2116 011-211-1111  
 福島県福島市天栄村二岐温泉  
 電話 0246-841111 0246-841111

新井安楽 真田屋  
 〒307-1101 030-711-1114  
 群馬県吾妻郡新井町新井安楽温泉  
 電話 0276-0199 011-1111

富田登山・富士五湖  
 富田登山・ハリモ(純林)  
 三回山の館  
 〒430-0101 053-022-1111  
 山梨県南都留郡山中湖町平野町  
 電話 0535-518515

大宮・白根・御坂の山岳縦走分岐点  
 大宮・白根・御坂の山岳縦走分岐点  
 パス印付登山道(下)車道分岐点  
 山岳縦走登山道(下)車道分岐点  
 〒404-0202 053-022-1111  
 山梨県山中町山岳縦走登山道  
 電話 0535-518515







田代表と相談した結果、山行日の7日以前に着付した申し込みはかきと電話については、まことに不本意ながらお断りする事になりました。登山口の地蔵峠へは、マイクロボスが三台しか乗り入れられないので、100名を超えそうな山行希望者全員の名を乗車が出来ない。その理由からですが、ご希望にそえなかった皆さんには、当方に不行き届きがあった点おわびいたします。

そのほかにも、直前に急用ができた、体調がおもわしくないなどの理由でキャンセルされた方や、JR京都駅で③番ホームで待たれたため、①番ホーム発(平日)の電車に乗れなかった方々もあったようです。

このような事情から、同山城へはまた入山希望があると判断し、6月例会とは逆コースでの再山行を30月22日に企画しました。本号の「山行計画」に案内しておりますように、前回のみずみずしい新緑とは一変して、全山燃え立つような紅葉葉の原生林を歩く予定です。

すから、会員外での希望者は、直ちに入会された方がいいかでしょう。 (前中 野)

岩波新書の「山の自然学」という本をご存知でしょうか。山の自然学とは、著者によれば「登山者のみなさんが山で見える風景や地形、高山植物など、山の自然全体をそのまま研究対象にした、ごく素朴で素人的な学問」だそうですが、数年前、この著者の編による「山の自然学入門」(古今書院)と、そして「日本山はなぜ美しい—山の自然学への招待」(同)という書物に出会って以来、山の自然学という発想にとっても心ひかれていきます。

「山の自然学」のなかには、「江戸時代からの花の名所」として「花の山脈—鈴鹿山脈」と「植物研究の発祥地—伊吹山」が紹介されていますが、とりわけ藤原岳と伊吹山の植物の豊かさを賞賛し、その要因としてどちらの山も「木州のもっとも狭くなった場所」に位置している植物の通路になりやすい、「石灰岩からなる」「冬季は多雪であ

る」と解説しています。その伊吹山から北へのびる屋根も植物が実に豊かで、季節ごとに数々の花が咲き乱れるのです。

そんな伊吹北屋根の4月から11月までを毎月歩いてみようと思ひ立ち、まずこの秋の9月から、自然観察ハイキングシリーズとして計画してみました。

植物を中心に、山の自然をたっぷりとかつ、ゆっくり味わってみたい、あるいはより多くの花を賞えたい、という方々にぜひご参加いただければと思っております。 (鷺見 守康)

6月4日、例年より早い梅雨入りのなか、天気良好との予報。勇躍、ブナノ木峠山行参加のため、早めに自宅を出発。いつものように、京都駅③ホームへ行き、そこで先着のM・M・N・Sさんたち四人の女性と雑談。さらに数人の女性が交来られたので、近くにあった山行参加常連の男性Sさんと「電車はまだか」などとノートンキに談笑。そのうちに肝心の電車は、向かいの①ホームから発車。いつものまに

か、多数いた女性会員の姿も見当たらず、Tさんも含め男性三人だけが取り残されていた。落胆のあまりそのまま直帰。とりあえず新ハイ関西本部に、三人が無断不参加でなかったと、リーダーへの伝言をお願いした。機内では、ヤケ酒さみの飲みすぎ。翌朝は二日酔いだが、自ら招いた失態への腹立ちを解消気分は爽快。

一、改めて自覚「男は鈍感・愚鈍それに対し、女は敏感・機敏」

二、今後留意「京都駅8時17分発近江今津行きは、平日③と上日①と乗車ホームが別」

三、女性へのお話し「気がついてたら男性にも教えてね。でもそんな余裕はなかったかも」

四、自戒「時間的余裕だけではダメ。同行者多数と一緒にでも、泊旅大歓迎。常に同行者の行動に注意が必要」

五、自認談「たまのヤケ酒さみの飲みすぎは、二日酔いになっても精神衛生上必要」

最後になりましたが、やむをえない事情があったとは言え、リーダーならびに山行参加者の

方にご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。 (吉藤 幸次)

婦省のたびに心に抱いていた故郷の山—南宮山。少年時代に母が「南宮山が白くなった。明日に雪が降る」とよく言っていたのを思い出す。五十年も昔、南宮大社の祭りの折につつ咲く神社の裏山の南宮山に登ったことはあるが、展望台まで行ったかどうかは記憶が定かでない。退職してからゆとりができ、母の法事を機会に6月4日早朝、横濱を発った。車窓から南上がりの南宮山を眺め、登りたい衝動にかられた。

展望台までは整備された道で迷うことはない。展望台には双眼鏡が備え付けられており、30分近くも遠尾平野、そして遠く東那山を心ゆくまで堪能した。展望台から2万5千の地形図を手に2等三角点のある本峠をめざしたが、一つのピークを越えた所でやがて突っ込んでしまった。帰路に分かったことだが、少し遅に進んで明るい踏み跡をたどればよかった。

ササ原に傷のない三角点を発見し感動した。冠嶺道の樹間からは伊吹山と生れ育った故郷の町が眺められ、感傷に浸った半日でした。 (加藤 仁三)

六月山行報告

2日 車大蛇倉(大台ヶ原山) 柱石・磐石とも数箇所確認。

4日 伏見公民館「大和の峠を歩く」鳥川峠・壺置山へ。55名。

7日 「やまご地形図の会」池坂の道・皿巻多摩・内成寺。51名。

9日 皿巻峠(鹿沼)へ。

12日 「さくら会」民俗公園・矢田寺(あじさい)・松尾山。20名。

15日 「大和親歩会」府民の森のあじさい一時峠・南生駒。45名。

16日 皿巻谷峠(滝原)へ。計383名。28%。

21日 「点のつどい」高山竹林園・IV功殿(雨で変更)。15名。

25日 「餅一番」伊勢本街道・高井・石割峠・上田。38名。

27日 「関西地図の会」協会・勉強会「地形図雑談」と題して、初分話。(上田 健史)

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| 標高2000m以上の温泉<br>湯の丸温泉自然体験林<br>ハイキングにXCSキー<br>高 峰 温 泉<br>〒3084-0000<br>長野県小市町湯の丸<br>電話 0266-1-25200 | ハイキングに「スキー」に<br>石の湯ロッジ<br>〒3084-0000<br>長野県小市町湯の丸<br>電話 0266-1-25200 | 標高2000m以上の温泉<br>湯の丸温泉自然体験林<br>ハイキングにXCSキー<br>高 峰 温 泉<br>〒3084-0000<br>長野県小市町湯の丸<br>電話 0266-1-25200 | 標高2000m以上の温泉<br>湯の丸温泉自然体験林<br>ハイキングにXCSキー<br>高 峰 温 泉<br>〒3084-0000<br>長野県小市町湯の丸<br>電話 0266-1-25200 |
|--|--|--|--|

|  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| 北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー<br>J民営登山北八ヶ岳登山口まで<br>送迎します<br>登山用品<br>〒330-0103<br>茨城県北八ヶ岳町高原丸丸55<br>電話 0266-61-6726 | 日本唯一の女人禁制の山「大<br>峯山」(百名山)の登山口<br>桶村「女」コースもあり<br>温泉・名水の里<br>旅館 紀の国屋 甚八<br>〒308-0043<br>茨城県北八ヶ岳町大川村桶村<br>電話 0266-476-4103 | 九州の最高峰・日本百名山<br>宮之浦岳に一番近い宿<br>屋久島安房登山口<br>〒899-1431<br>鹿児島県志布志市安房町<br>電話 0997-463322 | 御在所登山に<br>愛知川登山(沢歩き)<br>山歩き自問の集う宿<br>朝明茶屋<br>〒510-1255<br>三重県三郷町野崎千草<br>電話 0566-3931-1789 |
|--|---|--|---|



**山行計画**  
(9・10月)

※ハイキングクラブ専用

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるはかばか金員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のはかに参加名簿代その他の資料代をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例金の参加費全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料月額50円と被保険者費月額50円合計100円(発行日通りの発行日より200円)を支払っていただきます。(発行日通りの発行日より200円)を支払っていただきます。(発行日通りの発行日より200円)を支払っていただきます。(発行日通りの発行日より200円)を支払っていただきます。

登山の対象は集大時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・サイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③氷・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所内の事故 ⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)  
(往復ハガキを使用)

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)  
期日  
住所 〒  
氏名  
会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)  
電話番号  
生年月日  
緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」を記入してください。

鈴鹿を歩く66  
御金明神(健脚向き)  
期日 9月6日(日) 日帰り  
集合 打粟尾・神崎橋(大塚) 8時30分  
コース 広場(志) 神崎川林道終点(白滝谷)合合(天狗滝) 広沢川合合(御金明神) 神崎川林道終点(志) 広場(健脚) 道終点(志) 広場(健脚) 交通費名目・保険代  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」

費用 約2500円  
係 ①岩井 期 ○山本久雄  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺山大野10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
神崎川ルートから御金明神に参拝します。雨天中止

鈴鹿・仙ヶ岳(健脚向き)  
期日 9月6日(日) 日帰り  
集合 J'R名古屋中央改札口 7時15分/J'R関西線亀山駅 9時  
コース 名古屋駅(電車) 亀山駅(タクシー) 車止め(宮林小屋) 御所谷合合(えん堀) 尾根越(仙ヶ岳)

費用 約3000円(交通費・宿泊代等)  
地図 昭文社「四国剣山」  
係 昭文社  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺山大野10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員20名(会員に限る)  
明石海峡大橋柱で四国に入り、西日本第一の高峰剣山と静寂の山三嶺の二山を縦横を縦走します。三嶺遊歩小径は自然です。雨天中止

山行例金の実施について  
山行例金は保険を掛けたり、登山届けを出したりするので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要がある場合があります。また山ではいかなる事態が発生するかも知れない緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。申し込みの返信案内は担当が決まり次第、山行日の10日前頃になります。早くから申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

初心者同 やさしいコース  
(初級) などでも歩けます  
(一般) ハイキングの標準コース  
(中級) かなり経路者のコース  
(やや健脚) ・(健脚) は、危険な所があり、キツイ登りや、くだりが長く続くコースと、ご理解ください。

費用 約4000円(バス代・保険代等)  
地図 2万5千円 冠山  
係 ①鶴見守康  
申込み 〒504-0828  
各務原市藤原村道町1の19の5 鶴見まで  
\*定員17名(会員に限る)  
冠山峠からのハイキングコースを秋の花を眺め歩き、美濃湖のジャンタルムとも称された名峰の山頂から大展望を楽しみます。自然観察と写真撮影に相う不規則な歩き方が苦にならない方はご参加ください。バスは貸切です。  
小雨決行

費用 約2000円(大阪から)  
地図 2万5千円 大原・京都東北  
係 ①松元一彦 ②山村 登  
申込み 〒556-0008  
大阪府城東区扇田4の14の9の901 松元まで  
\*定員30名(8月31日まで)

①仙の石(不動明王)宮  
林小屋(石水溪)バス停  
(バス) 亀山駅(16時40分頃解散)  
費用 約3500円(名古屋から)  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」  
係 ①小山辰春  
申込み 〒448-0002  
刈谷市一里山町一里山59の99 小山まで  
白谷の渓谷を歩行びしながら登って行きます。下山は連続したピークの海根根をくだります。  
\*申し込みハガキに集合駅を明記してください。雨天中止

①東電修学館(解散)  
費用 約2000円(大阪から)  
地図 2万5千円 大原・京都東北  
係 ①松元一彦 ②山村 登  
申込み 〒556-0008  
大阪府城東区扇田4の14の9の901 松元まで  
\*定員30名(8月31日まで)

①東海自然歩道を歩く(7回)  
東海自然歩道を歩く(7回)  
水井山から積善山・比叡山  
(一般向き)  
(新ハイキング支部合同)  
期日 9月6日(日) 日帰り  
集合 J'R京都駅南バスターミナル7時40分  
コース 京都駅南(バス) 野村岐れ(仰木峠) 水井山(積善山) 津土院(大比叡) ケーブル比叡駅(東海自然歩道を歩く)

①四国山  
期日 9月12日(土)~14日(日)  
2泊3日  
集合 ①2日 J'R京都駅八条西口 近鉄改札前7時30分  
コース (12日) 京都駅(バス) 見ノ瀬(剣山山頂) ヒュンテ(池) (13日) 剣山山頂(ヒュンテ) 次郎及(丸石) 伊勢の岩屋(白髪遊歩小屋) 三嶺(三嶺遊歩小屋) (14日)

①三嶺遊歩小屋  
東海自然歩道を歩く(7回)  
費用 約2000円(大阪から)  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ岳」  
係 昭文社  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺山大野10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員20名(会員に限る)  
明石海峡大橋柱で四国に入り、西日本第一の高峰剣山と静寂の山三嶺の二山を縦横を縦走します。三嶺遊歩小径は自然です。雨天中止

①三嶺遊歩小屋  
費用 約3000円(交通費・宿泊代等)  
地図 昭文社「四国剣山」  
係 昭文社  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺山大野10の10  
新ハイキング関西まで  
\*定員20名(会員に限る)  
明石海峡大橋柱で四国に入り、西日本第一の高峰剣山と静寂の山三嶺の二山を縦横を縦走します。三嶺遊歩小径は自然です。雨天中止

①三嶺遊歩小屋  
費用 約4000円(京都から)  
地図 昭文社「京都北山2」



係 ⑤ 日向智俊  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田まで

初秋の風を感じながら展覧の良  
い朝市山へ登ります。小雨決行

平日本権ハイック47  
豊前三山(中取向き)

期日 9月19日(日) 日帰り  
集合 JR山陰線八木駅8時25  
分(30分発のバスに乘車)

コース 八木駅(バス) 檜畑一  
尾崎 地蔵山 滝谷一電  
ヶ岳 雲石山 表参道一  
清滝(解散)

費用 交通費各自  
地図 昭文社「京都北山」  
係 ①前中 ②西上利和  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

期日 9月19日(日) 20日(月)  
1泊2日

奥秩父・瑞穂山(一般向き)  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

コース 大塚駅(バス) 国見峠一  
国見宿一太走山一御座峠  
一節鳥ヶ原一菅又一ささ

費用 約2000円(交通費)  
地図 昭文社「比良山系」  
係 ①今西光男  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

費用 約1800円(合席料を)  
地図 昭文社「比良山系」  
係 ①川上久登  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

費用 約1800円(合席料を)  
地図 昭文社「比良山系」  
係 ①川上久登  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

期日 9月22日(日) 日帰り  
集合 出町駅京都バス乗り場  
7時40分(45分発)乗車

期日 9月22日(日) 日帰り  
集合 出町駅京都バス乗り場  
7時40分(45分発)乗車

集合 (19日) JR大津駅5時  
コース (19日) 大津駅(バス)  
瑞穂山(池)

費用 約23000円(バス代・  
前泊代)

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

費用 約23000円(バス代・  
前泊代)

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

れ石公園(バス) 大塚駅  
費用 約8500円(バス代・  
保険代)

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 JR西線加太駅前9時  
加太駅(車) 登山口一旧  
抽之木峠一鐘崎一錫杖ヶ  
岳(往復コース) 加太駅

係 ⑥ 小山良香  
申込み 〒448-10002  
刈谷市一里山一里山59  
の33 小山まで

石畳の残るヒノキ林のなかを伊  
勢神宮の聖門を守護するといわれ  
る山、朝霧ヶ岳を歩きます。下山  
は内谷へ出ます。申し込みハガ  
キに集合時刻を明記してください。  
雨天中止

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 国道477号線・大朝宮  
谷出合広場8時30分

費用 交通費各自・保険代  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ  
岳」

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 JR東海道本線大塚駅8  
時40分



コース 北大路駅(バス)岩屋橋  
—志願院—茶臼山—榎  
ヶ岳—城戸園境尾根—天  
童山—茶臼山—電ヶ坂—  
山岡小学校(バス)飯急  
大宮駅(解散)—J.R.京  
都線  
費用 約3500円(バス代)  
地図 昭文社「京都北山」  
係 ◎前中 級 ◎西上利和  
◎水尾店一  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
北山の名山数ヶ岳から城戸園  
境尾根へ。雨天中止

平成之大馬鹿門陣の建つ  
室山とおしき山(一般向き)  
期日 10月3日(土)4日(日)  
1泊2日  
集合 (3日) J.R.嵯峨駅南出  
口9時30分  
コース 嵯峨駅(バス)山崎(バ  
ス)西河内—室山—三室  
高原野外活動センター  
(泊)  
(4日) 野外活動センター  
—松ノ木橋—飯馬見溪谷  
—おしき山—後山—松

ノ木橋(バス) 姫路駅  
(17時30分解散)  
装備 1前山行装  
費用 約3000円(交通費・  
宿泊代・食料費)  
地図 2万5千円 西河内  
係 ◎須磨岡 橋  
申込み 〒671-1262  
姫路市余部区上余部50の  
2の11 須磨岡まで  
\*定員30名  
3日の夕食、4日の朝・昼食は  
全員で作ります。食料は用意して  
いますので施をふるってください。  
雨天決行

鈴鹿を歩く57  
御池岳・奥の平・頭陀の窟  
(健脚向き)  
期日 10月4日(日) 日帰り  
集合 御池林道・小文谷分岐広  
場8時30分  
コース 分岐広場—御池林道—8  
78峠—918峠—南峰  
—奥の池—東のポタンブ  
チ—真の谷—頭陀の窟—  
土真谷合—巡視路—ノ  
タノ坂—小文谷—御池林  
道分岐広場(解散)  
費用 交通費各自・保険代

昭文社「雲仙・伊吹・  
蓼原」  
地図 ◎長野 明 ◎山本久雄  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
ブナ林の段から御池南峰に  
登り、東のポタンブチから真の谷  
にくぐります。(29号・49ページ、  
33号・44ページ参照)。雨天中止  
湖東・三上山から妙光寺山  
(一般向き)  
期日 10月4日(日) 日帰り  
集合 J.R.名古屋駅中央改札口  
7時30分/J.R.野洲駅9  
時45分  
コース 名古屋駅(谷津)野洲駅  
(バス)山出前—三上山  
裏道登山口—三上山—こ  
かけの谷—古代峠—妙  
光寺山—唐原山—御池寺  
唐原山—野洲駅(16時頃  
解散)  
費用 約3700円(名古屋か  
ら)  
地図 2万5千円 野洲  
係 ◎小出良春  
申込み 〒448-0002

東海自然歩道を歩く(8回)  
比叡山から三井寺(一般向き)  
(新ハイキング文部会編)  
期日 10月4日(日) 日帰り  
集合 京阪電車石山駅本線本  
駅9時  
コース 京阪本線—三井寺—  
根本中道—大雲堂—池福  
寺—近江神宮—三井寺  
費用 約2000円(大阪から)  
地図 2万5千円 京都東部  
係 ◎飯元一彦 ◎中村 登  
申込み 〒536-0008  
大阪府東区関白4の14  
の9の20 塚元まで  
\*定員30名(9月27日ま  
で)

彩られた道歩きながら地図とコ  
ンパスの勉強をします。初心者欣  
迎。シルバーⅡ型コンパスと指定  
の地図を持参してください。  
雨天中止

八ヶ岳・碓氷岳から天狗岳  
(中級向き)  
期日 10月9日(日)夜、11日(日)  
2泊3日(車中1泊)  
集合 (9日) 京都駅八条西口  
近鉄改札口21時30分(夜  
行バス)  
コース (10日)(バス)美濃戸  
口—美濃戸—南沢コース  
—行者小屋—赤岳温泉—  
赤岩ノ頭—碓氷岳—夏浪  
峠—オーレン小屋(泊)  
(11日) オーレン小屋—  
根石岳—天狗岳—黒岩合  
平—奥野温泉—波の湯  
(入浴後・バス) 京都駅  
(19時30分解散)  
費用 約6000円(バス代・  
宿泊代等)  
地図 昭文社「八ヶ岳・碓氷」  
係 ◎野田智俊  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
村田まで

\*定員45名(会費に募金)  
紅葉はすでに終わっていますが、  
静かな樹林のなかを歩きます。も  
ちろん展望もあります。雨天決行  
週末ハイク10  
比良・登瀛岳(中級向き)  
期日 10月17日(日) 日帰り  
集合 J.R.湖西線比良駅8時50  
分  
コース 比良駅(バス)イン谷口  
—ノタンホリ—登瀛岳—  
金葉峠—八雲ヶ原—カラ  
岳—比良登山リフト山麓  
駅(バス)比良駅(解散)  
費用 約3300円(入浴代等)  
地図 昭文社「比良山系」  
係 ◎野野東彦 ◎加藤元彦  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
湖西線から見上げると、三角形  
の姿が美しい登瀛岳。東麓から  
ひたすら登ります。下山はリフト  
の下の道を山麓駅へくだります。  
小雨決行

鈴鹿を歩く68(総特別コース)  
高室山・テラノ(健脚向き)  
期日 10月18日(日) 日帰り  
集合 河内線・河内風穴の手前  
寺院広場8時30分  
コース 寺院広場(車)アサハキ

谷手前広場—遠走路—7  
35峠—777峠—高室  
山—777峠—テラノ—  
720峠—鉄塚—アサハ  
キ谷広場(解散)  
費用 交通費各自・保険代  
地図 昭文社「雲仙・伊吹・  
蓼原」  
係 ◎野野 明 ◎山本久雄  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
\*マイカー山行  
原牛林を彷彿とさせる高木の深  
い樹林と、高室山からの大パノラ  
マを楽しめます。雨天中止

山の寺と岩壁峰に遊ぶ  
鈴鹿・不動明王院根と仙ヶ岳  
(健脚向き)  
期日 10月18日(日) 日帰り  
集合 石水溪・望仙荘御座車場  
7時30分  
コース 石水溪—石谷川—不動明  
王院—仙ノ石—仙ヶ岳—  
御座谷—石水溪(16時頃  
解散)  
費用 保険代(交通費各自)  
地図 昭文社「御在所・鎌







山行報告  
(5・6月)  
新・イキングクラブ



九州の山

由布岳・熊山・祖山  
5月1日(初) 5日(四) 4泊5日  
(1日) 神代六甲アイランドフ  
リーのりん東合17・15(出港18・  
00)(船中)  
5日(初) 翌日時時時時 大分港き・  
00(10) (バス) 山崎登山口6・  
50(7) 05(合野通) 7・45(マタ  
エ8・55(由布東峰) 9・15(マタ  
エ9・25(由布西峰) 9・45(マタ  
エ10・10(合野通) 00(由布岳  
登山口) 25(昼食) 12・10(バス  
(湯布院ハイム) 12・15(入浴)  
13・30(バス) 緒方町上相良宿  
(本) 16・50(宿)  
(3日) 翌日) 上相良宿6・35  
(バス) 九折坂山跡6・45(55(一  
カンカケ水場跡) 6・05(林道湯合  
9・25(九折坂) 10・35(後原) 11・  
45(木桶) 12・00(昼食) 13・00(一  
五葉塚) 13・30(アオスズ谷湧流水  
場) 14・05(三ツ坊主ルート) 14・

40(三ツ塚) 15・10(林道湯合) 16・  
15(九折坂山跡) 16・55(17・15  
(バス) 竹田市「トラベルイン吉  
富」と「ホテル上原」18・00(宿)  
(4日) 快晴) 竹田市6・40(バス  
(5) 五ヶ所7・30(35(一の鳥居  
8・30(北谷登山口) 9・05(千間  
平) 9・55(四重峠) 10・25(祖母山  
11・05(昼食) 11・55(四重峠) 12・  
00(千間平) 12・30(夜食登山口) 13・  
10(一の鳥居) 13・35(一の鳥居) 14・  
40(バス) 大分港17・05(出港) 18・  
25(船中)  
(5日) 曇り) 神代港着7・00  
(解散)  
心配した天候もまずまずで、マ  
マキリシマがちらちら咲く由布  
岳へ、そして標高差12000分の  
祖母山は、10時間かけて縦走し、祖  
母山では約25(林道湯合) 14・55(一  
の長土場を2人が完登した。足元  
濡れた方もいましたが、大きな事  
故もなく全員元気に帰着し、や  
や健闘向きだったかな。  
(参加者) 小田利子 井林芳奈子  
細久子 宮本真奈 宮本優子  
森川由子 平野美子 小高フジ子  
森田久子 中村静香 中路加代子  
明神成行 竹田利夫 草野智穂子  
横井 敏 横井尚子 安田文美江

大平 都 谷 久雄 上山早三  
上田正子 宮崎裕子 佐田次男  
古部信廣 瓜取利明 三井敏一  
向田 豊 石田哲二 森 暁代  
小田晴美 湯浅次男 (計16名)  
◎後野重彦  
◎後野重彦 (計33名)

群生池11・00(昼食) 12・00(こ  
つかり山) 12・10(夫道) 13・00(取  
立林道終点) 13・15(東山) 13・  
15(森) 13・40(車) 藤山温泉  
センター「水芭蕉」14・20(入浴・  
解散)  
天候に恵まれ、三雨共に白山連  
峰を展望しながら歩いた。今年ほ  
すでに雲も消え、新緑のなかに春  
の花がいっぱい。取立山の「スバ  
シヨウ」もちょうど開花だった。山  
で生き返った楽しい連休の山行だっ  
た。  
(参加者) 小林 松 上井恵芳子  
南 利恵 長尾裕美 豊田真理子  
入江武史 野崎敬孝  
網本美恵子 (安否止勝)  
◎村田智俊 (計10名)

5月3日(初) 5日(四) 2泊3日  
(3日) 雨のち曇り) 勝山中原  
林道終点駐車場集合10・30(昼食)  
12・30(小原峠) 13・15(30(赤丸  
山) 14・00(赤丸平) 14・20(車)  
(4日) 晴れ) 遊舞小屋7・35(一  
赤丸山) 7・50(8・00(小原峠) 8・  
50(9・00(八長山) 10・30(11・  
00(小原峠) 12・10(20(途中の水  
場) 12・30(昼食) 13・30(小原林  
道終点駐車場) 14・15(30(車) 横  
倉(あまご沼) 15・20(車) 横  
倉(5日) 晴れ) 横倉8・00(車)  
東山(この日の夜) 8・25(35(取立  
林道終点) 14・10(15(取立山  
10・20(35(取立平) スパシヨウ

5月4日(初) 晴れ  
JR東原集合9・10(タクシー)  
養老池9・40(10(浮き輪) 10・55(一  
見晴) 11・25(お虎) 池12・10(一  
見晴) 山12・30(昼食) 13・05(霊  
仙山(三角山) 13・20(最高峰) 13・  
25(養老池) 00(養老池) 14・  
10(14(15(20(1(15(55  
1(10(17(00(解散)  
快晴で林道にかなりの車が駐

てある。すれ違う人も多く、経塚  
山・三角山・最高峰と人がいっぱい  
だった。展望もすばらしく、伊  
吹・巻老・比良・鈴鹿の山々と長  
良湖が見え、そして緑のシユウタ  
ンのイブキやナと赤い屋根の廻廊  
小橋。春つらのなか、いつまで  
もいたい気分だった。  
(参加者) 高野留男 中津吉五郎  
渡辺達郎 川上久堅 橋本賢二 高  
本剛 藤 賢三 藤 藤村ゆかり  
岩城豊子 伊藤 真 田中慶子  
武部 剛 中村博男 瀬戸内伸子  
寺田久広 國松泰雄 井上利恵子  
井上達一 鈴木敏彦 中尾美穂子  
田中 明 谷口文子 藤本紀子  
松村雅子 花巻佳子 (計26名)

20(1) 谷部曲山9・30(第二尾  
根) 10・10(賽のボタン) 10・  
11・20(コボク) 11・30(50(一  
ブナ) 12・00(13・00(一  
おむさん) 14・00(14・00(一  
ゴ) 14・45(15(14・00(一  
山) 14・10(14・10(14・10(一  
サラサラと流れるゴ) 15・00(一  
曲線からは岩壁を渡る険峻となる。  
尾根への取り付きに予備とるが、  
行みどろになってコボクの基部  
に到着する。ブナ植帯のお父さん  
ブナと一杯やって、おむさんブナ  
の木根に触れ、元気ですかとい  
きつてからト山する。ブナの芽  
吹き合宿は、「来生もやりまし  
う」で解散した。  
(参加者) 高杉 博 武村千鶴  
岩崎 明 小林 実 小田杉子  
合岡民代 (木村吉秀 (計8名)  
◎筒井亮治

5月9日(初) 晴れ  
植野社駐車場集合9・30(10(車)  
小峠須美谷大石橋) 9・40(40(東  
海) 10・10(宮指) 11・35  
(昼食) 12・45(小峠須美) 13・00  
(大石橋) 14・30(40(車) 植野社  
15・00(解散)  
植野・宮指岳(三重の山) 20  
5月9日(初) 晴れ  
植野社駐車場集合9・30(10(車)  
小峠須美谷大石橋) 9・40(40(東  
海) 10・10(宮指) 11・35  
(昼食) 12・45(小峠須美) 13・00  
(大石橋) 14・30(40(車) 植野社  
15・00(解散)

5月10日(初) 曇り  
黒滝集合8・30(5(太鼓) 林道  
終点9・30(ペンケイ) 9・55(舟  
石) 10・15(小太郎) 10・35(一  
シ) 10・55(1(ヨ) 11・40  
(昼食) 12・25(1(ヨ) 1(石  
注) 13・55(1(ヨ) 1(石  
田) 14・15(5(黒) 16・20  
(解散)  
登りの林道では山ヒルが出現え  
てくれた。後継からは南麓の名  
峰がすうりと花を散らす。特  
に小太郎行跡・御前平・グミの



本車のアネの折線は花のように並開  
とりどりの折線が花のように並開  
思い出に現るすばらしい山行だっ  
た。

(参加者) 橋本正人 小林 登  
中川博史 吉本泰之 池田彦彦  
大石修夫 鈴木 由 田中順子  
木村精忠 渡辺孝子 奥井幸生  
吉田博二 河辺敬男 和田四郎  
山田敏三 谷 守 奥田貞雄  
◎登野 明 (計18名)

湖北・奥枯ノ峰  
5月10日(日) 晴れ  
JR木ノ本駅集合9:40、50、泉  
枯ノ峰11:30(昼食)12:45、青  
山寺13:20、40、田上山分岐14:  
10、木ノ本駅15:15(解散)  
木ノ本駅から町内を抜けて登山  
道に入ったが、奥枯ノ峰へ(一等宮)  
まで道標やテープ印は皆無であつ  
た。緑のトンネル道と静かな寺院  
に立ち寄り、心地よいハイキング  
ができた。下山は田上山の尾根コ  
スを歩いた。

(参加者) 稲本芳雄 芝野泰明  
岡本真幸 吉本貞子 大音綾枝子  
岡本真代 三井敏一 砂原恵美子  
中村博孝 藤本紀子 砂原恵美子  
小坂博子 岡田登美 山崎多恵子

比良・武奈ヶ岳から観谷ヶ峰  
5月14日(日) 晴れ  
比良イン谷口9:30、タケ道を登  
て八雲ヶ原10:55、11:05、武奈  
ヶ峰12:05(昼食)40、地蔵山14:  
15、30、ホボフタ峠15:20、30、  
観谷ヶ峰16:20、35、桑野橋18:  
00(バス)安曇川駅18:40(解散)  
さわやかな汗明けのもと、念  
願だった奥比良完全踏破を達成し、  
5月14日(日) 晴れ  
比良イン谷口9:30、タケ道を登  
て八雲ヶ原10:55、11:05、武奈  
ヶ峰12:05(昼食)40、地蔵山14:  
15、30、ホボフタ峠15:20、30、  
観谷ヶ峰16:20、35、桑野橋18:  
00(バス)安曇川駅18:40(解散)  
さわやかな汗明けのもと、念  
願だった奥比良完全踏破を達成し、

5月12日(日) ◎今西光男  
雨天のため中止しました。  
(参加者) 定28名

5月14日(日) 晴れ  
比良イン谷口9:30、タケ道を登  
て八雲ヶ原10:55、11:05、武奈  
ヶ峰12:05(昼食)40、地蔵山14:  
15、30、ホボフタ峠15:20、30、  
観谷ヶ峰16:20、35、桑野橋18:  
00(バス)安曇川駅18:40(解散)  
さわやかな汗明けのもと、念  
願だった奥比良完全踏破を達成し、

東海自然歩道を歩く(6回)  
鞍馬から天ヶ岳・大原へ  
5月17日(日) 曇りのち晴れ  
観音橋駅集合9:00、37、薬王  
坂9:55、10:05、戸谷峠10:50、  
11:05、三又山11:20、天ヶ岳  
12:20、鉄塔止場12:30(昼食)  
13:50、鞍馬山分岐14:40、林道  
出合15:17、大原バス停15:47  
(解散)  
前日の雨が朝のうち少し降った  
ため不参加者が多く出た。長い車  
道歩きを避けて天ヶ岳のピークを  
踏み、送電鉄塔下で昼食と山座同  
定。熱心な地図読者レッスン山行  
だった。(新ハイ関西支部合同)  
(参加者) 藤川信之 加藤元彦

5月17日(日) 曇りのち晴れ  
観音橋駅集合9:00、37、薬王  
坂9:55、10:05、戸谷峠10:50、  
11:05、三又山11:20、天ヶ岳  
12:20、鉄塔止場12:30(昼食)  
13:50、鞍馬山分岐14:40、林道  
出合15:17、大原バス停15:47  
(解散)  
前日の雨が朝のうち少し降った  
ため不参加者が多く出た。長い車  
道歩きを避けて天ヶ岳のピークを  
踏み、送電鉄塔下で昼食と山座同  
定。熱心な地図読者レッスン山行  
だった。(新ハイ関西支部合同)  
(参加者) 藤川信之 加藤元彦

5月19日(日) 晴れ  
JR近江八幡駅集合8:00、10、30  
(バス)西園寺バス停9:50、1表  
栗田との分岐10:10、15、15、松林  
道10:50、11:00、水鏡山入口11:  
50(朝上往復)12:15、松林道11:  
50(昼食)13:45、金明水14:00  
15:00、10、水鏡山道との分岐15:  
30、40、御幸峠15:55(解散)バ  
ス)近江八幡駅  
晴天で、蒸し暑くなく涼しい風  
あり。山頂からはやややすんでは  
いたものの、雨をよそやすんでは  
いたものの、雨をよそで踏む所など  
の長大な鈴鹿の山並みが眺められ  
た。少しいそがしかったが、多く  
の方に水鏡山の頂上を往復して  
もらった。  
(参加者) 芝野泰明 稲本芳雄

島 初子 吉市祐康 名倉マサ子  
斎藤 隆 斎藤彰子 松本ユキ  
平大樹子 三井敏一 橋野茂子  
菅生幸子 中川光郎 嵯峨まさみ  
入江武史 磯野順夫 若木いずみ  
梅田久子 北川良子 ◎中村 登  
◎田中三恵子 ◎飯元一彦 (計22名)

5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ

5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ

川原原道 若松初子 小原きぬ子  
佐橋新一 佐藤彰子 瀬戸内伸子  
松山みつ 岸本徳美 宮城敏彦  
岡松龍雄 中村登一 小林伊佐子  
清水 保 大橋元吉 砂原恵美子  
瀬里静香 清水昭三 久世美紗子  
渡辺静郎 和田 京 水谷美恵子  
巻田 晃 平 幸子 岡原知天  
中川博史 上田久子 吉田ノノ子  
土井 茂 若木修一 若木幸男  
藤原満男 血原結子 村井 武  
風野正弘 藤 嘉子 武部美英子  
奥山登三 新治信子 大木久子  
菅生幸子 坂月敏幸 山崎加奈子  
古岡義枝 岡本和子 川端敏子  
近藤敏子 岡本幸代 中尾博子  
◎加藤元彦 ◎新井哲夫  
◎川上久彦 (計20名)

5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ

5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ

5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ  
5月20日(日) 晴れ

アップダウンの繰り返しを一生  
懸命に歩き、奥六甲の自然を満し  
ました。  
(参加者) 立川郁夫 小林 敏  
三宅 明 眞田久子 砂原恵美子  
松井義典 松井節子 森実智美子  
秋田美穂 新家義隆 柳川常雄  
藤野忠男 宮内順子 千原千枝子  
磯野順夫 平政英子 江坂美智子  
川上久彦 増田国広 英田幸子  
木村太郎 南山 敏 辻 嘉子  
チェンサムスン 藤原公代  
奥山登三 相原敏子 磯野敏子  
藤田恵子 ◎青木一雄  
◎加藤元彦 (計31名)

5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ

5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ

5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ  
5月23日(日) 晴れ

支那の湧き水は、ことさらにおい  
しくてのどを冷やしてくれまし  
た。  
(参加者) 田中 明 広田不修子  
近藤 恭 森田芝 松尾一郎  
熊木雄雄 三井敏一 瀬江香子  
土部信雄 木村光江 瀬戸内伸子  
国松俊彦 中尾初子 砂原恵美子  
若松初子 三浦弘幸 千原千枝子  
筒林武哉 佐賀新一 島 初子  
眞田久子 磯野順夫 賢田守康  
川上久彦 中尾敏子 左海敏子  
田中登三 杉本 高 黒川ワメ子  
細野敬也 杉本 高 黒川ワメ子  
安良純史 安良陽子 砂多野恵子  
松本美恵子 藤田明子 井林寿美子  
佐々木美千代 野々山則美  
湯澤次男 渡辺達郎 岡田久美子  
大谷登子 岡田豊治 川西美智子  
磯合優子 馬場源次子  
新木美恵子 ◎加藤元彦  
◎新野孝彦 (計48名)

5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明

5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明

5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明  
5月24日(日) ◎登野 明

花背の三本杉から知地路谷山  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ

5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ

5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ

5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ  
5月26日(日) 晴れ







○大分口9・30(45)・2(11)・15  
 途中の宿舎1・25(12)・12  
 00(12)・40(15)・伊勢辻12  
 55(15)・伊勢辻13・00(15)・伊勢辻  
 13・10(15)・雲ヶ瀬山14・40(15)・高  
 見(入)15・30(15)・小峠16  
 20(15)・高見山17・00(15)・(バス)  
 横原16・00(15) (解散)

朝になって由の予報に急変した  
 が、予定通り元気に全行程を歩い  
 た。伊勢辻山の山頂では雲が切れ  
 金剛・葛城方面が展望できた。縦  
 走路ではツナニリが慰めてくれた。  
 (参加者)高岡正男 宮村孝次郎  
 加藤正彦 堀 良男 宮本善幸  
 宮本悦子 近藤 恭 横井 敏  
 森山信之 木村光江 湯澤次男  
 吉藤孝次 眞田久子 中井ひろみ  
 多智周二 多賀久子 千原千枝子  
 堀 久子 三耳敏二 山添加奈子  
 占部智廣 健川幸三 吳比佐史  
 眞田明子 岡松義雄 井林美奈子  
 岡田春英 森田初子 竹内喜久子  
 秋吉節枝 田中 誠 田中喜美江  
 青木一雄 入江武史 砂原康美子  
 森 晴代 瀬里洋香 福澤 章  
 渡辺達郎 若松朝子 前田政雄  
 清林武親 松本康哉 橋本喜久夫  
 鈴木敏彦 美村孝治 和田四郎  
 石田豊美 入見正信 西田美津子

内本悦子 八木敏光 岩田智士  
 上田正子 木村正弘 木村代子  
 伊藤 真 吉本泰之 吉本美奈子  
 安倉正徳 松田好子 (計33名)  
 ◎村田智彦

鈴鹿神前部の山を大縦走  
 高畑山・那須ヶ原山・油日山  
 高畑山(夏山のトレッキング)  
 6月28日(日) 曇り  
 1日(雨) 鈴鹿総合7・30(中) 鈴鹿峠  
 7・30(高畑山8・20) 30(油日山)  
 山9・10(下) 峠9・30(10) 00  
 1(那須ヶ原山11・20(昼食) 12・  
 30(二国峠) 油日山14・20(40)  
 林道(1) 油日山16・20(15(茶) 重慶)  
 関原17・30(解散)

高畑山はガスがなかった。坂下  
 峠から先も、みちるちゃん・ラッ  
 キーといっしょに汗をかきこくに  
 する。お昼はゆっくり、キレット  
 の厳しいアップダウンも、黄色い  
 雨とラッキーの運氣な姿に萌ま  
 せ、油日山は滑りつくばるよう  
 に登った。無事によかった。みなさ  
 まおつかれさま。  
 (参加者)大石裕美 加藤てみ  
 武村千鶴 橋 孝子 橋ひろる  
 藤田勝利 時高貴隆 林 弘敏

中村健次 西合正彦 河合敏代子  
 高杉 博 河辺修男 今川良代  
 小島敏光 北野靖士 平 龍一  
 谷 幸子 永口裕治 菊谷ひろ子  
 平 守 神野孝丸 嶋岡たか子  
 ラッキー ◎木村正彦  
 ◎前井吉治 (計36名と一匹)

比叡ササリを訪ねて純谷ヶ峰  
 6月30日(祝) 晴れ  
 出町柳駅集合7・40(45) 純谷ヶ  
 峰9・05(15) 宿の湯場(純谷ヶ  
 峰11・30(昼食) 12・15(スキー  
 場) 入部谷(1) 武留口(バス停) 15・  
 05(解散)

ササリは残念ながら遅くて充  
 分な花は見られませんでした。登  
 山道にはオカトラノオ・イチヤク  
 ソウ・タケニクサなどが咲いてい  
 ました。晴天に恵まれ、楽しいハ  
 イキングができました。  
 (参加者)川原謙一 久留美紗子  
 長坂佑美 石原君子 吉岡義枝  
 若松朝子 三浦弘幸 若松寛  
 松山みつ 安部陽子 白根寛子  
 辻行子 戸根 茂 辻 富子  
 高木 智 北尾信枝 前田政雄  
 森 崇代 見延 操 宮下陽子  
 池水 保 伊藤みほる  
 ◎今西光男 (計27名)

お知らせ  
 ○「山行計画」は各号(9・10  
 月)も定員指定(会員に限る)  
 のコースが多くなりました。交  
 通機関・前泊所の都合や山の状  
 況に応じてやむを得ず変更して  
 いますのでご了承ください。  
 定員制の申し込みは「本会報」  
 に行っています。定員を超えた  
 場合は、返金ハガキで即断り  
 の連絡をしていますが、断りの返  
 信がない方は、定員内で参加の  
 受け付けをしています。実働要  
 項がはつきりしてから山行案内  
 を返信します(約10日)ので、  
 それまでお待ちください。  
 ○当会の山行リーダーの上村操  
 さんが、さる6月2日に永眠さ  
 れました。昨年3月より体調を  
 崩され、当会の山行参加は昨年  
 11月16日(即)の「八ヶ峰」が最後  
 となりました。心よりご冥福を  
 お祈りいたします。

新ハイキングクラブ関西  
 入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西  
 の山」(隔月刊・年6号発行)の  
 定期購読者を中心としたハイキン  
 グの集いです。  
 この雑誌は、紀行文やコースガイ  
 ドなどで、関西のハイキングコー  
 スや山の情報を発信しています。  
 山の知識を深め、情報豊かで健康  
 な身体をつくり、自然のなかを歩  
 く喜びをともに広めましょう。  
 「新ハイキングクラブ」は昭和  
 25年発足以来、東京を中心に48年  
 間も好評のうちに活動してきました。  
 関西は平成3年発足で8年目  
 に入りますが、すでにたくさんの方  
 が会員が活動しています。  
 会員は当会の山行例会に優先し  
 て参加できます。この山行例会を  
 通じて正しい山歩きを、楽しい山  
 仲間たちと味わいませんか。  
 リーダー(2名)はすべて無償の  
 奉仕で、各自で切符を買って旅代を  
 払い、宿泊料もすべてワリカンで  
 す。  
 会員には毎月「新ハイキング関  
 西の山」をお送りします。  
 四季の自然に触れながら歩き、

若々しい心と健康をいっつも持  
 続するのはすばらしいことです。  
 これから始めてみたい人も、す  
 でにベテランの人もみなさんご入会  
 いただけます。  
 入会金 3,000円(パスジ代)  
 年会費 3,000円(送料共)  
 入会の中し込み(初年度)はこの  
 雑財に導入の初期会費をご利用く  
 ださい。氏名(ふりがな)及び第  
 何号からの送金かを忘れずにご記  
 入ください。  
 なお、定期購読をご希望される  
 方も会員になつていただきますと、  
 毎号雑誌にお土産に届きますので  
 便利です。  
 切手500円分をお送りになれ  
 ば、「新ハイキング関西の山」見  
 本誌1冊さしあげます。

- 新入会員紹介  
 新しのお仲間のみなさんです。  
 会費合計3,699番から3,741  
 番まで
- 【東京】 山中謙一郎
  - 【千葉】 長友 信
  - 【愛知】 長坂昌甫
  - 【愛知】 栗本敏夫 栗葉 邦
  - 【滋賀】 高橋成子
  - 【滋賀】 中尾和子 加藤友道
  - 【京都】 尾延 操 孫井洋子
  - 【京都】 坂本友重 朝倉善寛 新倉洋子
  - 【奈良】 田中千恵 朝田健代
  - 【奈良】 渡辺朝子 辻本芳高
  - 【大阪】 吉田 徹 山本富子
  - 【大阪】 木下 守 香川勝彦 柳谷真実枝
  - 【奈良】 寺岡千代子
  - 【奈良】 岡本正敏 岡本いく子
  - 【奈良】 杉本善夫 森沢善信
  - 【和歌山】 山村和江
  - 【和歌山】 岡 幸雄 岡 導子
  - 【和歌山】 茂田芳夫 岡本英樹 宇野好子
  - 【和歌山】 玄田眞子 木村正彦 岡 時子

訂正とお詫  
 41号(69号)12ページ下段を行  
 日「提示したは」は「提示した  
 のは」が正しい。  
 41号(69号)26ページタイトル  
 「日本山車」の読みは「にほん  
 さんかくし」が正しい。27ページ  
 上段を行日「兵衛」の読みは  
 「へい」が正しい。同ページ上  
 段19行日「小倉理太郎」は「木暮  
 理太郎」が正しい。  
 41号(69号)42ページ中段18行  
 日「中岳」は「中峠」が正しい。  
 44ページ上段23行日「798・7  
 97」は「798・797」が正しい。  
 41号(69号)49ページ左上写真  
 の説明「ペイドシャー・モスク」  
 は「ペイドシャー・モスク」が正  
 しい。同ページ中段25行日「櫻子」  
 は「雪」が正しい。  
 41号(69号)99ページ下段10行  
 日「清九郎」は「清九郎」が  
 正しい。同ページ上段11行日「高  
 伯重」は「高伯重」が正  
 しい。(編集長)

本誌のパックナンバー  
 大阪梅田のヘービスプラザ  
 3Fの「トラベルキャクリー」  
 旅の本舗「ヘービス大飯店」に全  
 円を常備しています。